

官報

號外

明治三十五年三月五日

水曜日

印刷局

第十六回 衆議院議事速記録第二十四號

明治三十五年三月四日(火曜日)午後一時九分開議
議事日程 第二十三號 明治三十五年三月四日
午後一時開議

第一 沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第二 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計可ノ件ニ關スル法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第四 (第五號)明治三十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第六號)明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第五號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第五 (第六號)明治三十四年度歲入歳出總豫算追加案
(第二號)明治三十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第二號)明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第六 (第六號)明治三十四年度歲入歳出總豫算追加案
(第二號)明治三十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第二號)明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第七 (第六號)明治三十四年度歲入歳出總豫算追加案
(第二號)明治三十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第二號)明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第八 (第六號)明治三十四年度歲入歳出總豫算追加案
(第二號)明治三十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第二號)明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第九 (第六號)明治三十四年度歲入歳出總豫算追加案
(第二號)明治三十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第二號)明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第十 (第六號)明治三十四年度歲入歳出總豫算追加案
(第二號)明治三十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第二號)明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第三號)豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

第十一 市町村會議員及市參事會員ニ關スル法律案(本院提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 岐阜縣下郡界變更法律案(市岡政吉外)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 不動產登記法中改正法律案(浦野健平外)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 年齡計算ニ關スル法律案(持田若佐提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 戶籍法中改正法律案(宮原幸三郎外一名提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 民法中改正法律案(安部非魯根外三名提出)
第一讀會

第十七 救貧法案(安藤龜太郎提出)
第一讀會

第十八 太麻嶺布ニ關スル建議案(福島一造提出)
第一讀會

第十九 皇祖神武天皇御陵並權原神宮御大前及御陵道改修費補助ニ關スル建議案(瀧口歸一外)
第一讀會

第二十 不要存置林緣故拂下方法ニ關スル建議案(西村真太郎外二名提出)
第一讀會

○議長(片岡健吉君) 報告ヲ致シマス
政府ヨリ登錄稅法中改正法律案ヲ提出セラレタリ

官報號外

明治三十五年三月五日(三月三十一日第三種郵便物認可)

衆議院議事速記録第二十四號 議長ノ報告

五〇三

貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ

礦業法案

貴族院ハ本院ノ送付ニ係ル政府提出案砂糖消費稅法中改正法律案及本院提出案蟲害地租特別處分法案電害地租特別處分法案ヲ可決シ地租條例中改正法律案ニ對シ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨同院ヨリ通牒アリタリ

議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セラレタリ

狩獵法中改正法律案

提出者 鳩山 和夫君 降旗 元太郎君 淺香 克孝君

大塚 成吉君

福田久松君ヨリ米國ニ於ケル米作ニ關シ、鈴木萬次郎君山口熊野君ヨリ齒科醫養成ニ關シ質問主意書ヲ提出セラレタリ

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

米國ニ於ケル米作ニ關スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十五年三月四日

提出者 福田 久松 贊成者 杉下太郎右衛門 外三十一名

質問主意書

一米國政府ハ曩ニ我カ米種ヲ輸入シテ試作セシメシニ其成績非常ノ好結果ヲ得タリト聞ク政府ハ既ニ右ニ關スル詳細ノ事實ヲ知レリヤ否ヤ若シ之ヲ知ラハ詳細ノ說示ヲ求ム

齒科醫養成ニ關スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治三十五年三月四日

提出者 鈴木萬次郎 山口 熊野 贊成者 福田 久松 外三十名

齒科醫養成ニ關スル質問主意書

政府ハ齒科醫ノ養成ヲ不必要ナリト認ムルヤ第二 政府ハ齒科醫學術專修ノ學校ヲ設立スルノ考案ナリヤ

第三 政府若シ專門學校ヲ設立スルトセハ其時期如何

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ會議ヲ開キマス

○島田三郎君(三十七番) 議長

○議長(片岡健吉君) 何デスカ、島田君

○島田三郎君(三十七番) 質問ノ說明ヲ……

○議長(片岡健吉君) 外ニマダ先キガアリマス——諸君ニ御諮リスルコトガアリマスガ、諸願委員會長ノ菅原傳君カラ、唯今諸願委員會ヲ開キタイト云フ申出ガアリマシタガ、許可シテ御異議アリマセマカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス——鈴木萬次郎君

○鈴木萬次郎君(二十六番) 私ハ後ニシマシテ、島田君ヲ先キニ……

(島田三郎君演壇ニ登ル)

○島田三郎君(三十七番) 諸君、安部井磐根君外二名ヨリ提出致シマスル、會計検査院ニ關スル質問書ノ説明ヲ、諸君ニ御聽ヲ煩シタリと思ヒマス、此事ハ數年ニ涉リテ居リマス問題デ、若シ健忘症ニ罹リテ居ル國民、若クハ議會デアツタナラバ、此ノ如ク數年ニ涉リテ、過去ノコトニ屬スル如キコトニ、耳ヲ傾ケルコトガムツカシイデアラウト思ヒマス、併ナガラ本員ノ自ラ信シテ、我衆議院ハ事ノ大小輕重ニ依ッテ、或ハ是ヲ輕シ、或ハ是ヲ重シズルノ判斷力ガアラウト思ヒマスカラ、議會ノ終ラントスルニ當ッテ、地方ノ私ヲ遂ゲンガタメニ、種々ナル議案ヲ提出シテ止マザルコトハ、本員甚ダ不賛成デゴザイマスルガ、此ノ如キ重大ナル關係ノアルモノハ、過去トシテ是ヲ忽セニスルコトガ出來ヌト、斯様ニ考ヘマシテ、安部井磐根君外兩君ノ提出セラレマシタルコトニ盡ク同意ヲ致シマシテ、本員ガ又其提出者ノ一人トナツテ、全體ハ再度マデ安部井磐根君ガ、第十三議會、第十四議會ニ於テ、質問書ヲ出サレテ、説明ノ勞ヲ取ラレマシタ、今回モ亦其熱誠熟考ノ力ニ依リマシテ、安部井磐根君ニ説明ヲ願フ譯デアリマスガ、同君ノ身體上、頗ル此説明ニ附イテ、他ニ讓ル方ガ宜シト云フ考デアツタニ附イテ、本員ガ安部井君ニ代テ、説明ノ勞ヲ取ルコトニナリマシタ、他ノコトデモゴザイマスガ、會計検査院ニ關スル不法背理ノコトニアツタ、此議會ヨリ内閣ニ向ッテ、再度質問致シマシタガ、事ヲ左右ニ託シテ其要領ヲ得マセヌ、其要領ヲ得マセヌコトハ、過去ニ於テ過失ヲ悛メザルノミナラズ、將來ニ於テ同一ノ危險ヲ起スダラウト思ヒマスカラ、之ヲ忽セニスルコトガ出來マセヌ、故ニ再ビ此議會ノ諸君ノ御聽ヲ煩スコトニナツタデゴザイマス、ツマリ既往ヲ攻ムルト云フコトノ精神ヨリハ、寧ロ將來ヲ大ニ戒メテ、斯ノ如キ害ヲ再ビ犯サナイヤウニシタイト云フノガ、本員ノ最モ志トスル所デゴザイマシテ、全體ニ國民ガ甚ダ過去ノコトヲ忘レル病ガゴザイマスルノデ、事重大デ、頗ル國ノ規律ニ關係シマス、社會ノ取締ニ關係スルコトモ、一度問ヒ二度問フテ要領ヲ得マセヌト、遂ニ之ヲ拋擲致シマスヌメニ、當局者當路者ハ矢張何時マテモ事ヲ等閑ニシテ置ケバ、國民ガ之ヲ忘レルト云フノ隨性ヲ惹起シマシテ、世ノ中ニ知ラレル時間ハ、甚ダ憂フベキコト、思ヒマシテ、即チ高野孟矩君ハ不法ニモ、終身官ヲ免黜セラレタル如キ、或ハ小澤武雄君ガ議會ノ中ニ演說シタルガタメニ、終身官ヲ奪ハレタル如キコトハ、貴族院衆議院ニ於テ屢問題ニナルニモ拘ラズ、唯當局者ハ日月ヲ過シテ居レバ、ツレナリテ宜シイト云フ隨性ニ陷リテ居リマス、ツレト同事ニナツテ居ルノハ、即チ安川繁成君ガ會計検査官ヲ不法ニ奪ハレタル事件デゴザイマス、此事ノ手續ハ、其根柢ニ於テモ甚ダ道理ニ背イテ居リマス、其手續ニ於テモ甚ダ規則法律ヲ侵シテ居ルト、本員ハ考ヘル、唯本員ガ考ヘルノミナラズ、當路者ハ斯様ナルコトヲ言ッテ居ルノデ、會計検査院ト云フモノハ、獨立ノ官衙デアルガ故ニ、其内部ニ於ケル決議ハ、内閣總理大臣ハ之ニ與ラズシテ、之ヲ取次グダケノコトダカラ、致シ方ガナイト云フ如キ答辯ヲシテ居リマス、ツレニ就イテ此質問書ヲ提出致シマシタノデゴザイマスガ、全體會計検査院ノ如キ、獨立ノ官衙

ニ相違ゴザリマセヌケレドモ、獨立ノ官衙ト云フモノハ、法律ノ内部ニ於ケル手續ニ干渉スベカラザル獨立デアツテ、其事全ク法律ニ背キ、事理ニ背イテ居ルト云フコトデアツタナラバ、此院議ヲ執奏致シマスル所ノ國務大臣ハ、責任ヲ執ッテ、此事ニ就イテ自己ノ意見ヲ、矢張奏上スベキダケノ職責ガアルト云フノハ、本員竝ニ提出者ノ見解デアルノニ、内容ハ之ニ反對ノ見解ヲ執ッテ居リマスノガ、從來マデ同一ノ危險アリト本員ハ考ヘル、其第一ノ理由デゴザイマス、此ノ如ク簡單ニ申シマスルト、此事ノ由來ガ甚ダ分リ惡ウゴザイマスカラ、記憶ニ乏シキ健忘症ノ社會ニ向ッテハ、一應其由來ヲ訴ヘルノ必要ガアルト思ヒマス、此事ハ此席ニ居ラル、所ノ諸君ハ、詳細ニ御承知ノコトデゴザイマスカラ、本員ハ概略ノ要領ダケヲ御話スルノデゴザイマスガ、明治三十年三月八日ニ、前ノ検査院長渡邊昇君ガ、検査院法ニ背イテ、院ノ會議ヲ經ズ、總會議ヲ經ズシテ、此検査院法ノ第十五條績ノ一部ヲ、上奏シタルコトニ起ツタノデゴザイマス、此検査院法ノ第十五條ケレドモ、此ノ如キ上奏ハ院ノ決議、即チ總會ヲ經テ決定シタモノヲ、上奏ケレドモ、検査官ハ矢張裁判官ノ如ク、其身分モ保障セラレテアルト同時ニ、各自獨立ノ意見ヲ持ッテ居ルノデゴザイマスカラ、検査院ノ決議デナイモノヲ、上奏スル所ノ權利ガナイト云フノガ、爭ノ本ト爲リマシタ、此權利ガアルト意見ヲ立テタル所ノ院長竝ニ之ニ黨與致シマスル所ノ多數ノ検査官ト、是ニ異議ヲ唱ヘマシタル所ノ人ミト問ニ、爭ガ起リマシタノデゴザイマスルガ、本員ノ見解ハ、又會計検査院法並ニ事務章程ニ依ッテ、確ニ各検査官ハ即チ獨立ノ意志ヲ持ッテ居ルガ故ニ、院長ト云フモノハ其上席ヲ占メテ居ル、即チ裁判ノ院長ノ如ク、各自ノ検査官タル資格ニ於テハ、他ノ検査官ヲ無視スルコトハ出來ナイト、本員ハ斯様ニ解釋ヲシテ居ルガタメニ、此上奏ハ不法デアルト、斯様ナル結論ニ達スルノデゴザイマス、此事ガ内部ノ二ツノ議論ニ分レテ、上奏ノ抗議ヲ無視シタト雖モ、明文上此ノ如キコトガアルガタメニ、多數ヲ以テ之ヲ壓セントシテモ、此抗議ヲ壓スルコト能ハズ、其極遠ニ此四人ノ抗議者ヲ不法ノ決議ヲ以テ退官セシメタト云フノガ、即チ社會ノ表面ニ現レマシタ所ノ不法行為デゴザイマス、前ニ申シマスル通、検査官ハ恰モ裁判官ノ如ク、各自獨立ノ地位ヲ保障シテ居ラレマスルカラ、之ヲ退官セシムルノハ、退官セシムル所ノ手續竝ニ規則ガアルノデゴザイマス、其法律ハ如何ナルモノデアアルカト申シマスルト、明治二十九年法律第九十一號ニ、検査官ヲ罷メサセマスルノハ、身體若クハ精神ノ衰弱ニ依ッテ、職務スルコト能ハザルニ至リタルトキニハ、検査官ノ會議ヲ以テ之ヲ除ク——斥ケル、此決議ガ出來ルダケノコトデ以テ、隨意ニ之ヲ斥ケルコトハ出來ヌノデゴザイマス、然ルニ尙ホ注意ヲ致シテ置キマスルモノデ、身分ヲ動シマスル重要ナル事項ハ、検査官會議、即チ會計検査院長、部長竝ニ検査官ト云フ、是ダケノモノヲ寄セシタル集合體ヲ、検査官會議ト申シマス、検査院會議ト云フノハ、平生検査事務ヲ扱ヒマストキニ、検査官補ヲ入レマスノハ検査院會議ヲ要シマスカラ、検査官會議ヲ要シマス、事務ヲ處理スルニハ検査院會議ヲ要シマスカラ、検査官會議ヲ要シマス、ツレ故ニ二ツノ理由ガアル、斥ケラル、人ガ身體若クハ精神ノ衰弱デ

執務スルコト能ハザルモト云フコト、執務スルコト能ハザルヤ否ヤト云フコトヲ認メマスノガ、検査官會議ニ依ルト云フ、此本人ノ身體精神ニ異狀ガアルト認メマスル所ノ會議ト、二ツノ必要ノ條件ガアルノゴザイマスルノニ、當時ノ検査院長渡邊君ハ、其一味ノ者ヲ率井テ、此二ツノ事項ヲ無視シタル所ノ結果ヲ呈シタノデゴザイマス、即チ己自ラ不法ノ行為ヲシテ、其不法ノ行為ヲ答メル人ヲ除カンガタメニ、更ニ不法ノ手續トシテ、不法ノ行為ヲヤシタト云フコトデアリマス、其不法トハ如何ナルコトカト申シマスル、第一ニ決議ヲ致シタル所ノ組織ガ不法ナルハ、検査官會議ト云フモノニアラズシテ、検査院會議ノ體裁デアル、検査院ノ總會ハ検査官ト並ニ缺席ガゴザイマスレバ、検査官補ヲ三分ノ一マデ列席セシメテ、其缺ヲ補フト云フノデ、平生ノ事務即チ検査ノ事務ヲ行ヒマス、一ノ決議法集會法デアル、所ガ此安川繁成君、吉田市十郎君、持田直澄君、關宗喜君ノ四人ノ異論者ヲ除クト云フ、此四人ヲ列席セシメズシテ、其缺ヲ補フニ検査官補ヲ以テシテ、此總決議ニ依ッテ四人ヲ除イタノデゴザイマス、而シテ當時ノ事情ハ如何ト云ヘバ、安川繁成君、其他三人ノ検査官ハ、イツモノ如ク矢張検査院ニ出席シテ、事務ヲ執ッテ居ラレタ、事務ヲ執ッテ居ラレタガ、此四人ノ検査官ニハ通知ヲ致サズシテ、斯ノ如キ不法ナル會議ヲ召集シテ、是ヲ決議シタノデゴザイマス、然ル所法律ニハ、本人ノ身體若クハ精神ノ衰弱ニ依ッテ、執務スルコト能ハザルニ至リタルトキト書イテゴザイマスガ、此四人ノ本人ト云フモノハ、其前モ事務ヲ執リツ、アツテ、決シテ缺席ガナクシテ、其當日モ矢張事務ヲ執リツツアツテ缺席ヲセズニ居ッタノデゴザイマス、身體ノ衰弱ト云フコトハ、執モ見ルコトガ出來ヌ、然ラバ精神ハ衰弱シテ、今マデノ事務ガ果シテ支離滅裂デアッタカト云フニ、決シテ左様ニアラズシテ、傍觀者本人ノ如キモニシテ評セシムレバ、法律ノ解釋ハ確ニ四人ノ方ガ正當デ、多數ノ人ノ解釋ガ、皆間違ッテ居ルノデアル、若シ精神衰弱デ支離滅裂ト云フナラバ、院長始ヨリ事務ヲ見ル精神ガ亂レテ居タ、本員ハ評シテ宜シイ、是ガ事實デアル、是等ノコトヲ世ノ中ガ打捨テ、一度破レタモノハ其儘ニシテ、打捨テ、置クト云フノゾハ、國ノ紀綱ハ決シテ立タナイ、即チ本員ハ數年前ノ事タリト雖モ、今日聲ヲ止メズシテ、諸君ニ訴ヘルノハ、斯様ナ譯デアル、其後ノ結果ニ於テ、本員ノ議論ヲ證明スルニ足ルト思ヒマス、斯ノ如キ不法ヲ決議ヲ以テ、此四人ヲ除クコトニ致シマス、當時ノ總理大臣ニ是ヲ取次イダ、是ハ陛下ノ聰明ニ對シテ、吾々臣民ハ恐縮ニ堪ヘヌ、明瞭ニ法律ヲ破ッテ居ル、明瞭ニ條理ニ背イテ居ル、是ヲ取次イダハ知ラズシテ取次イダモノカト云ヘバ、此四人ノ検査官ガ抗議書ヲ作ッテ、是ヲ總理大臣ニ呈シタガ、總理大臣ハ此抗議書ヲ無視シテ、當時ノ渡邊検査院長ノ不法ナル奏議ダケヲ取次イダ、是等ノ人ヲ退職セシメタノデアリマスカラ、今ニ至ッテ吾々ガ論ズル所ハ、内閣ハ斯様ナコトモ、獨立會議デアレバ致方ガナイト、取次グノガ正當カ、不當カ、本員斷シテ不當ナリト申ス、其後屢々内閣モ變リ、此不法ナル行為ヲ爲シタル検査院長モ、唯今ハ退イテ居リマスガ、其一味ノ検査官ハ、今ニ尙ホ依然トシテ職ヲ奉シテ居ルノデゴザイマスカラ、第十三議會、十四議會ニ於テ、此事ヲ質問致シマスガ、是ハ獨立ノ會議デアルカラ、致方ガナイト云フ無責任ナ答ヲ與ヘテ居リマスカラ、此儘ニ打捨テ、置キマシテハ、後來又斯ノ如キコトヲ繰返シテ、内閣ハ責ヲ受ケヌト云フ態度ヲ取ラレテ居ルノハ、甚ダ國ニ取ッテ容易ナラヌコト、本員ハ思フノデ、茲ニ再ビ斯ノ如キ質

問ヲ提出シタ譯デゴザイマスガ、是ニ就イテ爾後ノ結果ニ徴シテ見マスルト云フト、精神モ身體モ衰弱シテ、數年間勤メ續イテ來タ所ノ検査院ノ人ガ、事務ヲ執ルコトガ出來ナイト宣告サレタ安川繁成君ハ、如何デアッタガ、其後衆議院議員總選舉ニ依ッテ此人ハ多數ノ投票ヲ得テ、衆議院ニ出テ、諸君ト共ニ毎日此席ニ連ッテ居ル一人デアレバ、安川君ガ果シテ精神衰弱シテ、検査院ノ事務ヲ執ルコトガ出來ナクテ、然ラバ検査院ノ事務ハ、安川君ノ精神ニ於テ堪ヘナイケレドモ、衆議院ノコトハ安川君ノ精神ニ於テ、堪ヘルヤ否ヤト云フコトヲ、本員ハ怪シムノデアル、然ラバ衆議院ハ精神衰弱者ノ集合體トシテ、輕ンゼララコトモ、亦吾々ノ辭セヌノデゴザイマスガ、斷然安川君ハ精神衰弱ノモノニアラズ、身體衰弱ニアラズ、事理ヲ明瞭ニ解スル、健康ナル、立派ナ人デアルト、本員ハ人民ノ判決、即チ多數ノ投票ヲ與ヘラレタル所ノ、此判決ヲ正當ト認メマス、即チ衆議院ニ於テ、決シテ安川繁成君ヲ拒ムベキ權利モアラズシテ、安川繁成君ハ又衆議院ノ立法部ニ連ッテ適當ノ事務ヲ執ル所ノ、立派ナ議員デアルト本員ハ思ヒマスカラ、検査院ノ判決ガ不當ニシテ、人民ノ投票ガ正當ナリト思フ、衆議院ハ此質問ニ向ッテ正當ナル理由ナリト云フコトヲ、暗ニ示サレタモノデアルト、本員ハ思フ、然ラバ人民ダケガ斯様ナ判決ヲ與ヘタルヤ否ヤト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、關宗喜君ハ其後大藏省ニ出仕シテ、唯今奏任官ノ位置ニ居ラレタ、會計ノ事務ヲ執ッテ居ラレタ、折々政府委員ノ席ニ往ッテ見マスレバ、數年前ノ身體精神衰弱シタト云フ、其不法橫暴ノ苛酷ナル待遇ヲ受ケテ、斥ケラレタ關宗喜君ハ、場合ニ依ッテ政府委員トシテ、此議會ニ臨マレテ居ラレタトキ、本員ハ常ニ注意ヲシテ居ル、然ラバ此關宗喜君ヲ奏任官ニ推薦セラレタトキ、何人ガ取次イダカ、一ノ疑問デアル、前ニハ院議デアルカラ、精神衰弱身體衰弱ト云ウテ、不法ノ行為ヲ取次イダ同ジハニアラズトモ、此事務ヲ引繼イダ、是ヲ否認セザル内閣ガ、又陛下ニ向ッテ是ヲ奏任ノ位置ニ推薦シタノハ、ナント不思議ナ宣告デハゴザイマスマイガ、斯ノ如キ手續ニ依ッテ、今日總テ非理ガ押シテ強クアリサヘスレバ、國民緘默スルト云フ橫暴不法ナル所ノ處置ヲ、内閣諸公ニ私ハ許スコトハ出來ヌノデゴザイマスカラ、事ノ過去ニ屬スルニ拘ラズ、此是非曲直ヲ判明シテ、諸君ノ判斷ト共ニ、内閣員ノ確ナル答ヲ承リタイト云フノガ、即チ安部井君其他ノ人々ノ同意ヲ得マシテ、提出シマシタ此質問デゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御諮リスルコトガアリマス、委員長尾崎行雄君カラ刑法改正案ノ委員會ヲ、唯今ヨリ開キタイト云フ申出デガアリマスガ、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、委員長西村眞太郎君ヨリ、社寺上地林保管法案ノ委員會ヲ唯今ヨリ開キタイト云フ申出デガアリマス、是モ許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ナシト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス、鈴木萬次郎君

○鈴木萬次郎君(二十六番) 諸君、私ハ今日モ亦一ツノ質問書ヲ出シマシテ、質問ノ要領ヲ述ベマシテ、貴重ナル時間ヲ妨ゲンケレバナラヌコトデゴ

ザイマス、即チ齒科醫……齒醫者ノ養成ニ關係シマスルコトニ附イテノ質問
デゴザイマス、此事ハ此前ノ議會ニ於キマシテモ、山口熊野君外西五名ノ御
賛成ヲ得マシテ、建議トシテ當場ニ於キマシテ、大多數ヲ以テ通過シタ問題
デゴザイマス、少シ諸君——議場ニ對シテ動物學ノ講義メイタヤウナコト
ヲ、言フヤウデゴザイマスケレドモ、此齒ト云フコトニ附キマシテ、問題ハ
小イヤウデゴザイマスケレドモ、其關係スル所ハ甚ダ大ナルモノデアル、甚
ダ狹キガ如クニシテ、其關係スル所ハ廣イモノデアル、全體草食動物——草
ヲ食フ所ノ動物、穀物ヲ食フ所ノ動物ノ齒ハ、白ノ如キ形ニナツテ、居
テ、肉ヲ食フ所ノ動物——肉食シテ居ル所ノ動物ノ齒ハ、銳利デアルト云フコ
トハ、世ノ中ノ人ノ能ク知ツテ居ル所デアリマス、所デ吾々人間ノ齒ハ平タ
イノト尖ツタノト、一ツノ齒カラ成立ツテ居リマスルカラ、穀物ヲ食ヒ肉ヲ食
フト云フコトハ、構造ニ於キマシテモ、亦形狀ニ於キマシテモ、明ナルコト
デゴザイマス、所ガ以前未ダ今日ノ文明時代ニ至ラザル間ハ、多クハ吾々日
本ノ人ハ、草食ノ動物ト同ジク、所謂穀物ヲ平食トシテ居リマシタカラ、齒
ト云フ點ニ附イテハ、殊ニ進歩致シテ居リマセヌデゴザイマシタ、然ルニ御
案内ノ如ク、文明ノ東漸ト共ニ、肉食ト云フコトガ非常ニ盛ニナツタコトモ、
亦世ノ中ノ人ノ知ル所デアリマス、從ツテ此必要ナル齒ノ保存及此修繕ト云
フコトニ要シマスル所ノ學術ト云フモノハ、甚ダ必要デアルト云フコトハ、
固ヨリ言フ俟タヌコトデアラウト思ヒマス、左様ナ有様デゴザイマスルカラ、
海外ニ於キマシテモ、殊ニ亞米利加等ニ至ツテハ、最モ此齒醫者ノ養成、齒
醫者ノ學術ノ進歩發達ト云フコトニハ、最モ注意ヲ致シ、又是ニ力ヲ添ヘテ
居ルノデゴザイマス、今日亞米利加アタリノ是ニ關係致シマスル所ノ病院
及學校ヲ調べ見マスル、北米ニ於キマスル此學校ノ數ハ、今日五十六校、
其他大學組合ニ這入ツテ居リマスル、私立學校ヲ合セマスルト云フハ、大小
併テ百四十幾ツト云フモノデアリマス、ツレカテ英吉利ニ於キマシテハ、是レ
亦病院及學校ガ十七、又獨逸アタリニ於キマシテハ、大學ニ殆ド齒科學ノ講
座ヲ設ケヌ處ハナイ位ノ有様デアリマス、而シテ年々此北米等ニ於キマシテ
ハ、齒醫者ヲ養成シ出シマスル所ノ數ハ、甚ダ夥シイモノデゴザイマシテ、
我國ノ内外科醫者ヲ出スヨリモ多イト云ツテ宜シイ位ノ有様デゴザイマス、毎
年殆ド二千名以上ノ齒科醫者ヲ出シテ居リマス、所ガ我國ノ有様ハドウデア
ルカト申シマスル、今日マデ齒科醫者トシテ開業ヲ許シ、卒業致シテ業ヲ
執ル者ハ、僅ニ五百九十五人、六百人ニ足ラヌノデアアル、内外科ノ醫者ノ
數ハ殆ド四万——千人ニ附イテ一人位ノ割合デゴザイマスケレドモ、齒醫
者ノ數ト云フモノハ、日本ノ人口ニ對シテ七八万ニ附イテ一人ト云フ有様
デゴザイマス、是ヲ米國或ハ英國ニ比シマスル、實ニ寥々タル有様ヲ致
シテ居リマスル、全體齒ト申シマスルモノハ、前刻モ申上ゲマシタル通、一
局部小イヤウデゴザイマスケレドモ、此者ノ健全デアル、能ク保タレテ
アルヤ否ヤト云フコトニ附イテハ、人ノ健康人ノ生命ト云フモノニ、偉
大ナル影響ヲ持ツテ居ルモノデゴザイマス、日本ハ御承知ノ通り、腸胃ノ病
ガ多イト云フコトデアル、齒ナルモノハ食物ヲ能ク嚼ミ碎キ、消化ヲ易ク
致シテ、是ヲ胃ノ腑或ハ消化スル所ニ送ル、最要ナル機關デアル、此齒ト云
フモノハ、能ク保ツト云フコトヲ知ラヌ、又保ツト云フコトニ附イテノ技術
者ガ少イ結果ガ、日本人ニ甚ダ腸胃ノ病人ガ多イト云フ結果ヲ來シテ居ル
デゴザイマス、腸胃ノ弱イト云フコトハ、獨リ直接ニ健康ニ影響致シマス

ルノミナラズ、或ハ之ガタメニ諸種ノ傳染病——ウツリ病ト云フモノ、媒
介ト爲ル場合ハ、多ク胃ノ弱イ、腸胃ノ弱イト云フ結果デゴザイマス、人ノ此胃
袋若ハ腸ト云フモノガ、健全デゴザイマシタキニハ、隨分種々ナ恐ロシキ
病毒ガ發シテモ、之ヲ殺スト云フ力ガアリマスケレドモ、胃袋ノ弱イ傷胃ノ
弱イ結果ハ、傳染病毒ヲ殺スト云フ力ガ出來ヌト云フコトハ、是レ亦諸君ノ知ラ
ル、所デゴザイマス、又此胃袋ノ健全ニシテ滋養アル所ノ食物ヲ消化スル
云フコトハ、口ニ於テ味ノ美デアルト云フ愉快ヲ覺エマスル同時ニ、胃袋ニ
於テ消化スルコトノ愉快ト云フコトハ、人身ニ非常ナル影響ヲ與ヘルモノデ
ゴザイマスル、滋養アル食物ヲ消化シテ居ル間ト云フモノハ、人身ニ非常ナ
ル氣力ヲ與ヘルト云フコトデゴザイマスル、或ハ學問ノ上ニ於テ、或ハ研究ノ
上ニ於テ、或ハ事業ノ上ニ於テ、人ニ元氣ヲ添ヘルト云フコトハ、健全ナル胃
ガ適當ナル食物ヲ消化スルコト云フコトガ、大ニ影響致スルデゴザイマスルカ
ラ、齒ニ齒ノ痛ミヲドウスル、又傳染病ノ絶ヘルト云フコトハ、健全ナル胃
キ、咀嚼シ得ルコト云フコトハ、是レ亦大ナル利益デアアル、其外又齒ト云フモ
ノ、療治ガ、拙ナルト巧ナルト云フコトニ附キマシテハ、例ヘバ此議場ニ於
キマシテモ、或ハ入齒ヲシテ居ラレル、若クハ齒ノ一部分ヲ接ギ置カレル
云フヤウナ人ハ、隨分少カラヌト思フ、齒ノ適當ノ處置ニセラル、ト云フコ
トハ、不適當ト云フコトハ、是レ亦人ノ辯論——自分ノ意志ヲ言現スルコト云
フ上ニ於テ、甚ダ影響スル所ガ多イ、例ヘバ硬骨ナル正義ノ論者トシテ居ラレ
ル所ノ工藤行幹君ノ如キモ、悉ク入齒デアアル、若シ同意ヲシテ（早ク要點ヲ述
ベ給ヘ）ト呼フ者アリ、此齒ニカラムシメバ、此議場ニ自分ノ議論ヲ吐出ス
ルトハ出來ナイノデアアル、斯様ニ其關係スル所ノモノハ、隨分廣イモノデア
ルト云フコトハ、本員ノ喋々ヲ俟タヌコトデアラウト思フ、而シテ今日我
國ニ於テ、此貴重ナル大切ナル齒醫者ヲ養成致スル附イテハ、如何ナル有様
ニナツテ居ルカト申シマスル、政府ハ一、試驗法ト云フ規則ハ出シテ居リ
マスケレドモ、是ガ養成ニ附イテハ、何等ノ施設スル所ハナイノデアアル、唯
是マデノ齒醫者ガ塾生ヲ取ツテ、之ヲ見習ハセテ養成スルト云フ有様デア
ツテ、我國ニ於テ唯一ノ養成機關トシ、此學問ヲ教授スル所ノモノハ、唯府下
ニ一ツ有名ナル高山紀齊氏ガ、明治二十三年カニ之ヲ興シマシテ、專ラ此學
生ノ養成ニ努メラレマシテ、五六年間遣ラレタ後、故アツテ止メラレテ、目下
ハ其事業ヲ擔當シテ居ラレマシタ所ノ血腸守之助ト云フ人ガ、神田ノ三崎町
ニ於テ三崎町二丁目九番地カニ、一ツノ學校ヲ置キマシテ、此處ニ於テ專ラ
此教授ヲ致サレテ居リマス、傍ラ血腸氏ハ齒科治療ヲ致サレマシテ、其餘ノ資
力ヲ以テ學校ニ注イデ、漸ク生徒ヲ養フテ居ルト云フ有様デゴザイマス、左様
ナ有様デゴザイマスカラ、政府ガ若シモ公ノ力、國庫ノ金ヲ以テ一科獨立ノモ
ノヲ造ルト云フ考ガナイケレバ、斯ノ如キモノニ向ツテ、直接ニナリ間接ニナ
リ、之ヲ助ケ之ヲ發達セシメテ、善良ナル齒科醫者ヲ養成スルト云フコトヲ勉
メルガ當然デアラウト思フ、隨分大臣出身ノ地方ニハ、ツレヨリモ尙ホ急ナル
補助シナケレバナラナイ鐵道ノアルニモ拘ラズ、或ハ之ニ向ツテ巨万ノ補助ヲ
爲サレルト云フコトモアル、齒ノ問題甚ダ小ナリト雖モ、之ニ對シテツレ等ヲ
比較致シマスレバ、九牛ノ一毛ヲ以テ足レルノ補助デアアル、其位ノコトハ天
下公衆ノタメニ心配セラレ、補助セラレルコトハ、適當デアラウト思フノデ
アル、今ノ内閣ハ少壯内閣デアラカラ、齒ノコトニ附イテハ、餘リ御感ジガ

少イカ知ラヌケレドモ、少シ老人ニナリマスル、此齒ノ大切ナル。齒ト云フモノノ健不健ハ、人生ノ快樂ニ至大ナル關係ノアルト云フコトヲ、感シラレドモ、此學生養成ニ對シ、政府者ガ幾干カノ心配ヲセニヤナラヌト云フコトハ、必要デアラウト思フ、殊ニ政府ハ文部省ハ手工藝ニ關スル手工學校ニ向テ、補助金ヲ出スト云フコトニナツテ居ル、齒ノ如キモノハ寧ロ技術手工ト云フヤウナモノデアラカラ、是等ノ標準カラ考ヘテ見マシテモ、此技術ヲ進歩セシメタルト云フ手段ヲ取ラシメタルハ、當然ノコトデアラウト思フ、又唯我國ニ於テ必要ト致スルニナラズ、日清ノ關係等ニ附イテ見マシテモ、四百萬ノ人民ヲ具ヘル此支那等ニ對シテハ、隨分巧ナル、斯ノ如キ技術者ヲ派出致スト云フコトモ、必要デアラウト思フ、彼此ノ點カラ考ヘマシテモ、政府ハ此件ニ對シテ、幾干カノ配慮ヲスルト云フコトハ、ナケネバナルマイト思ヒマス、ソレ故前議會ニ於テ、建議案ヲ提出致シマシタガ、其砌ハ政府ガ財政ノ逼迫、國庫ノ窮乏ト云フコトデ、更ニ御構ヒガナカッタ、今日ニ至ルモ矢張窮乏之切迫其必要ヲ知り、其必要ヲ承知ト云フデ、一切構ハヌト云フノデア、聞ク所ニ依レバ大學ニ於テ、齒科ノ講座ヲ設ケルト云フ、計案モアルト云フコトデアリマスガ、別ニ齒科醫ヲ養成スルト云フ特別ノモノヲ置クト云フコトガ、必要ガアラウト本員共ハ考フルノデアアルカラ、左ノ如キ質問ノ、第一即チ政府ハ齒科醫ノ養成ヲ不必要ナリト認ムルヤ、第二政府ハ齒科醫學術專修學校ヲ設立スルノ案ナリヤ、第三政府若シ專門學校ヲ設立スルトセハ其時期如何、此三箇條ノ質問ヲ致シテ、政府ノ答辯ヲ聞キマシタル上デ、或ハ又諸君ノ御贊成ヲ得テ、是ノ善後策ヲ講ジタイト思フ、聊カ質問ノ要領ヲ述ブルコト斯ノ如シ

○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ第一沖繩縣及東京府管内伊豆七島ニ於ケル國稅徵集ニ關スル法律案、政府提出貴族院回付

第一 案(政府提出、貴族院回付)
○恆松隆慶君(二百二十四番) 是ハ唯施行期日ノコトガ挿入ニナツタダケデアリマスガ、是ハナクテモ宜シイガ、併シ貴族院デ斯ウナツタ以上ハ、否決モサレマセヌカラ、同意センコトヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 貴族院ノ修正ニ御異議ハアリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ貴族院ノ修正通過決シマス、次ハ議事日程ノ第二鐵道敷設法中改正法律案、第一讀會ノ續、委員長ノ報告

第二 鐵道敷設法中改正法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(片岡健吉君) 第二讀會併セテ願ヒマス(ト呼フ)
○長坂重孝君(六十二番) 鐵道敷設法中改正法律案、及豫定線路中私設鐵道會社許可ノ件ニ關スル法律案、此二案ヲ同一委員ニ付託ニナリマシタカラ、併テ報告致シマス、鐵道敷設法中改正法律ト、委員會ニ於テ全會一致ヲ以テ可決致シマシタ、其次ノ豫定鐵道線路中云々ト云フ法律ハ、一二ノ反對論モゴザ

イマシタケレドモ、是亦大多數ヲ以テ原案ヲ可決致シマシタ、委員會ニ於ケル經過中、或ハ政府委員ニ對スル質問、若クハ政府委員ノ本案提出ニ關スル說明等ハ、隨分アリマシタガ、要スルニ最初本案ヲ提出サレタ際ニ、當局ノ大臣ヨリ、其理由ノ說明ガアリ、又今日此大日程ニ載ツテ居ル豫算案トハ、密接ノ關係ヲ持ツテ居リマス故ニ、豫算委員會ニ於テモ隨分説明又ハ辯明等モアリマシタ、其速記ハ諸君ノ御手許ニ參ッテ居リマセウカラ、提出ニナツタ詳細ノ理由ハ、孰モ御承知ノコト、考ヘマスデ、唯大要ヲ茲ニ述ベ置キマス、本案ヲ提出サレタ理由ノ第一ハ、政府ハ鐵道敷設法ノ命ズル所ニ依ツテ鐵道ヲ總テ國有即チ國家ガ之ヲ建設スル方針ハ、終始一貫シテ變ラズト云フノガ抑、大體デゴザイマス、而シテ舞鶴鐵道ニ於キマシテハ、元ト一期線デアッタノヲ、二十八年頃京都鐵道會社ニ許シ、其後或部分マデ出來上ツタ所ガ、經濟界ノ模様ニ依リ、中途ニ建設スルコトガ出來ナクナツタ、然ルニ一方ニハ全體ノ交通ノ上、特ニ軍事上、必要ヲ感ズルコトガ、日ニ益々急ニナツテ參リマシタ故ニ、其當時ノ契約ニ基イテ、政府自ラ建設シタイト云フ趣意デアリマス、第二ノ豫定鐵道線云々ト云フ、即チ德島鐵道ノコトデアリマスガ、是ハ全體二期線デアリマス、然ルニ軍事上最モ緊要ナルモノト云フコトデ、之ヲ一期線ニ繰上ゲテ、政府ガ建設シタイノデアアルケレドモ、何分財政ノ許サヌ場合デ如何トモ仕難イ所デアアル、然ルニ幸德島鐵道會社ニ於テ、相當ノ保護ガアレバ、速ニ建設スルコト云フコトデアアルカラ、即チ調査ノ上、之ヲ建設シ得ベキモノト認メテ、許可スルノ方針ヲ執ラレタデアリマス、提出ノ理由ハ先ヅ是ダケノコトデアッタ、ソレカラ委員會ニ於テ德島鐵道ニ對シテ、反對ノ論ガアリマシタガ、是モ其要ヲ摘ンデ申セバ、政府ガ軍事上必要ダト云フコトナレバ、何處マデモ國費ヲ以テ、政府自ラ建設シテ宜カラウ、然ルニ舞鶴ノ如キ、一方ニハ政府自ラヤルモノガ、軍事上必要デアリナカラウ、一方ハ私設會社ニ許スト云フハ、方針ノアル所ガ分ラヌ、又經濟的カラ考ヘテモ、德島鐵道ハ經濟ノ引合フモノデナイ、之ヲ許可シタナラバ、恐ラクバ、矢張京都鐵道ノ二ノ舞ヲ蹈ムノデハナカラウカスノ如キ方針ノ一定セヌ遣リ方特ニ將來此鐵道會社ニシテ恐慌ヲ起スト云フヤウナ、不幸ナ時期ニ遭遇スルコトヲ豫想シテ見レバ、不得策デアラウト云フ、是ガ反對論ノ大體デアリマス右申ス通ノ結果デアリマス、宜シク審議ノ末、速ニ可決アラントヲ、希望致シマス

○堀家虎造君(二百九番) 質問ガアリマス、唯今ノ委員長ノ報告デアリマシタガ、チヨット御審査中ノ大體ノ經過ハ伺ヒタガ、本員ノ疑ノアル所ヲ伺ヒタガ、此案ヲ委員會デ可決サレタノト、豫算委員會ガ此問題ニ關聯シテアル案ヲ、可決シタノト、何レガ先キカ後カ、豫算委員會デ決定シテ、ソレカラソレガ決定シタカラ、其結果デ決定シタノデアアルカ、法律案ガ決定シテ後ニ、豫算ガ決定シタノデアアルカ、其前後ヲ伺ヒタイ、ソレカラ此問題ニ關シ、關聯シテ居ルコトデアアルガ、德島鐵道ノ利子ノ補給ハ、一哩三萬四千圓ト云フコトデ、其積算ノ仕方ハドウ云フ所カラ出デ居ルカ、七年間ニ一哩三萬四千圓ニ對スル建設費ヲ、七箇年六朱ノ利子ト見テ平均シタモノガ、一哩三萬四千圓ニナルト云フ、政府委員ノ說明デアッタガ、其二十七哩四十鎖中ニハ、工事ノ仕易イ所モアリ、又仕易イ所モアル、例ヘバ第一區ノ舟戶ヨリ池田間ハ仕易イノデアアルカ、池田カラ新改間、若クハ新改カラ高知間、是ハ別ニ區別ナシニ平均デヤツテ居ルヤウデアアルガ、一區ノ工事ノ仕易イ場所ダケヲ、德島

鐵道が寄り喰ヒテ、ムツカシイ所ハシナカッタト云フ場合ニハ、ドウスルト云フコトノ御調ハ、委員會デアッタラウト思ヒマスカラ、其邊ヲ委員會デ調査ニナッタ經過ヲ伺ヒタイ

○長坂重孝君(六十二番) 御答致シマス、豫算ガ先キデシタカ、コチラガ先キデシタカ、打合セテ時間ヲ見ヤテ居リマセヌカラ、ドチラガ先キカ御答出來マセヌ、其次ノ質問ニ對シテハ、堀家君ハ特ニ此特別委員會ニ臨ンデ十分質問モシテ見タイ、又意見モ述ベテ見タイト云フコトデアリマシテ、殆ド堀家君ガ委員會ノ時間ノ全部ヲ、御費シニナッタ位デアリマスカラ、別ニ御問ニナラヌデモ、十分御承知デアラウ、却テ委員長杯ヨリハ、實況ヲ御承知デアラウト思ヒマスカラ……

○田口卯吉君(二百五十七番) 本員ハ逓信大臣ニ質問シタウゴザイマス、官設ノ鐵道ヲ民設ニ許スト云フコトハ、鐵道ノ方針ノ上ニ於テ、大ナル變更ト本員ハ認メルノデアアル、現逓信大臣芳川君ハ、鐵道國有ヲ主張セラル、御方ト、本員ハ認メテ居ルノデアアル、前々議會デゴザイマシタカ、芳川君ハ鐵道國有ヲ主張セラル、ガタメニ、議場ニ登ッテ病ヲ推シテ演説ヲセラレ、ソレガタメニ病ガ重クナラレタト云フコトマデモ、本員ハ開イテ居ルノデアアル、然ルニ今此議案ト云フモノハ、官設ヲ民設ニ許スノミナラズ、又之ニ對シテ補助ヲ與ヘル、補助ヲ與ヘルト云フトキニハ、之ヲ官ニ買上ゲルトキニ至ッテハ、更ニ困難ヲ得ベキ結果ガアルコトハ、確ニ本員ノ喋々ヲ俟タズシテ、大臣ハ御承知デアラウト思フ、然ルニ斯ノ如ク病ヲ推シテマデ、民設ヲ官設ニシヤウトセラレタ御方ガ、此度ハ打ッテ變ッテ、民設ニシテ補助ヲ與ヘヤウト云フマデ、方針ヲ改メラレタト云フモノハ、所謂民設ニ降服セラレタノデアアルカ、ソレトモ又別ニ御意見ガアルコトハ、伺ヒタイ

(逓信大臣子爵芳川顯正君演壇ニ登ル)

○逓信大臣(子爵芳川顯正君) 唯今ノ田口君ノ御質問ニ、御答致シマス、如何ニモ一昨年ノ二月ニ於テ、本大臣ハ私設鐵道買收ノ法案ヲ提出致シタニ相違ナイ、當時病ヲ冒シテ、ソレガタメニ重クナッタト云フコトモ事實デアアル、然ルニ今日助成案ヲ提出致シタノハ、正ニ其主義ニ反對スルデハナイカト云フノ、御尋デアアル、一應御尤ニ私ハ承ルノデアアル、細カニ之ヲ辯明致シマスルト、御尤デナイコトヲ私ハ發見スルノデアアル、御承知ノ如ク、此鐵道ノ國有ニ爲スベキコトハ、申スマデモナク、諸君御熟知ノ通鐵道敷設法ノ第一條ニ於テ政府ハ帝國ニ必要ナル鐵道ヲ完成スルガタメニ漸次豫定ノ線路ヲ調査シ及敷設スト云フノ法文ヲ明ニ掲ゲテアルノデアリマスカラ、必要ナル鐵道ノ國有ニ歸スベシト云フコトハ、最早論ハ定ッテ居ルノデアアル、ソレ故ニ一昨年ノ春、調査會ノ調査ヲ遂ゲタ結果ニ依リ、國有ヲ實行スルガタメニ私設鐵道買收法案ガ提出シタニ相違ナイ、政府ハ今尙ホ必要ナル鐵道ヲ國有ニスルト云フコトハ、少シモ變リマセヌ、唯如何セン目今財政上ノ都合ニ於テ、議會ニ提出シテ諸君ノ御協賛ヲ求メルコトガ、出來ナカッタノデアリマス、他日財政ノ狀況ニ依リマシテハ、再ビ私設鐵道買收ノ法案ヲ提出致シテ、諸君ノ御協賛ヲ煩ハス考デアルノデアアル、又是ニ於テ私設鐵道ニ助成ヲ致スコトハ、新ニ始メタカノ如キ御話ガゴザイマシタガ、決シテ今日始テ助成ノ途ヲ開イタノデアリマセヌ、明治三十四年ノ日本鐵道ニ於ケルガ如ク、明治二十一年ノ九州鐵道ニ於ケルガ如ク、明治二十二年ノ北海道炭礦鐵道ニ於ケルガ如ク、二十三年ノ山陽鐵道ニ對スルガ如ク、又三十年ノ臺灣鐵道ニ

對スルガ如ク、國家ハ緊急ニシテ已ムヲ得ナイ場合ニハ、私設鐵道ヲ助成シテ以テ、之ガ線路ヲ完成セシムルト云フコトハ、從來採リ來ッタ方略デアリマス、此度函檜鐵道並ニ四國鐵道ニ對シテ、助成ヲ致スト云フモノハ、畢竟此方略ニ依リタルニ外ナラヌノデアアル、無論今日ニ於ケマシテモ、財政ノ都合ガ許シマシタナラバ、苦デ此私設鐵道ヲ助成シテ、完成セシムルト云フ方略ハ執ラズ、直チニ官設シテ豫算ヲ組ンデ、諸君ノ御協賛ヲ煩ハス次第デアッタノデアアルガ、如何セン刻下ノ狀況ニ於テ、之ヲ許スマセヌノデ、已ムヲ得ズ私設鐵道ヲ助成シテ以テ、完成セシムルト云フ從來ノ方略ニ依ッテ法案ヲ提出致シタノデアリマス、是ニ依ッテ政府ハ鐵道ヲ國有ニシヤウト云フ方針ヲ持ッテ居ル所ヲ、私設鐵道ニ助成スルト云フモノハ、決シテ矛盾シテ居ルノデアアリマセヌ、此段田口君ニ御答致シマス

○堀家虎造君(二百九番) 段々御演説ヲ承リマス、政府ハ財政ガ許スナラバ、官設ニシタイノデアアルケレドモ、財政上困難デアアルカラ、私設會社ニ補助シテデモヤラセルト云フ、御計畫ダト云フコトハ拜承シマシタガ、政府デスラ鐵道公債ヲ募ルニ、困難デアアルト云フ程デアルノニ、私設會社ガ——一朱一厘二毛ニシカ回ラナイ私設會社ガ、株式ヲ募集シテモ應ジラレルト云フ御見込デアアルカ、ソレ程割ニ合ハナイ會社ガ、募集シ得ラレルトナラバ、政府ガ五朱ノ公債ヲ發行シタナラバ、立ロニ公債應募者ガナケレバナラヌ答デアアル、五朱ノ公債ニ應ズルコトノナイ、經濟界ノ事情ガ、一朱一厘八毛ニシカナラナイ、利益ノナイ鐵道ノ株式ニ、應募者ガアルト云フ御見込ハ、本員ハ甚ダ疑フノデアアル、是ハ此會社ガ果シテ、ソレダケノ一千万圓ノ資本ヲ積ンデ居ルノデアアル、今カラ募集スルナラバ、募集ガ必ズ出來ルト云フ御見込デアアルカ、ドウデアアルカ

○逓信大臣(子爵芳川顯正君) 御答ヲ致シマス、即チソレガ助成ヲ致ス所以デアリマス

○工藤行幹君(百二十一番) 私モ一ツ質問ヲ致シタイ、政府ハ鐵道ノ敷設ニ就イテハ、既ニ第一期線ノ中ノ東北線或ハ鹿兒島ノ線、或ハ中央線ト云フコトハ、既ニ工事ニ取掛ッテ居ルノデアアル、然ルニ財政ノ困難デ、公債ヲ募集スルコトガ出來ナイタメニ、既ニ著手シテアル所ノ線路ノ工事ヲ、大ニ延滞シテ居ルノデアアル、即チ政府カラ命令シテ、其金ヲ縮メテアルノデアアル、何ノタメカト云ヘバ、金ガナイタメデアアル、而シテソレガ公債バカリデナイ、當年ノ如キニナルト云フト、一般會計カラ入レルコトニナツテモ、尙ホヤルコトガ出來ヌデ、此工事ヲ延ベテアルノデゴザイマス、此ノ如ク既ニ始メタ所ノ鐵道ニ對シテ、金ノ仕拂ガ出來ナイデ、之ヲ延シテ居リナガラ、更ニ他ノ私設鐵道會社ニ向ッテ、金ヲ出シテ往クト云フコトハ、如何ナルコトデアアルカ、若シ政府ハ縱令第一期線デ、今既ニ著手シテ居ル所ノモノヨリモ、尙ホ此四國鐵道或ハ函檜鐵道ハ至急ナリト認メルカ、否ヤト云フコトヲ、私ハ承リタイ、果シテ前ノ一期線ノ奥羽線ナリ、鹿兒島線ナリヲ、必要ナリトスルナラバ、此工事ガ終ヘタ上ニ延バシテ往カナケレバナラヌ、又金ガ澤山アルナラバ、豫定ノ通是マデト著手シテモ、金ヲ出シテ其上ニヤルコト云フコトナラバ、豫定ハ御尤ナコトト思フケレドモ、既ニ著手シテ居ルモノハ延期シテ、新ニ私設ニ屬シテ居ルモノニ、金ヲ出スト云フコトハ、甚ダ矛盾シテ居ルガ如ク思フノデゴザイマス、ソコデ政府ハ果シテ是マデヤッタノハ、緩急順序ヲ誤ッタモノデアアル、函檜鐵道或ハ四國鐵道ハ、奥羽線ナリ、鹿兒島線ナリ、中央線ナリ、尙

ホ必要アルノヲ、之ヲ見落シテカラシメ、今更片方ハ延シテ、片方ハ急イデヤルト云フ御見込アルカ、之ヲ一ツ承リタイノデゴザイマス、尙ホモウ一ツ承リタイノハ政府ハ財政ノ調査ト云フコトヲ明言シテ居ル、此財政ノ調査ト云フコトハ、理由ナクシテ起ルノデハナイ、目下公債ヲ募ルコトモ出来ナイ、窮境ニ陥ッテ居ルカラ、此財政ノ調査ト云フコトヲスルノデアラウト思フ、本員尙ホ斯ク信ジテアル、然ルニ政府ハマダ財政ノ調査ヲ爲サズシテ、此ノ如キ私設鐵道會社ニ、特別ノ補助ヲ與ヘテ、後來永續シテ往ク見込ガアルカ、財政調査ノ上ニ之ヲヤルト云フコトナレバ、誠ニ御尤ナコトデアラカ、未ダ財政ハ調査シナイケレドモ、此ノ如キ鐵道ニドシテ、補助シテヤツテ、明年カラ果シテ往ク見込ガ、確立シテ居ルカ否ヤト云フコトノ二點ヲ、私ハ質問スル

○逓信大臣(子爵芳川顯正君) 工藤君ニ御答ヲ致シマス、御質問ヲ承ルト、大要ニツニ分レヤウニ思ヒマスカラ、茲ニ一ツ繰返シマスカラ、間違ッテ居リマシタラ、御校正ヲ願ヒタイ、政府ハ必要ナリトシテ、第一期線ノ建設ニ從事シタラ、アルノニ、私設會社ヲ助成シテ以テ鐵道ヲ建設セシムルト云フノハ、從來必要ナリト認メタモノハ、不必要ニナツタノカ、一ツハ斯ウ云フ御尋ト承知致シマシタ、一ツハ唯今ノ財政ノ調査ト云フ、此二ツ

○工藤行幹君(百三十八番) サウ
○逓信大臣(子爵芳川顯正君) 御答ヲ致シマス、決シテ政府ガ第一期線ノ建設ニ從事致シテ、必要ナリトシテ居リマスモノハ、今尙ホ必要トシテ居ルノデアリマス、御質問中ニ、事業ヲ大層繰延ベテ、殆ド當初ノ目的ヲ達シ得ナイ程ニ、延滞ヲシテ居ルカノヤウナ、御質問ト承リマシタガ、決シテ左様デハアリマセヌ、繰延ベタノハ此三十四年度ニ於テ、改良費並ニ建設費ニ於テ、六百十餘萬圓繰延ベタノデ、其中一期線ノ建設ニ關スルモノガ、殆ド四百四十萬圓繰延ベタノデアリマス、之ヲ唯三十六年度以降ノ年度ヘ割當テテ、ツレダケガ延ビタト云フコトデアツテ、他ハ年度割ノ通、仕事ヲ致シテ居ルノデアリマス、ツレ故ニ必要ナリトシテ置イタモノヲ、殆ド必要ナリトシタガ如クニ、事業ヲ繰延ベタノデハナシト云フコトヲ、御承知ヲ願ヒタイ、又其繰延ヲ致シナガラ、他ノ一方ニ於テ新事業ヲスルノハ、何故デアラカト云フ御尋ガアリマスカ、是ハ財源ガ違フノデアリマス、第一期線ニ使ヒマスノハ、御承知ノ如ク鐵道敷設法中ニ於テ、九千四百有餘萬圓ト云フモノハ、公債ヲ以テ支辨スルト云フコトニ、從來ハナツテ居タノデ、此度諸君ノ御協賛ヲ經テ、尋常歲入ヲ、時トシテ用井ルト云フコトニナツタマデ、本體ハ公債ヲ以テ支辨スルト云フコトニナツテ居リマス、是ニ於テ一方デハ公債ヲ募集スルコトガ、困難ナリトシテ置イテ、尙ホ私設鐵道ヲ助成スルタメニ、公債ヲ募集スルト云フコトナラバ、實ニ御論ノ如ク、前後撞著デナイカト云フ御議論ガアラウト存シマスケレドモ、此度助成ヲ致サウト云フノハ、全ク別種ノ財源公債ニ全ク關係ハナイノデアリマス、此財源ヲ以テスルカラ、從來ノ計畫ニ影響ハ持チマセヌ、又別ノ財源ニ依ツテ、助成ヲ致サウト云フノハ、國家ガ見テ以テ、緊急止ムベカラズト云フヨリシテ、致シタノデアリマス、若シ已ムヲ得ルコトデゴザイマシタナラバ、何モ助成ノ案ヲ提出致シテ、御協賛ヲ煩スコトハ無カッタノデアリマス、畢竟止ムベカラザルノ緊要ガアツタ故デアリマス(大矢四郎兵衛君「議長」ト呼フ)「チヨット御待チ下サイマス、マダアリマスツレカラ一方ニ於テハ財政ノ調査ヲスルト云ヒツ、一方デ巨大ナ金ノ經

營ヲスルノハ如何デアラカト云フ御尋ハ、是ハ本大臣ガ辯明致スヨリハ、財務當局者ヨリ辯明致スコトガ、適當ナリト信ジマスカラ、私ハ茲ニ辯明致シマセヌ

○工藤行幹君(百三十八番) 唯今大臣ノ御答ニ附イテ、チヨット一應繰返シテ、質問ヲ致シタイ、唯今大臣ノ仰シタルニハ、此資金ガ違フト云フコトヲ仰シタルケレドモ、大臣モ自ラ言ハレル通、既ニ當年ノ法律案ヲ改正シテ、公債支辨バカリデナク、一般會計カラデモ、此鐵道ニ金ヲ使フコトガ出来ルト云フ法律ガ、改正ニナツタコトデアアル、然レバ必ズ公債カラヤルモノデナイノデ、金ノ餘リサヘアレバ初ノ目的通り、此第一期線ヲ速ニ成就シナケレバナラヌデアアル、然ルニ三十四年度繰延ベタ金ハ、幾ラトカ仰シヤイマシタガ、此繰延ベタ金ヲ、若シ財政ノ都合ガ好ケレバ、直チニ三十五年度デ、ツレヲ補ッテマハナケレバナラヌト云フコトハ明デアアル、必要ナノデアアル、然ルニ三十五年度ニ、三十四年度繰延ベタ金ヲ、悉ク三十五年度デ、第一期線ニ入レズシテ他ノ私設鐵道會社ニ補助スルト云フコトハ、矛盾ヂヤナイカト思フノデス、況ヤ政府委員ガ明ニ答ヘテ居ル、第一期線ト云フモノハ、是マデノ豫算ニ不足ヲ生シテ、到底之ヲ成功スルニハ、今四千萬圓掛ケナクチャ、出来ナイト云フコトヲ、明ニ答ヘテアル、シテ見ルト舊來ノ豫算ニ尙ホ四千萬圓ヲ加ヘナケレバナラヌノニ、尙ホ延ベテ居ルモノガアレバ、他ニヤル金ガアル譯ナラバ、此第一期線ノ必要ハ認メテアルト云フナレバ、ドウシテモ此第一期線ニ、其金ヲ掛ケナクチャアラヌ、其金ヲ入レズシテ他ノ會社ニヤルト云フコトハ、如何ニモ矛盾ノヤウニ思フノデゴザイマス、大臣ハ或ハ金ノ目ガ違フト云フガ、ツレハ自然ノ話デアアル、補助ハ一般會計カラヤルノデアアル、第一期線ハ公債デヤル、ト云フカラ、是ハ當年ノ議會デ法律ヲ改正スル以前ナラバ、誠ニ相當ト思ヒマスガ、何レニシテモ今度ハ一般會計カラ金ガ出テモ、何デモ同ジケレバ、第一期線ニ注キ込シテ、尙餘裕ガアレバ、他ノ私設鐵道會社ニ許シテ往クト云フノハ、當然デアラウト思フノニ、サウデナクスルト云フコトハ、ドウ云フ意デアラカ、今一應不明瞭デアリマスカラ、ドウゾ御答ヲ願ヒタイ

○逓信大臣(子爵芳川顯正君) ツレダケノ金ガアルナラバ、三十五年ヘモ含ンデ、一緒ニ仕事ヲシタガ宜イデヤナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、三十四年度繰延ベタ金ハ、會計法ノ自然ノ結果トシテ、三十五年度ニ繰越スノデアリマス、而シテ之ヲ工事ノ都合ニ計ツテ見マスルト、縱シ其金ヲ三十五年デ使ハウトシテモ、使ヒ切レナイノデアアル、ツレ故ニ其繰延ベタ金ハ、三十六年度以後ヘ割附ケタノデアリマス、ツレカラ……(工藤行幹君「金ガアツテモ使ヘヌノデアリマスカ」ト呼フ)「三十五年度デハ使ヒ切レナイノデアリマス(工藤行幹君「何ノタメニ使ヒ切ラヌ」ト呼フ)「工事ガ運バヌノデアリマス」ツレニ又一般歲入カラ使フ途ヲ開イテ居ルノニ、ナゼ其方ヘ入レナイカト云フ御尋ネモ、御尤ニ考ヘマスルガ、抑、此私設鐵道ヲ助成シテ以テ、完成セシムルト云フノハ、唯他ニ必要ナクシテシタノデハナイノデアリマス、過日本案ヲ提出致シタ當時ニ於テモ、説明致シテ置キマシタ通り、軍事上ニ於テ緊急止ムベカラザル所ノ必要ヲ感シタニ依ツテ、提出シタノデアリマス、若シ此緊急ノ必要ナクシタメニ、無論提出ハ致サナカッタノデアリマス、提出致シタノハ、此緊急ノ必要ナクシタメニ、外ナラヌノデアリマス、御答ヲ致シマス
○大矢四郎兵衛君(二百三十三番) チヨット質問致シタウゴザイマス、此案デ見

ナイト云フコトハ、今日ヨリ明カナコトデアルト思フ、知ツテ之ヲ爲サシムルト云フコトハ、甚ダ不都合ノコトデアルト私ハ思フノデアアル、若シ利益ノアルモノデアルトシタナラバ、兩様相待ツテ——固ヨリ鐵道會社ト云フモノハ、營利會社デアアル、兩々相待ツテ利益ヲ得ルト云フコトナラバ、當然ノ理窟デアアル、然ルニ助成金ヲヤルカラト云ツテ、鼻藥ヲヤツテ之ヲ爲サシメ、而シテ後トデ如何ニナサルカト云ヘバ、今度ハ政府ガ厄介モノヲ引受ケルト云フヤウニナリハシナイカト云フコトヲ、疑フノデアアル、ツレカラ其大臣ノ御答辯中ニ、詰リ私ノ精神ハ國有ト云フコトハ變ラヌト云フコトヲ、明言サレテ居ル、即チ私設鐵道ヲモ買入レルト云フコトヲ言ハレテ居ルトスレバ、取モ直サズ是等モ買入レルト云フコトハ、既ニ御腦中ニアルヤウニ解釋セラル、ノデアアル、然ラバ唯一時之ヲ補給シテ以テヤラセルト云フニ過ギナイ、此間ニ如何ナルコトガアルカ否ヤト云ウタナラバ、若シ是ガ利益ノナイ會社ニ、政府ガ望ムカラ補給ヲスルト云ウテ、ツレニ迷惑ヲ掛ケルト云フヤウナコトデアッタナラバ、甚ダ政府ノ處置宜シクナイコトデアルト、吾々ハ思ハレルノデアアル、併ナガラ政府ハ之ヲヤラシテモ、尙ホ其土地ノ今日ノ狀況カラ照シテ、軍事上必要ナコトデアアルカラ、詰リ政府ガ此條約ノ通、早晚買入レルト云フ見込デアルト云フコトナラバ、明ニ茲ニ御示シテ請ヒタイノデアアル、其邊ニ至ツテハ、至ツテ分ラヌノデアアルガ、要スルニ二朱ヤ三朱ノ利益ノアルモノヲ知ツコ、知ラザルモノ、如クニシテ、僅ニ補助金ヲ與ヘテ以テ、此成功如何ト云フコトヲ氣遣フ以上ニ至ツテハ、苟モ國家ノ上ニ立ツテ、即チ國務ヲ料理スル所ノ大臣ハ、ツレ位ノコトノ御分リガナイコトハナイノデアアル、營利會社ニ持ツテ往ツテ、二朱ヤ三朱ノ利益、殊ニ況ヤ二朱ヤ三朱デナイ、二朱以下ノ利益ノモノデ、何ゾ成立ツコトヲ得ン、即チ補助金ヲ取ルガ目的、即チ助成金ヲ取ルガ目的ダト云フニ外ナラヌヤウニシカ、ドウシテモ解釋スルコトガ出來ヌ、ツレニ又不幸ニシテ德島鐵道ノ如キハ、唯今ノ現遞信大臣ノ、御郷里デアルト云フコトデアアルカラ、此間ニハイロノ、疑團ヲ懷イテ居ル人モアラウト思フカラ、將來ノコトニ附イテ、即チ此鐵道ハ氣ノ毒ナコトデアアルカラ、當分ヤラシテ置クケレドモ、將來ハ買取ルモノデアルト云フ御話ヲ、下サルヤウナコトデアッタトスレバ、大ニ分ルガ、買フカ買ハヌカ、此鐵道ガ成立ツカ成立タヌカ、吾與リ知ラヌト云フヤウナ御考デアルトスレバ、若シ之ヲ買取ルト云フ方ニ、一旦ナツテ來ルハ、餘程考ヘモノデアアル、其邊ノ所ヲ明ニ承リタイ、此問題ヲ決スルニ方ツテハ、餘程必要ナ問題デアルト考ヘルノデアリマスカラ、其邊ノ所ヲ明ニ御答辯ヲ願ヒタイ

○遞信大臣(子爵芳川顯正君) 御答致シマス、如何ニモ本大臣ハ德島出生ノ者ニ相違アリマセヌ(「ヒヤ、」ト呼フ者アリ)德島出身ノ大臣デアアルガタメニ、德島ノ鐵道ニ向ツテ助成ヲスルノハ、何カ其間ニ妙ナコトデモアリハセヌカト云フヤウナ(大ニアリト呼フ者アリ)御疑念ノアルノハ、御尤ニ思フ、併ナガラ本大臣不肖ヲ顧ミズ國務ヲ執ツテ居ル以上ニ於テハ、德島ノ鐵道ニ掛ルガタメニ、特ニ之ヲ致スト云フ考ハ持ツテ居リマセヌ(「ノウ、」ト呼フ者アリ)笑聲起ル)是ハ諸君ニ御話ヲレテ置クノデアリマス、成ル程此鐵道ハ成立ツツガ成立タヌカ、無論此營利一方デアッタナラバ、當初ヨリ利益ノ少イノハ、私設會社デア出來ナカラウト私ハ思フノデアアル、併ナガラ從來ノ經驗ニ依ツテ、當初ハ利益ノ少イノモ、追々乗客貨物ノ増進シテ往クト云フコトハ、既往澤山建設サレタ鐵道ニ徴シテモ分ルノデアリマス、ツレ故ニ七箇年ノ間ハ、哩

ニ附イテ助成ヲシ、後ト三箇年ニ於テ、若干ノ助成ヲシテ、十箇年ノ星霜ヲ
經テ曉ニハ、相當ナル利益ガ得ラル、場合ニ至ルデアラウト私ハ思フノデア
ル、又何朱ニ當ルカドウカト云フノハ、政府ニ於テハ十分堅固ナル見積ヲ立
ルガ故ニ、會社ガ三朱ニ當ルコト云フノハ、政府ハ尙鞏固ニスルタメニ、或ハ
一朱五厘ニ見込ヲ附ケル、此間ニハ何時モ差ガアルノデアアル、是ハドノ會社
デモ其通デアアル、平タク言ヘバ官ノ積ハ、酷ニ過ギルト云フコトハ、一般入
ノ想像スルノデアリマス、ソレ故ニ十箇年助成ヲ致シタラバ、會社ハ成立ッ
テ往クデアラウト、政府ハ見込ヲ以テ助成ヲ致ス、ソレカラ又鐵道ハ一體國
有ト一體スベキモノデアアルカラ、將來ハ之ヲ買フ積リデアアルカドウデア
ル、之ヲ茲ニ言明ラシテ吳レト云フ、御話デゴザイマスガ、是ハ甚ダ難イノデア
アル、全國ノ私設鐵道ハ、御承知ノ如ク三千哩ニ超過致シテ居ル位ナモノデア
リマス、既ニ一昨年ノ春調査會ヲ開イテ、此私設鐵道ヲ買収シテ以テ、國有
ニシヤウト云フ曉ニ於テモ、悉ク之ヲ買収シヤウト云フノ議論ハ起ラナカッ
タ、僅ニ全國ノ線路ニ就キマシテ、七線路ナラデハ、ナカッタノデゴザイマ
ス、ソレ故ニ悉ク私設鐵道ヲ買収スルコト云フノデアハ、私ハナカラウト思フ、何
レ其時ニ方デ、評議ヲ致シテ、國家ノタメニ是ダケハドウシテモ、國有ニ致
サナクテハナラヌト云フ必要ヲ感ジタラ、其時ニ買収ノ線路ガ極マルノデア
リマス、果シテ四國鐵道ノ完成シタ曉ニ至テ、政府ニ於テドウシテモ此鐵道
ハ、經絡上ニ於テ官有ニ致サナクテハナラヌト云フ議ガ起リマシタラ、諸君
ノ御協贊ヲ經テ、其時ニハ買収ノコトニナラウト思ヒマスケレドモ、今年以
後ノコトヲ想像シテ、必ズ之ヲ買収スルカドウカト云フコトヲ、言明シロト
云フコトハ、私ハ茲ニ言明スルコトハ出來マセヌ

(質問終結ト呼フ者アリ)

○星松三郎君(四十番) 今ノ續キデゴザイマスカラ

○議長(片岡健吉君) 星松三郎君

○星松三郎君(四十番) 唯今ノ御説明デ要領ヲ得マシタガ、私ノ問モ即此鐵
道ヲ買入レルカ否ヤト云フコトヲ、單ニ御尋ネ申シタ筈合デアアル、果シテ
御買ニナルト云フコトデアアルナラバ、此補助金ヲ御與ヘナルコトガ、尙更私
共氣ニ掛ルノデアアル、鐵道ヲ持ヘサシテ、其間ニ補助ヲ與ヘテ居テ、此難物
ヲ又引受ケルト云フコトガ、政府自ラ國庫カラ金ヲ出シテ、之ヲ持ヘルト云
フコトニナラバ、ソレハ國防ノ名ノ下ニ宜シイカ知ラヌケレドモ、後ト
ニナラバ之ヲ引受ケヤウト云フ曉ニハ、即チ今日經營シタモノハ損ガ往クコ
トニナルノデアアル、此條文デ以テ見ルト云フト、餘リ御目出度イコトガナイ
ノデアアルガ、今回はガ決議ニナルト、三箇年ニ二十六萬圓助成サレテ、而シ
テ三萬四千圓ハ、線路ニ向テ補助サレルト云フコトハ、賴母シイケレドモ、
後トドドナルカト云フコトニナラバ、餘程困難ノモノデアアル、ソレ故
ニ御買ニナルカ否ヤト云フコトヲ、單ニ御伺ヒ申シタヤウナコトデアッダ、
即チ私ノ杞憂スル所ノモノハ、買入レルトスレバ、今日御與ニナル所ノ補助
云フモノハ、謂レナキ補助デアッダ、即チ買入レルト云フノハ、難工事ノモノ
デアッダ、政府ノドウモ手ヲ著ケルコトノ出來ヌモノヲ爲サシメテ以テ、政府
ノ手ニ委ネタト云フコトニ過ギナイモノニナリマセヌカト云フコトヲ、疑フ
ノデゴザイマスガ、是ハ議論ニナリマスカラ、唯茲ニ止メテ置キマス
○竹内正志君(九十四番) 私モ逕信大臣ニ質問シタイト思ヒマスガ、先刻逕
信大臣ハ、他ノ山陽鐵道若クハ北海道鐵道、臺灣鐵道ト云フコトヲ、例ニ御

引キニナツテ、補助シタトカ、助成ヲシタ例ハ、幾ラモアルト云フコトヲ、御
話デアリマスガ、北海道鐵道杯ト云フモノハ、少シ保護ノ筋合ガ違フデア
ラウト思ヒマス、サウデナクシテ、其外内地ノ鐵道ニシテ、私ノ聞ク所ニ據レ
バ、補助ヲ與ヘタコトガ隨分アルヤウニ考ヘテ居リマスガ、ドレ程ノ保護ヲ、
是マデ山陽鐵道、其他ノ鐵道ニ對シテ致シタノデアリマスガ、今度ノ此德島
鐵道ト云フノハ、特ニ保護ノ程度ガ重イト思フ、ソレ故ニ逕信大臣ヨリ直接
ニ承リタイ、モウ一ツハ斯ウ云フコトヲ承リタイ、政府ハ此軍事上必要デア
ルコト云フ、大變ナ宜イ名ノ美ナルモノデアッダ、軍事上ト云ヘバモウ其名ニ對シ
テ、何デモセネバナラヌト云フヤウナ觀念モアリマスガ、サウスレバ、政
府ノ御調ニナツタ所デアハ、大抵陸軍省デナクテモ當局デアアルカラ、逕信大臣ノ
所デ極デテ居ラウト思フガ、將來是ガ私共例ニナラウト思フ、ソレ故ニ此軍事
上將來必要デアアルカラシテ、斯ノ如キ非常ナル保護ヲシナケレバナラヌト云
フ鐵道線路ガ、凡ソドノ位アルカト云フコトノ御胸算ガアレバ承リタイ、ソウ
シテ若シ軍事上必要ト云フコトニ對シテハ、將來モ斯ノ如キ保護ヲ——鐵道
國有トカ買収トカ云フコトハ外ニシテ——外ノ私設鐵道ニ對シテ、矢張此非
常ナル百餘萬圓ノ助成金、若クハ一哩ニ附テ二萬四千圓ト云フヤウナ、非常
ナル保護ヲ他ノ會社ニモ、將來續々出願スルモノガアレバ、御與ニナルノデ
アリマスガ、是ハ將來ノ例ニナラウト思ヒマスカラ、ドカゾ御明答ヲ願ヒタ
イ

○逕信大臣(子爵芳川顯正君) 竹内君ニ御答致シマス、私設鐵道ニ助成シタ
例ハ、何處々デアアルカ、又山陽九州其他ニ於テ、如何ナル助成致シタカト
云フ御尋デアリマシタ、是ハ助成ヲ致シタ會社ノ名ハ、先刻述ベテ置キマシ
タカラ、其間ニ於テ助成ノ仕方ハ種々アリマスカラ、是ハ詳細ニ政府委員ヲ
シテ、辯明セシメマセウ、ソレカラ軍事上ニ於テ、云々ト云フコトガゴザイ
マス、詳細ノ答辯ハ軍務當局ヨリ致シマセウガ、今日マデ本大臣ガ軍務當局
者ヨリ交渉ヲ受ケタ書面ガアリマス、之ヲ朗讀シテ御聽ニ入レマス

鐵道敷設法第七條第一期豫定線ノ建設ハ漸次其歩ヲ進メ今後數年ノ中ニハ
全部竣成ノ答ニ候尙第二期豫定線中別紙記載ノ復路ハ軍事上緊要ナル關
係ヲ有スルヲ以テ爲シ得レハ第一期線中ニ線上ケ或ハ然ラサルモ第二期ノ
初メニ於テ敷設セシメ度候就テハ差向キ是等線路ノ測量ヲ實施シ其方向傾
斜地線ト連接ノ關係並ニ建設ニ要スル金額等調査候樣致度別紙意見書ヲ附
シ及御協議候也

○第二期豫定線ニ關スル意見書

第二期豫定線中第一期豫定線ノ線上ケ或ハ然ラサルモ第二期中最モ速ニ竣
功セシムヘキモノ左ノ如シ

一 琴平高知間

二 富山直江津間

三 米子山口間及廣島濱田間

四 熊本大分間

是ニハ軍務ニ必要ナル理由ガ書イデアリマシテ、餘リ長クナリマスカラ、省
略ヲ致シマス、而シテ最終ニ於テ

以上一乃至四ノ線路ハ孰モ第一期豫定線ナルカ故ニ遠キ將來ニ於テハ必
ズ敷設セラルヘキモノナルモ前陳ノ如ク軍事上急設ノ必要アリ故ニ之ヲ第
一期線ニ線上ケ或ハ然ラサルモ第二期中最モ速ニ敷設セシムルヲ要ス而シ
テ一乃至四ノ列席ハ其緊要ナル程度ノ輕重ニ準シテ之ヲ指定セリ尙ホ餘ノ

第二期豫定線並ニ豫定線ニアラステ軍事上必要ト認ムルモノ素ヨリ少シトモ然レトモ鐵道敷設ハ多大ノ經費ヲ要スル事業ナルカ故ニ今爰ニハ國防上目下ノ狀態ニ於ケル最下限ノ希望ヲ掲テ此通ノ意見デアリマス

○堀家虎造君(二百九番) 唯今ノ御朗讀ハ能ク私ハ承知ヲ致シマス、因ヨリサウナケレバナラヌコト、信ジテ居ル、軍務當局者カラ遞信大臣ニ向テ、御通知ノ線路ハ、其中ニ德島ヨリ池田マデト云フノガ、軍事上必要デアルト云フ意見ガアリマス、此線路ハ唯今御朗讀ノ中ニハ洩レテ居ルヤウニ聞イテ、必要ノ線路ノ中ニハ這入テ居ラヌヤウニ思ヒマス、琴平ヨリ高知マデト云フノハ、即チ必要ナル第一ニ書イテアル、然ルニ德島ヨリ池田マデト云フノハ、軍務當局者ガ軍事上必要デアルト云フコトノ、御通知ノ文章ノ中ニ洩レテ居ルヤウデアリマス、ドウ云フ譯デアリマス、或ハ池田ヨリ高知マデト云フノガ、其部分ニ這入テ居ルト云フノ御答辯ニナルカトモ思ヒマス、此軍事上ノ必要ナリト云フノハ、琴平ヨリ高知マデノ幹線ヲ言フノデアアル、此御提出ニナラテ居ル分ノ德島鐵道ト云フノハ、德島ヨリ池田マデ及池田カラ高知マデハ、此線路ガナクシテ、ソレマデノ間ハ軍事上必要ト云フコトガ、洩レテ居ルヤウニ考ヘマス、此點ハドウ云フノデスカ

○遞信大臣(子爵芳川顯正君) ソレハ何故ニ必要トスルカト云フ御尋ネデアリマス、是ハ堀家君ハ定メシ御承知デアラウト思ヒマス、本案ヲ提出致シマシタ當時ニ於テ、茲ニ陳辯致シタト私ハ心得テ居リマス、琴平カラ德島延長線ノ接續點マデノ間ノ十七哩ハ、無論抜ケテ居リマス、ソレハ今日マデノ調査ニ依リテ、殆ド峻坂險嶺ヲ以テ充サレテ居ルノデ、工事ハムツカシイト云フ今日ノ見込デアリマス、是ハ軍務當局ニ於テモ屢々交渉ヲ重ネテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ過般協賛ヲ得マシタ豫算ガ發布ニナリマシタナラバ、調査委員ヲ組ンデ、果シテ琴平ヨリ接續點ニ達スル所ノ線路ガ、出來ルヤ否ヤト云フコトガ調査シ、果シテ出來ヌト決スルトキハ、他ノ方向ニ向ッテ德島線路ニ接續セシメテ以テ、此聯絡ヲ付ケレバ宜シイト云フコトニナラテ居リマス

○堀家虎造君(二百九番) 德島ヨリ池田マデハ、必要ノ線ニ這入ッテ居ラヌノデスカ

○遞信大臣(子爵芳川顯正君) 這入ッテ居ルノデスカ、此書面ニハ這入ッテ居ルマセヌ、又德島カラ池田ニ達スルコト云フノモ、第二期線ニ這入ッテ居ル必要ナル線路デアリマス、ソレ故ニ德島ヨリ此線路ヲ延長スレバ、琴平高知間七十哩ノ中五十二哩ノ大部分ハ、即チ會社ガ建設ヲシヤウト云フノデアルト云フコトハ、本會ニ於テモ豫算委員會ニ於テモ、辯明ヲ致シタト、私ハ心得テ居リマス、ソレ故ニ分科會ニ於テモ、軍務當局者ヨリ其邊ハ詳細ニ陳辯ヲ、一昨日致サレマシタカラ、其速記録ニ就イテ、其邊ノコトハ御承知ニ相成ツタコト、信ジマス

(採決々々)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ採決致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開カウト云フ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス

○堀松隆慶君(二百二十四番) 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 直チニ二讀會ヲ開クト云フニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ直チニ二讀會ヲ開クトニ致シマス、全部ヲ議題ニ供シマス

第二讀會

鐵道敷設法中改正法律案

(「委員長報告通り、異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 委員長報告通り、御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ委員長ノ報告通決シマス

○堀松隆慶君(二百二十四番) 直チニ三讀會ヲ開イテ、確定議ヲ望ミマス

○田口卯吉君(二百五十七番) 議長ノ御宣告ニ附イテ疑ヲ生ジマシタガ、今ノハ第二デスカ、第三デスカ

○議長(片岡健吉君) 第二デスカ、直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ三讀會ヲ開キマス——第二讀會ヲ決シマシタ通御異議アリマセヌカ

第三讀會

鐵道敷設法中改正法律案

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ確定ヲ致シマス、是ヨリ議事日程ノ三ニ移リマス——島田三郎君

豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設計許可ノ件ニ關スル法律案(政府 第一讀會ノ續(委員長報告))

提出

(島田三郎君演壇ニ登ル)

○島田三郎君(二十七番) 諸君、此第一ノ議案ヲ讀スル前ニ、質問ガ續出致シマシタ、丁度委員長モ第二第三併セテ、御報告ニナリマシタガ、唯今本員ガ反對ヲ致シマス、前第二第三併セテ、御報告ニナリマシタガ、唯今本員ガ反對ヲ致シマス、本員モ大略ヲ承知致シマシタ、大臣ノ御答辯ハ誠ニ巧デアツテ、耳ヲ傾ケテ伺ッテ居リマシタガ、其言ハ何分本員ノ反對ノ意ヲ巧スルニ足リマセヌノデ、餘儀ナク反對ヲ致シマス、第一ニ此提案ハ全體ノ鐵道政策ニ矛盾シテ居リマス、第二ニハ政府ガ軍事上緊要ナリト云フコトハ、一部ノ議論デアツテ、決シテ政府全體ガ緊要ナリトハ認メテ居ラヌト信ジマス、第三大臣ハ流石當局ノ御方デアツテ、議員各位ト吾々ハ又局外者ノコトデアアルガタメニ、色々ナ例ヲ當局者カ記憶シテ居ラル、ニハ感服致シマス、其例ガ一モ事實ニ合ッテ居ラヌト考ヘマス、條ヲ立ッテ本員ガ反對ヲ致シマス(「ヒヤ」ト呼フ者アリ) 第一ニ鐵道政策ハ一定不變デアアル大臣ハ言ハレマス、是ハ虛言デアツテ、事實ハ變動極リナシト本員ハ思ヒマス(「ヒヤヒヤ」ト呼フ者アリ) 山縣内閣ノトキニ於テ、政友會ノ諸君ノ建議デゴザイマス、政府モ其建議ヲ容レテ、唯今マデ成立ッテ居ル所ノ、私設鐵道會社ヲ買上グルト云フ方針ヲ定メ、附イテ、本員ハ其時ニ可ナラズ熱心反對ヲ致シマシタケレドモ、其時ノ政友會諸君モ、當時ノ内閣モ、其當時ノ内閣ニ列セラレテ居ツタ、唯今ノ當局大臣芳川君モ、銳意シテ之ヲ議院ニ承諾ヲサセルコトニ盡力ヲ致サレマシタ、奚ソ料ラン此歴史ト全ク反對デアツテ、既ニ成

立テ居ル所ノ幹線ヲ、態々私設ニ移スト云フノデ、齒ノ拔ケタ如キコトヲヤ
ラル、ノハ、本員甚ダ不服アル、若シ今日過去ノ歴史ニ就イテ、本員ガ此
政策變遷極リナシト云フ所以デアリマシテ、唯今政府ノ提案ヲ吾々各位ト共
ニ同意ヲ致シマシタ所ノ、京都線、此鐵道ト、今一ツノ線路ハ、是マデ私
設デヤツテ居タモノヲ、緊急ナリト云フ言葉ヲ以テ、政府デ直接計畫スルコ
トニナタノデゴザイマス、其ノ事ガ國有ノ主義デアラメニ、尙ホ其順序ヲ
當局者ガ實行セラレテ、出サレタガタメニ、此線路ニ附イテ本員同意ヲ致シ
タノデゴザイマスガ、ソレト同時ニ、此度ハ既ニ官設ト定ツテ居ルモノヲ、種
種ナ口實ノ下ニ、私設ニ移シテ、尙ホ之ヲ財政上ノ潤澤ナキ所ノ今日ニ於テ、
補助金ヲ與ヘルト云フコトハ、如何ナルモノデアラカ、當局者ハ之ニハ別ナ
財源デアルト言ハレマスガ、財源ノ出所目ハ違ヒマシテモ、併ナガラ政府ノ
收入ト立テマスレバ、收入ノ一デゴザイマスカラ、豫テ行政財政ノ整理ヲ望
ムト云フ政府デアラナラバ、此ノ如キモノヲ總テ序ヲ立テ順ヲ立ツテ、圖ヲ引
イテ後ニ建築ニ取掛ルガ、今日財政整理、行政整理ヲ望ム上ニ於テ、然ルベ
キコトデアル、然ルニ其事タル、唯、調査會ノ費用ヲ要求シタルノミニシテ、
未ダ如何ナルモノニナツテ現レカ知レヌ當時ニ側カラ追加豫算ヲ出シテ、此
ノ如キ計畫ヲ變革スルト云フコトハ、本員甚ダ政府ニ一定ノ希望ナシ、政府
ニ一定ノ決心ナシ、誠ニ輕シキ舉動デアルト非難スルノデアリマス、是等
ノ場合デ申シマスルト、政府ハ誠ニ好キ所ノ文字ヲ懷ニ蓄ヘテ居ルノデゴザ
イマス、抽象的ノコトヲ列ベテ、軍事上餘額ナキナリト、誠ニ緊要ト認メタ
ルト云フ如キ語氣ヲ以テ、言ハル、ノデゴザイマスガ、本員ハ是等ノ抽象的
ノ言葉ニ同意ヲスルコトハ、出來ヌノデゴザイマス、政府ハ此ノ如ク財政ノ
方針、行政ノ方針デ、認メテモ緊急ナリト考ヘラレルナラバ、何故ニ豫テ心
ヲ決シテ、之ヲ總豫算ニ出サヌノデアラカ（ヒヤ、ト呼フ者アリ）内閣ハ
法案ハ勿論、總豫算ト云フモノハ一年中ニ之ヲ考ヘテ、熟考ノ上デ出來タモ
ノト思ヒマスガ、本員失禮ナ申條デゴザイマスガ、多キヤウニ考ヘマスガ、誠ニ國
國ニ關係アル方々ノ運動ニ依ツテ、成立タル建議ガ根ト爲ツテ、尙之ニ關係ア
ル所ノ大臣ニ大臣ガ私意ヲ挟ンデ居ラル、トハ、評シマセヌケレドモ、事
ヲ公ニ進メルヨリハ、私ニ進メルニ便宜アル、此便宜ヲ以テ、大臣ニ表ニ於
テハ職場ニ於テ建議ヲシ、表立タヌトキハ定テ朋友ノ情誼ヲ以テ、申立テラ
レタデアラウト本員ハ思ヒマス、其結果ガ急遽ニ現レテ、本員ハ決シテ議
論ヲシ、或ハ惡評ヲスルト、諸君ガ誤解セラレテハ迷惑ヲ致マスガ、前ヨリ
志ヲ決シテ緊急ト思ツタナラバ、何故ニ總豫算ニ出シテ來ラヌノデアラカ、他
之ニ對シテハ確タル答辭ヲ伺ヒタイノデアル、此建議ヲ出スニ至ツタノハ、他
ノ人ノ指導ニ依ツテ調製ヲナサレテ出シタ案ナリト、本員ハ斷言ヲ致シマスノ
モ、架空ノ想像ニアラス、諸君ニ御話スルダケノ、此ノ如キ事實ヲ綜合シテ、
決シテ推測ニ出デタルモノニアラスト、本員ハ自ラ信シテ述ベルノデアル、本
員ハ内閣大臣ヲ、此點ニ疑ヒヲ入レマセヌ、縱令德島出身ノ芳川君デアアル、大
臣タル以上ハ左様ナコトハ推測スルト、本員ガ申シタケノ事實ヲ綜合シテ、推
測スルダケノ理由ガアルデハゴザイマス、何故ニ軍事ニ急要ナラバ、總
豫算ニ出サヌノデアラカ、此事ダケハ本員ハ、大臣直接ニ明答ヲセラレンコ

トヲ望ムノデゴザイマス、且ツ又第三ニ補給ト云フコトヲ頻ニ申サレマシタ
ガ、是レ亦本員見ル所ノ事實ト違ツテ居リマス、私設鐵道官設鐵道ヲ併セテ許
スト云フトキハ、未ダ鐵道ヲ國有トスル政府ノ一定ノ方針ヲ、世ノ中ニ公ニ
セラレヌトキハ、有様デアリマシテ其トキハ山陽鐵道ハ、補助金ヲ受ケマシ
タ、又九州鐵道モ受ケタノデゴザイマス、併ナガラ一度此事ヲ一定シ、財政
ノ許ス限買上ゲルト爲ツテ、官設ト定ツタモノヲ、此ノ如キ運動、此ノ如キ嫌
疑ヲ被ツテ居ル、斯ノ如キ其地方ニ關係アル、大臣ノ在職間ニ提出ヲスルニ至
テハ、本員特別ノ理由ナクシテ、一般ノ規則ニ依ル疑團ヲ消散セシムル所ノ、
説明デナイト思フ、臺灣或ハ京釜鐵道ハ、全ク別段ノ理由デアリマス、國是
ノタメニ必要デアルト云フ、即チ軍事ノタメニ必要デアルト云フナラバ、然
ラバ政府デ引受ケベキ性質ヲ備ヘ居ルデハゴザイマセウガ、性質上申セバ此
ノ如キモノデアアルノニ、唯財政ノ上デ餘澤デナイカラ、之ヲ爲スト云フコト
ナラバ、財政ノ目前ノ理由ヲ以テ、永遠ニ行ルベキ鐵道政策ヲ自ラ定メテ、
自ラ破ルモノナリト評シ、又攻メテ差支ナイト存ジマス、故ニ第一ハ鐵道
政策ニ矛盾シ、第二ハ軍事上必要ト云フハ、噫言ナリ、第三ニ補給ノ例ハ、實
例ニ當ツテ居ラヌモノデアルト言フノデアル、而シテ此財源ハ何處カラ取ルカ
ト言フト、前ニ本員ガ否ナリト言ツタ所ノ議案、全體鐵道ヲ國有ニスルト
云フ理由ハ、如何デアッタカト云ヘバ、是ハ公ノ交通機關デアルガ故ニ、恰
モ道路ヲ造ルガ如ク、萬民ヲシテ平等ニ利澤ヲ受ケシムルニハ、私設鐵道デ
利益ヲ目的トスルモノト趣ヲ異ニシテ、政府ガ計畫スルト云フ此原理ニ因テ、
國有鐵道ノ主張ハ出來ルノデゴザイマス、然ルニ何故ニ國有鐵道ヲ主張スル
同ジ政府ガ、一般ノ鐵道ノ賃銀ヲ上ゲテ、其賃銀ヲ之ニ繰回シテ、而シテ又
此補助金ヲ爲シテ、其後ニ至ツテ此鐵道ハ軍事ノタメニ買上ゲルヨリ外ニ仕
方ナク性質ノモノヲ、私設ニ許スノデアラカ、私設鐵道ト云フ、私設
云フ文字ハ國家對私設ニアラズシテ、個人對情實ノ意味ノ私設デアラウト思
フ、ソレ故ニ情實ヨリ成立ツテ居ルモノナラバ、縱令大臣ガ之ヲ許シテモ、天
下ノ輿論ハ私ノ結晶ナリト評スデアラウト云フコトヲ豫定シテ、本員ハ絕對
ニ反對ヲ致シマス

（遞信大臣子爵芳川顯正君演壇ニ登ル）

○遞信大臣（子爵芳川顯正君） 此私設鐵道ハ助成ヲ致スト云フコトニ附イテ
ノ必要ナル理由ハ、先刻來諸君ノ御質問ニ依ツテ、縷々申述ベテ置キマシタ、
今島田君ハ之ニ對シテ反對ノ理由ヲ、縷々御陳述ニナリマシテ、拜聽ヲ致シ
マシタ、果シテ此議論ガ何レガ當レリヤ然ラザルヤハ諸君ノ公明ナル判斷ニ
訴ヘルヨリ外、仕方ガナイノデアリマス（ノウ、ト呼フ者アリ）唯茲ニ一
言島田君ノ演說ニ對シテ、申述ベテ置カオケレバナラヌコトガアル、若シ此
鐵道ヲ必要トスルナラバ、何ガタメニ總豫算ニ提出ヲセズシテ、追加豫算ト
シテ、議會ノ切迫レタル今日ニ、提出致シカト云フコトニ附イテハ、從來畫
策ヲ致シタル顛末ヲ、一通リ諸君ノ前ニ陳述致シマスデゴザイマス、此助成
費ヲ提出致シタルハ、決シテ突如トシテ起ツタ問題デアナイノデアル、京
都鐵道一部ノ免許ヲ取消サシテ、之ヲ官設ニ致スト云フコトハ、一朝デハナイ
ノデアリマス、抑、京都鐵道ニ付キマシテハ、當初一期線デアッタモノヲ、會
社ノ熱願ニ依ツテ明治二十八年中ニ、私設會社ニ許可致シタルノデアル、爾來
會社ニ於テハ、此業ニ從事シ一部分ノ、竣工ハ出來マシタガ、不幸ナルカナ
世ノ不景氣ニ際シテ、全部ハ完成スルコトガ出來ヌト云フ悲境ニ陥ツタノデ

アリマス、此時ニ於テ、陸海軍ノ當局者ヨリハ、軍防上速ニ此南北兩海ヲ連接スルノ必要ガアルガ、今日ノ所デハ到底私設會社ニハ、成效ノ目的ハ見エナイ、ソレ故ニ會社ト交渉ヲ重ネタ曉ニ、免狀ヲ上納セシメテモ、是ハ速ニ官設ニ歸セバナラヌト云フコトガ、四箇年前カラシテ始リマシタ議論デ、政府ニ於キマシテハ、前々内閣ニ於テハ、既ニ一部ノ免狀ヲ上納セシメテ官設ニシヤウト云フノ議ヲ決シマシタノデゴザイマシタガ、歲計上ノ都合ニ於テ、遂ニ今日マデ之ヲ決行スルコトガ出來ナカッタノデアリマス、昨年總豫算ヲ編成スル當時ニ於キマシテ、本大臣ハ如何ニモ其必要ナルコトヲ感ジ、豫算中ニ編入ヲ致シテ、内閣ノ概算會議ニ提出致シタノデアリマス、此時ニ於テ財政上ノ都合ガ許サヌノデアアル、必要ニハ相違ナイケレドモ、是ハ暫ク財政方策ノ定マルマデハ、是ハ延スコトニシテガ宜シカラウト云フノデ、延期致シマシタ、其當時ニ於キマシテ函檄鐵道並ニ私設鐵道ニ助成ヲ與ヘテ以テ、完成セシムルノ必要アリト認メテ、是レ亦同時ニ内閣デハ十分ノ詮議ヲ遂ゲマシタノデアリマシタガ、此時ニ内閣ニ於テハ、如何ニモ是等ノコトハ緊急ナリト認メテ、豫算ヲ提出致サウト云フ評議ヲ重ネマシタガ、是レ亦京都鐵道ニ於ケルガ如ク、一時財計上ノ都合ガ許サヌノデ暫ク財政方策ガ定マルマデ待ツテ、定メタラ宜シカラウト云フノデ、殘念ナガラ概算會議カラ削除ニナッタノデアリマス、今日ニ至リ提出致シマシタノハ、畢竟諸君ノ御協賛ヲ經テ、追々財政方策モ略々定マリマシタカラ、是ニ於テ財源ヲ求メテ以テ、其緊急已ムベカラズト云フコトヲ認メテ、案ヲ提出シテ、諸君杯ノ協賛ヲ求メル次第トナリマシタ、決シテ今日情實ニ依テ此案ヲ組ンダナドト云フコトハ、聊カナイノデアリマス、ソレハ畢竟島田君ニ於テ、御認ニナルノハ、恐ラクハ公平ナル御判斷トハ、我輩ハ思ヘヌノデアアル、此以上ハ諸君ノ御判斷ニ委スルノデアリマス、突如トシテ起リテ次第デナイト云フ頗末ヲ、陳述致シテ以テ、諸君ノ御參考ニ供シマス、此以上ハ諸君ノ公明ナル御判斷ニ訴ヘルヨリ外ニ、仕方ガナイノデアリマス

○工藤行幹君(百三十六番) 議長

○議長(片岡健吉君) 工藤君、何デスカ

○工藤行幹君(百三十六番) 本案ニ對シテ意見ヲ述ベタイ

○議長(片岡健吉君) 段々通告ガアリマス——西原清東君

(西原清東君演壇ニ登ル)

○西原清東君(二百八番) 本員ハ本案賛成ノ意見ヲ簡短ニ表明致シマス、前年黒田逋信大臣ガ熊本ヨリ鹿兒島ニ至ル第二期線ヲ、第一期線ニ繰上ゲルノ案ヲ提出セラレマシテ、兩院之ニ賛成セラレマシテ、今其工事中デゴザイマスガ、當局ノ大臣ガ自己ノ出身ノ地方ニ關スルコト云フヲ以テ、遠慮スルト云フコトガアラナラバ、其大臣ハ職職デアラウト思フ(ヒヤ)ト呼フ者アリ)今芳川逋信大臣ガ、德島縣ノ人デアアルガ故ニ、島田君杯ハ其行為ニ嫌疑ヲ挿ムト云フ事柄ハ、士君子ノ間ニ於テ甚ダ禮ヲ缺キ、又政治家ノ德義ニ於テ、如何ハシイコトト私ハ存シマス(「冒イノ」ト呼フ者アリ)本問題ハ甚ダ簡單デアリマス、即チ鐵道線中未ダ敷設ニ著手セザルモノニシテ、若シ私設鐵道會社ヨリ敷設許可ヲ願ヒ出ヅルモノアルト云フ、明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第十條ノ許可スルコトヲ得ベシト云フ、明治二十五年法律第四號鐵道敷設法第十條ノ明文ニ基キマシテ、即チ本案ハ敷設許可ノ件ニ關スル法律案ヲ許可シテ、私設會社ニ建設ヲサセヤウト云フノ案デ、可否ノ要點ハ、此案ニ關聯致

シテ居ル所ノ助成ヲ爲スト云フコトガ、含蓄シテ居ルモノデアリスルカラ、之ヲ參照シテ可否ヲ決シヤウト云フ關係ノ、問題デアラウト思フ、而シテ助成ノ方法程度等ノ審議ニ至リマスルト、事柄ガ豫算委員諸君ノ審議セラレタ、次ノ日程ニ關係ヲ持ツト思ヒマスルト、其點ニ於キマシテ特別委員ノ——委員長ノ報告若クハ之ヲ特ニ調査シタ方ノ御演說ヲ、待タウト思ヒマスルト、唯此案ハ私設會社ニ許シテ建設サスルコトノ可否及國庫ヨリ幾分ノ助成ヲ爲スト云フコトノ可否、此大體ニ附イテ意見ヲ述ベヤウト思ヒマスルト、之ニ關シマシテハ二三ノ誤謬ヲ訂サンケレバナラヌト思ヒマス、第一ハ此工事ハ——此鐵道ハ極テ困難ナル工事デアッテ、殆ド政府ガ爲サウトスルモ、出來難イカノ如ク思ウテ居ル所ノ御方ガアルヤウニアル、即チ星松三郎君ノ御議論ノ如キハ、ソレナノデアリマス、成ル程私設會社ニ於キマシテ、之ヲ建設スルノニハ、困難デアアルニハ相違ゴザイマセヌケレドモ、政府ノ事業トシテ若シ爲スベキ時ガ來ッテ、爲スト云フナラバ、左程大困難ノ事業デナイ、即チ一哩十三萬九千圓デアリマスルト、今中央線若ハ奥羽線、斯ウ云フ線路ニ附キマシテ調べ見マシタナレバ、比較的左程困難ナ工事デハアリマセヌ、ソレカラ又甚ダ不經濟ナ線路デアルト云フコトノ御論ガアル、其不經濟ノ程度ハ、會社ノ利益ガ僅ニ二朱内外ニ止マル、斯ウ云フ論デアアルガ、是ハ政府ノ計算スル所ノモノガ、斯ノ如ク會社ノ方デ計算スルト、四朱内外ト云フ見込デアアル、サウシテ四朱ト云フ位ノ程度ノモノ、若クハ二朱ト云フ位ノ程度ノモノハ、官設ナリ、私設ナリ、今開業當時ノ狀況ハ、凡ツツシナモノデゴザイマセウ、此計算ト云フモノハ、今日ノ狀態ヲ基礎トシテ、割出シマシタ計算デゴザイマセウ、現ニ北陸鐵道ノ如キモノハ、四朱内外ノ計算ニナツテ居ルデゴザイマセウ、四朱内外若ハ一朱ト云フヤウナ程度ノモノガ、決シテ絶望ノモノデナイ、今後五年若ハ十年ノ後ニ、其間ノ助成ヲ爲シタナラバ、將來ニ於テ發達ヲスルニ至ラウト云フコトハ、十分ニ想像ノ出來ル事業デアラウト思ヒマス、是ヲ頗ル不經濟デ補給ガヤマッタナラバ、ハヤ倒レルノデアルト云フヤウナ御論ニナル所ノ論者ハ、堀家君デアリマセウガ、若シ此四國鐵道ガ左様ニ不經濟デ、到底經濟ガ立行カナイモノト見ルナラバ、是ハ初カラ絶望シテゴザイマセウ、然ルニ絶望デナイ、成立ツモノデアアルカラト云フノデ、堀家君等ノ如キハ、即チ猪ノ鼻線トカ、萬駄線トカ云フヤウナ線路ガアルコトヲ主張セラレテ、熱心ニ多年計畫セラレテ居ルノデゴザイマセウ、是ガ政府ノ事業ニシテ、經營スルニシロ、將來何時マデモ、二朱トカ四朱トカ云フヤウナモノデハナイ、十分前途引合フ所ノ見込ガアルト云フナラバコソ、堀家君ナドモ、此線路ニ附キマシテモ、熱心ニ主張セラレテ居ル次第デアラウト思ヒマス、今は德島ノ方ヘ起點ヲ定メルト云フコトニ附イテ述ニ此線路ト云フモノハ見込ノナイモノデアアル、絶望スベキモノデアルト云フ聲ヲ放ツニ至ッタ次第デアリマス、之ヲ例ヘバ甲家ノ息子ガ乙家ノ娘ニ配偶ヲ求メテ、御前サンニ配偶サセリモノハ私ノ妹デアアル、姉ハ德島家ノ方ヘ配偶サセタト云フコトデ、斷ハラレタトキニ甲家ノ息子ハ腹ヲ立テ、乙家ノ娘ハ無教育デ甚ダ其人格ガ宜シクナイノミナラズ、其血統マデ不完全デアアルカラト云ウガ、腹立紛レニ論ヲ排撃シテ、遂ニ妹ト結婚スルコトスラ、望ヲモ斷ツウガ、如キ態度ニ陷ルノ論デ、果シテ經濟上、四國線ガ成立タトスルモノナレバ、猪ノ鼻線モ萬駄線モ到底望ノナイコトニ歸著致シマシテ、堀家君ノ折角ノ御熱心モ、全體ノ效力ヲ失ウジマフヤウニナルカト思ヒマ

ス(堀家虎造君)立論が違フ(ト呼フ)而シテ又此本問題ヲ財政整理ト云ウ考案カラ、甚ダ時機ニ適セヌト云フ議論ガアリマシタガ、此鐵道ヲ完成致シマスルノニハ、九百五十万圓乃至八千二百万圓程ノ金ヲ要スルノデゴザイマセウ、政府デ此事業ヲナシマスルナレバ、千二百万圓ノ金ヲ要スル、是ダケノ公債ヲ政府ガ募ルト云フコトニ代ヘテ、三百万圓ノ補給デ事ガ済ムト云ヒマスルナレバ、我邦ノ公債募集ノ高ヲ、是ダケ減ズルノデゴザイマス、明白ニ財政ノ整理ノ上ニ於キマシテ、非常ニ便宜ヲ與ヘル事柄デアリマス、斯ノ如キ事實ハ明瞭ナコトデゴザイマシテ、而シテ鐵道ノ線路ノ聯絡完備ト云フ事柄上ノ必要ト云フ上カラ云ヒマシテモ、亦此立法院、即チ國民ノ輿論ヲ代表致シテ居リマスル所ノ、議員ノ權義ト云フコトカラ考ヘテモデス、數年間此議場デ非常ナル熱心ヲ以テ、決議ヲ致シテ居リマスル趣ニ照シマシテ、政府ガ此事業ニ何トカ致シマシテ、適當ナル方法ヲ攻究シテ、敷設完備ヲセシメヤウト云フ事柄ハ、政府ノ職分デアリマセウ、殊ニ況ヤ此四國線或ハ北海道線ノ如キモノ、北海道鐵道ノ如キモノヲ助成ヲシテ以テ、完備セシメヨト云フコトハ、此衆議院ノ議場ガ實ニ大多數ノ決議ヲ以テ、建議ニ係リタモノデゴザイマス、此問題ガ議場ニ出タトキニハ、其助成ノ方法ガ惡ルイトカ、程度ガ惡ルイトカノ論ナラバ、論シ得ル餘地ガゴザイマス、大體ノ此事柄ノ可否ヲ論ズルハ、院議ノ如何ヲ少シモ顧ミナイ所ノ方デナケレバ云フコトハ出來マセヌ、島田君等ノ如キハ、衆議院ノ體面ハ如何ニ成行カウトモ、我邦ノ政府ノ職分ガ如何ニ成行カウトモ、或ハ國家ノ生産、國民事業柄ガ如何ニ成行カウトモ、ソレニハ頓著ナイ、唯潔白ヲ裝ウテ、議論ヲ自儘勝手ニ述ベサヘスレバ、ソレデ満足スルト云フヤウナ態度ハ、甚ダ以テ惜ムベキコトデアレスト思ヒマス、私設鐵道ニ官設線ヲ許可シテ居リマス、此私設線ヲ必要ニ應ジテ、政府ガ助成スルト云フコトハ、先刻當局大臣ガ演說セラレマシタル通、我國ニ於テハモウ常ニ其方針ヲ執ッテ、已ムヲ得ザル場合ニハ助成ヲシヤウト云フコトノ成績ガ十分現レテ、議會ニ於キマシテモ常ニ其協賛ヲ與ヘテ居ルノデゴザイマス、四國鐵道ナレバ何故ニ反對ヲセンナラヌカ、何故ニ潰サンナラヌカ、四國ニハ未ダ一哩ノ幹線モナイ、殊ニ此案ハ其縱貫線ノ重要ナル部分デゴザイマス、多年議場杯デ之ヲ絶叫シテ漸ク適切ナル法案ガ考出サレテ、此議場ニ上ッテ居ル際ニ、唯己ノ選舉區ノ前ヲ線路ガ通ラナイト云フヤウナコトヲ遺憾ニ思ウテ、此問題ガ將ニ成ラントスル所ノモノヲ妨グントスルニハ、實ニ遺憾ナルコトデゴザイマス(堀家虎造君)御自分ハ如何(ト呼フ)故ニ諸君ニ於カレマシテハ、ドウゾ我國ノ鐵道線路ノ完備ト云フコトニ附イテハ、無論官設ヲ主義トスルケレドモガ、財政ノ已ムヲ得ザルトキニ、若シ私設會社ガ幾許ノ補給ヲ受クルナレバ、經營ヲシヤウト云フ場合ニ於テ、其必要ヲ認ムルトキニハ、之ヲ贊助シテ鐵道事業ノ完備ヲ期セヤウト云フ點ニ御注意ヲ下サリマシテ、ドウカ此案ノ同時ニ成立致シマスルヤウニ、御贊同アラシコトヲ願ヒマス

○ 恆松隆慶君(二百二十四番) 討論終結ノ勸議ヲ出シマス
(贊成々々々)ト呼フ者アリ
(贊成々々々)ト呼フ者アリ

○ 議長(片岡健吉君) 討論終結ニ贊成ガアリマス
(贊成々々々)又ハ反對々々々(ト呼フ者アリ)

○ 堀家虎造君(二百九番) 通告ガシテアリマス
○ 議長(片岡健吉君) 討論終結ニ同意ノ諸君ハ、起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○ 議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス
○ 堀家虎造君(二百九番) ソレハ異議ヲ申立デマス
(ヤルベシ)又ハ「贊成」ト呼フ者アリ

○ 門馬尙經君(二十九番) 採決法ニ於テ異議ガアリマス、此案ハ不評判ナル案デアルカラ、議會ノ體面ノタメニ異議ガアリマス
(異議ガアル)ト呼フ者アリ

○ 堀家虎造君(二百九番) ソレナ無理ナコトハ出來マセヌ——異議ガアリマス

○ 議長(片岡健吉君) 異議ガアッテモ、異議ノ贊成ハ認メマセヌ
(贊成々々々)ト呼フ者アリ

○ 議長(片岡健吉君) 異議申立ニ贊成ノ諸君ハ、起立シテ贊成ヲ表サレンコトヲ望ミマス、成規ノ贊成者アルト認メマス、是ハ先例ノアルコトデゴザイマス、討論終結スルヤ否ヤノ採決ヲ、記名投票ヲ以テ致シマス——宣告ヲシテ置キマスルガ、討論終結ニ同意ノ諸君ハ白イ札、又之ニ反對ノ諸君ハ黒イ札ヲ入レマスル、閉鎖是ヨリ點呼ヲ始メマス
(書記氏名ヲ點呼ス)

○ 議長(片岡健吉君) 投票漏ハアリマセヌカ——投票漏ハナイト認メマス——閉鎖

○ 議長(片岡健吉君) 投票ノ結果ヲ御報告致シマス
(書記官投票ノ數ヲ計算ス)
(寺田書記官朗讀)

出席總員 百九十五
可トスル者 百六
否トスル者 八十九

(參照)

贊成者氏名	
伊東 四郎君	粕谷 義三君
持田 若佐君	元田 肇君
大瀧 傳十郎君	多田 作兵衛君
田村 順之助君	松本 正友君
北田 豐三郎君	大塚 常次郎君
脇坂 行三君	中田 彌平君
山口 定省君	西ヶ谷 可吉君
古谷 新作君	永江 純一君
阿部孫左衛門君	稻垣 示君
市條 謙一郎君	岩瀬 武司君
上岡 政香君	野尻 岩次郎君
神藤 才一君	並河 理次郎君
門脇 重雄君	内田 雄藏君
新開 貢君	土居平左衛門君
森 東一郎君	内藤 守三君
	戸狩 權之助君
	渡邊 猶八君
	高橋 九郎君
	村野 常右衛門君
	宮崎 榮治君
	河崎 善之助君
	下飯坂 權三郎君
	長坂 重孝君
	武石 敬治君
	横山 通英君
	申本 康三君
	堀田 連太郎君
	田中 昌藏君
	佐藤 周一郎君
	龍野 基君
	有馬 要介君

大三輪長兵衛君 橋本久太郎君 武市彰一君 藤金作君
石谷重九郎君 有村連君 吉岡直一君 平田力之助君
丸山崎一郎君 杉田定一君 演名信平君 富永準太郎君
秋岡義一君 關信之介君 赤土亮君 西川宇吉郎君
西原清東君 中井廣太郎君 小田貫一君 田健治郎君
長谷場純孝君 新井章吾君 恆松隆慶君 山本幸彦君
大久保鐵作君 井手毛三君 齋藤和乎太郎君 堀田軍之助君
佐々友房君 兒玉仲兒君 板東勸五郎君 林元俊君
田中喜太郎君 本間直君 永井嘉六郎君 菅原傳君
重野謙次郎君 齋藤卯八君 根本正君 井上角五郎君
西谷金藏君 阿部興人君 菊池九郎君 野田卯太郎君
武弘宜路君 反對者氏名 須藤善一郎君 佐藤宗彌君 井上源衛君
山田順一君 淺香克孝君 伊藤直純君 鈴木萬次郎君
秋山源兵衛君 菅野善右衛門君 星松三郎君 宮原幸三郎君
門馬三郎君 山崎庸哉君 白井哲夫君 鹽田忠左衛門君
島田三郎君 西村眞太郎君 堀越寛介君 高川定次郎君
降旗元太郎君 鹽路彦右衛門君 三輪潤太郎君 竹内正志君
三輪傳七郎君 安川繁成君 堀木文三郎君 大津淳一郎君
福島一造君 岡本松太郎君 鈴木吉次郎君 石原半右衛門君
佐藤伊助君 岡本松太郎君 鈴木吉次郎君 石原半右衛門君
武市庫太郎君 天野若圓君 金崎義明君 奈須川光實君
高梨哲四郎君 橋元幹君 山內吉郎兵衛君 大東義徹君
星野甚右衛門君 工藤行幹君 德差藤兵衛君 杉下太郎右衛門君
大隈秀實君 征矢野半彌君 江島久米雄君 秋保親兼君
廣住久道君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
宮井茂九郎君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
河野廣中君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
堀家虎造君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
永田佐次郎君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
岡田龍松君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
西村淳藏君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
木村格之輔君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
廣村貞文君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
大村和吉郎君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君
森川八右衛門君 鈴木重遠君 鞍谷清慎君 中山平八郎君

○議長(片岡健吉君) 討論ハ終結セラレマシタ、是ヨリ本案ノ第二讀會ヲ開
クヤ否ニ付テハ、又記名投票ヲ望ムト云フ申出モアリマスガ、議長ニ於テハ記名投票
ヲ以テ、此採決ヲ致サント思ヒマス
(賛成)ト呼フ者アリ、拍手起ル
○議長(片岡健吉君) 諸君ノ席ニ名刺ノ紙ガアリマセヌカ——青ト白トノ紙
ガアリマセヌカ
(「アリマス」又「アリマセヌ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 尙ホ宣告致シマスガ、本案ニ附イテ第二讀會ヲ開カウ
ト云フ諸君ハ、諸君ノ席ニ白イ名刺ガアリマス、ソレニ記名ヲシテ投票ヲナ
サルヤウニ、又是ニ反對ヲスル、即チ一讀會ヲ開クベカラズト云フ諸君ハ、諸
君ノ席ニ青イ紙ガアリマス、ソレニ記名ヲシテ投票ヲスルコトニ致シマス
(「紙ガアリマセヌ」ト呼フ者アリ)
○議長(片岡健吉君) 用紙ノナイ所ニハ、用紙ヲ配リマス、閉鎖、是ヨリ氏
名點呼ヲ始メマス
(書記氏名ヲ點呼ス)
○議長(片岡健吉君) 投票漏レノ方ハアリマセヌカ——投票漏ハナイト認メ
マス開鎖、是ヨリ開票ヲ致シマス
(書記官投票ノ數ヲ計算ス)
○議長(片岡健吉君) 投票ノ結果ヲ報告致シマス
(林田書記官朗讀)
出席總員二百九
可トスル者 百三十四
否トスル者 七十五

(參照)

贊成者氏名

井上信八君 千田軍之助君 西村淳藏君 寺田彦太郎君
兒玉仲兒君 長坂重孝君 村瀨庫次君 田中喜太郎君
秋山元藏君 飯島正治君 堀田豐彦君 西谷金藏君
阿部興人君 雨森菊太郎君 麻生太吉君 神藤才一君
平田力之助君 林雨森 喬君 武市彰一君 大輪長兵衛君
三田村甚三郎君 石谷重九郎君 有村彰一君 中井廣太郎君
上條謙一郎君 加藤政之助君 市岡政香君 新開廣太郎君
龍野周一郎君 長瀬清一郎君 永江純一君 金田平五郎君
門脇重雄君 齋藤壽雄君 渡邊猶人君 前川幸彦君
三輪傳七郎君 西ヶ谷可吉君 佐々友房君 山本幸彦君
草刈武八郎君 青木正太郎君 有馬要介君 大岡育造君
野間五造君 井手毛三君 阿部孫左衛門君 林彦一君
申本康三君 山田莊左衛門君 征矢野半彌君 土居平左衛門君
並河理一郎君 松岡長康君 宮崎榮治君 多田作兵衛君
大久保鐵作君 古谷新治君 山口定省君 木村賢太郎君
大瀧傳十郎君 石黒酒一郎君 村野常右衛門君 脇坂行三君
安藤龜太郎君 田村順之助君 津野野 基君 內藤守三君
鹽田忠左衛門君 武石敬治君 首藤邦基君 元田熊三君
藤島金作君 橋本久太郎君 吉岡直一君 山口熊三君
鹿島秀實君 國重政亮君 野尻岩次郎君 丸山崎一郎君
布施甚七君 大塚常次郎君 瀧口一君 永井嘉六郎君
金井亮君 高橋九郎君 瀧口一君 永井嘉六郎君
赤土亮君 下飯坂權三郎君 武弘宜路君 伊藤謙次郎君
林元俊君 小田貫一君 菅原傳君 重野謙次郎君
板東勸五郎君 齋藤卯八君 本間直君 和泉邦彦君

中村 榮助君 河口 善之助君 松本 正友君 野田 卯太郎君
横山 通英君 高川 定次郎君 奥 繁三郎君 井上 角五郎君
杉田 圭一君 鈴木 德兵衛君 富永 準太郎君 佐々木 昌藏君
望月 圭介君 西原 清東君 戸狩 權之助君 秋岡 義一君
關 信之介君 濱名 信平君 石田 貫之助君 西川 宇吉郎君
恒松 隆慶君 長谷場 純孝君 新井 章吾君 熊代 謙三郎君
伊東 健治郎君 柏谷 義三君 持田 若佐君 齋藤 和平太郎君
反對者氏名 中田 彌平君

關 直彦君 高梨 哲四郎君 三輪 潤太郎君 福島 一造君
堀 寛介君 安川 繁成君 大村 和吉郎君 佐久間 國三郎君
井上 源衛君 山崎 庸哉君 白井 哲夫君 藤沼 丈吉君
西村 貞太郎君 箕浦 勝人君 菅野 善右衛門君 宮原 幸三郎君
佐藤 宗彌君 門馬 尚經君 宮井 茂九郎君 永田 佐次郎君
神 輿 知常君 江藤 新作君 内山 松世君 佐々木 正藏君
廣 住 久道君 天野 若國君 大隈 英齋君 杉下 太郎右衛門君
内田 雄藏君 福田 久松君 江島 久米雄君 河野 廣中君
武 富 時敏君 大矢 四郎兵衛君 堀 藤 伊助君 鈴木 重遠君
降 旗 元太郎君 橋 元 易君 堀 田 連太郎君 大東 義徹君
小 崎 義明君 石原 半右衛門君 奈須 川 光實君 重 森 吉次郎君
工 藤 行幹君 山内 吉郎兵衛君 廣 瀬 貞文君 山 田 順一君
鈴木 萬次郎君 須藤 善一郎君 菊池 九郎君 中 島 祐八君
島 田 三郎君 星 松三郎君 吉 田 格之輔君 藤 野 辰次郎君
森川 六右衛門君 岡 田 龍松君 木村 格之輔君 淺谷 清慎君
秋山 源兵衛君 秋保 親兼君 堀家 虎造君 竹内 正志君
鹽路 彦右衛門君 中山 平八郎君 鈴木 文三郎君 加藤 六藏君
田口 卯吉君 岡本 松太郎君 大津 淳一郎君

清水 靜十郎君 伊藤 直純君 高岡 忠郷君
○議長(片岡健吉君) 本案ハ二讀會ヲ開クコトニナリマシタ
○議長(片岡健吉君) 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス
○議長(片岡健吉君) 直チニ二讀會ヲ開クニ異議ハアリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ直チニ二讀會ヲ開クコトニ致シマ
ス、委員長ノ報告通り御異議アリマセヌカ

豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法 第二讀會
豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法 第二讀會
豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ニ關スル法 第二讀會

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ委員會長報告ノ通決シマス
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開カレンコトヲ
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ委員會長報告ノ通決シマス
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開カレンコトヲ
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ委員會長報告ノ通決シマス
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開カレンコトヲ
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

官報號外 明治三十五年三月五日 衆議院議事速記第二十四號 議事日程第三乃至第十ノ件

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ直チニ三讀會ヲ開クコトニ致シマ
ス、二讀會決議通御異議アリマセヌカ

豫定鐵道線路中私設鐵道會社ニ敷設許可ノ件ニ關スル法律案 第三讀會

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通確定致シマス
○議長(片岡健吉君) 次ノ日程ノ四カラ十マデ一括シテ議題トセラ
レンコトヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君カラ次ノ日程ノ第四ヨリ第十マデ一括シ
テ議題トスルト云フ動議デアリマスガ御異議ハアリマセヌカ
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通ニ致シマス、委員長石田貫之助
君

- 第四 (第五號) 明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案
(特第六號) 明治三十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(追第五號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件
- 第五 (第六號) 明治三十四年度歳入歳出總豫算追加案
(特第六號) 明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案
(追第五號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件
- 第六 (第七號) 明治三十四年度歳入歳出總豫算追加案
(特第六號) 明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案
(追第五號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件
- 第七 (第八號) 明治三十四年度歳入歳出總豫算追加案
(特第六號) 明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案
(追第五號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件
- 第八 (第九號) 明治三十四年度歳入歳出總豫算追加案
(特第六號) 明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案
(追第五號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件
- 第九 (第十號) 明治三十四年度歳入歳出總豫算追加案
(特第六號) 明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案
(追第五號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件
- 第十 (第十一號) 明治三十四年度歳入歳出總豫算追加案
(特第六號) 明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案
(追第五號) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要
スル件

石田貫之助君演壇ニ登ル

○石田貫之助君(二百一十六番) 報告ヲ致シマス先ツ第一ニ即チ議事日程ノ第
四ニアリマスル所ノ第五號明治三十五年度歳入歳出總豫算追加案トゴザイマ
ス、本案ハ即チ北海道鐵道株式會社ノ補助金及ビ鐵道建設費ニ於キマシテ、即
チ舞鶴鐵道ノ建設費トゴザイマス、デ此北海道鐵道ノ補助費ニ附キマシテハ、
豫算會議ハ相當ト認メテ可決スルコトニ致シマシタ、次ニ此舞鶴鐵道ノ本年
ヨリ建設ヲ始メテ、向フ四箇年ニ互ル繼續事業トシテ完成セシムルハ、目下鎮
守府ノ出來タ今日ニ於テ、又南北ノ聯絡ノ交通上ニ於テ、最モ急務ニシテ適切
ナル事業ト認メテ、是モ矢張賛成スルコトニ決定致シマシタ、又此歳入經常
部即チ百六千三百二十五圓ト云フ、即チ鐵道基金、是レ亦同様可決致シマシ
タ、第五號ノ追加豫算ニ附キマシテハ、豫算委員會ハ決定ハ即チ右ノ如クデ
アリマス、次ノ日程第五、即チ特第六號明治三十五年特別會計歳入歳出豫算
追加、是ハ即チ先刻申シタ案ノ歳入ニ當テ居ルノデ、鐵道作業收入、即チ運
賃ヲ若干値上ゲ、ソレ増收入ヲ圖ルコトニ決定致シマシタ、次ハ日程第五號豫算
外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スル件、是ハ即チ北海道鐵道第五箇年
半ノ補助、及四箇年間ノ補助ヲ爲スル契約デアリマス、是レ亦豫算
會ニ於テハ可ニ決定致シマシタ、而シテ先刻來即チ法律ノ改正ニ關シ、續々
質問ガアリ、反對ノ議論ガ現レマシタ、即チ今報告致シマシタ、三案中ノ四
國鐵道デアリマスガ、此事ニ附キテハ、豫算會ニ於テ多少初ニ保護ノ仕方ニ

補助デハアリマセヌ、收益ノ足ラザル、儲ノ少イ所ノモノ金額ニ當テ、八
朱ノ補給ヲスルト云フノガ、是マデノ即チヤリ來ッタ所デアアル、即チ一部ハ鎮
諸ガ出來ルカラ、一割ナリ一割二分ナリノ配當ガ出來ルノデアアルガ、其他ノ部
分デ足ラヌ所ダケニ向ッテ、八朱ノ補給ヲスル、左様ナ方法ト云フモノハアル
マイト云フコトハ、數年吾々ノ難シタ所デアリマス、而シテ吾々ハ何期ト云フ
コトハ、正ニ記憶致シマセヌガ、第四期頃ノ議會ト考ヘマス、其時ニ青森仙臺
間ノ補給額ガ四十有餘万圓デゴザイマシタ、即チ右ノ算出上ニ依リマシテ、
補給スル金額ハ其當時ニ於テ、四十万圓バカリゴザイマシタ、而シテ其收益ハ
如何ト云フニ、殆ド算盤ニ掛ラヌ位ノ收益デアアル、此八朱ノ配當ヲサレル所
ノ金額ハ、全然政府カラ金ヲ出スト云フ場合デアリマシタ、ソレデ日本鐵道
會社ノ補給額ナルモノヲ、上野仙臺間若クハ仙臺青森間ノ十五箇年ヲ、八朱ノ
補給ト云フコトニシテ積算シテ、此方法ニ依ッテ哩ニ割當テタナラバ、三万四
万ノ補給デアリマセヌ、澤山ナ補給ニナッテ居ル、架設費ハ全然政府ガ與ヘテ
サセタ鐵道ニナッテ居ルト云フコトノ信ズルノデアアル、ソレヲ世人ガ又議會ニ
於テ、何故怪マヌカト云フコトハ、八朱ニ至ルマデノモノハ、補給スルト云
フノデアアリマスカラ、他ニアル所ノモノハ、六朱マデニ至ラズンバ、其補給
ヲシテヤルト云フノデアアリマスカラ、其十年若ハ十五年ノ積算ヲシテ見マセ
ヌカラ、左程妙ニ感シナカッタノデアアル、是ハ即チ法ガ變ッテ、斯ク出マシタガ
故ニ、一哩三万四千圓デゴザイマシタガ、建設費ヲ補助シ、剩ヘ其後三箇年ニ
於テ、二十有餘万圓ヲ補助スル、斯ウナッテ居リマスカラ、私共ハ最初餘程奇
體ニ考ヘタ、驚イタト云フ位デアッタ、然ル處段々積算法ヲ開クト、右ノ次第デ
ゴザイマシテ、ソレデ私共ハ若シ從前ノ如ク此補給ヲシテ、拂込金額ニ對シテ
收益ノ殘額ニ對シテ、六朱ノ補給ヲ十年間スルト云フコトニナッタナラバ、此
總金額ト國庫ヨリ支出スル總金額ト、ドチラガ多額ニナルカ、少額ニナルカト
私ハ尋ネタノデアアル、其訓ハシテ居ラヌガ、想フニ六朱ノ補給ヲ十年間ト云
フコトニ致シタナラバ、此金額ヨリハ餘程増加スルダラウト云フコトデアリ
マス、ソレデ吾々ハ諸君ト同様ニ、補給額ト云フ方法ニ至ッテハ、驚キ且ツ怪
ミマシタ位デアリマシタカラ、一應調査シタ顚末ヲ、玆ニ御報道シテ可決シベ
ル結果ヲ、併ヒテ報道致シマス、其次ハ諸君ト共ニ最モ厭フベキ、最モ悲ムベ
キ、彼ノ第五聯隊ノ第二大隊ノ凍死慘狀事件ノ始末デゴザイマス、本案ヲ調
査スルニ當リマシテハ、先ヅ豫算委員ハ最初ニ於テ、當局者ニ質問ヲ致シマシ
タ、能ク詮議ヲ致サナケレバナラヌト感シタコトハ、何デアアルカト云フト、斯
ノ如キ言フニ忍ビザル所ノ慘狀ト云フコトハ、實ニ古今未曾有デアアル、尤モ兵
士ガ一朝戰場ニ立テバ、毫モ死ヲ願ミズト云フコトハ、當然ノコトデアッデ、又
我帝國ノ兵士ガ、常ニ此勇武ナルト云フコトハ、萬國ニ對シテ誇ル所デゴザイ
マス、然レドモ兵士ト雖モ、人命ハ最モ大切ナル事柄タルハ、言フヲ俟タヌコ
トデアアル、苟モ左程急務ナル事柄ニアラズ、左程又必要ナルコトニアラズ、又
或ハ緩慢ニシテ、若クハ行軍調査不調ノ結果トシテ、多數ノ人命ヲ陷レルト云
フコトニ至リマシテハ、容易ナラヌ事柄デアアル、而シテ此慘死タルヤ全ク避ク
ベカラザル、即チ天災不慮ノ事柄デアッテ、實ニ如何トモ致方ナキ事柄ヨリ生
ジタ結果デアアルカ否ヤ、若シモ此事柄ガ常ニ雪中行軍ハアリト雖モ、天候地
形其他ノ不調等ヨリ生シテ、斯ノ如キ數多ノ最モ有爲ナル兵士ヲシテ、此慘
狀ニ陷ラシメタト云フ事柄ニ至ッテハ、容易ナラザル事柄デアアル、此邊ニ就イ
テハ當局者ノ調査如何、意向如何ト云フコトヲ、豫算會ハ質問致シタノデゴ

ザイマス、然ルニ當局者ハ之ニ答ヘテ曰ク、尤ナル御質問デアリマスル、此事件ニ附キマシテハ、當局者モ全ク御同感デゴザイマシテ、若シモ此事ニ附イテ、過ヨリ生ジタルモノデアルカ、嚴密ニ十分ノ調査ヲ致シテ、若シ其調査ノ結果トシテハ、毫モ假借ナキ處分ヲスルノ覺悟ヲ有シテ居ルノデアアル、然レドモ此事柄タル、第一急務トスベキ所ハ、最後ノ策即チ死體ノ搜索前後ノ始末ガ第一ノ急務デアアルガタメニ、其方ニ致々汲々トシテ掛ツテ居ルガ、未ダ五十有餘名ノ凍死者ヲ、發見セザルト云フ今日デゴザイマス故ニ、此凍死者ヲ發見シ、此殘務ヲ附ケマシタ、第二ニ於テ十分ニ調査ヲ遂ゲ以テ、其結果如何ニ依ツテハ、毫モ假借ナキ處分ヲスルト云フコトデゴザイマシテ、是ニハ吾モ満足致シタコトデゴザイマス、又其言ヲ信用致シタコトデゴザイマス、面シテ其結果本案ハ全ク賛成スルト云フコトニ決定シマシタ、尙ホ茲ニ申上グテ置キマスルノハ、此中ノ賜金ノ目デゴザイマス、戰死者ニ對シテノ賜金ト云フコトハ、明治二十七八年ノ戰役以來、此度ノ北清事件ニモゴザイマスケレドモ斯様ナ慘死ニ對シテノ賜金ト云フコトハ、例ノナイイコトデアリマスケレドモ、今般ノ慘死ニ就キマシテハ、豫算會ハ已ムヲ得ズ相當ノ事柄デアルト認メテ、原案ヲ可決シマシテゴザイマス、次ハ議事日程ノ第八ノ第二號明治三十五年歲入歳出總豫算追加案デゴザイマス、是ハ歳入臨時部ニ於キマシタ第三款雜收入金七萬圓、是ハ第五回內國勸業博覽會ノ入場券デ、是ハ大阪市ニ打切請負ノ方法デアリマス、從來ノ第三回第四回ノ博覽會入場券ノ金高ハ、大抵五萬圓以上六萬圓以下デゴザイマスガ、尙ホ百般ノ進歩ト共ニ、多少ノ増加ヲ見テ、七萬圓ト云フコトハ、適當ト見テ之ヲ可決致シマシタ、次ハ第七款ノ獻納金一萬圓、是ハ堺市ヨリ寄附致スノデアリマス、既ニ三十四年度ノ追加豫算デ議決サレタルデアアルノデアリマスカラ、同様之ヲ可決致シマシタ、次ノ第一款外務本省千四百八十五圓ハ、即チ常設仲裁裁判所ノ分擔金デアリマシテ、外國ノ仲裁裁判ノ仲間入ヲシテ居ルノデ、其割前金デアリマス、是ハハ原案ヲ賛成致シマシタ、次ハ大藏省ノ所管ニ於テ第三款恩賞諸祿三千二百八圓三十三錢三厘、是ハ曩ニ決定致シマシタカーグードノ年金ノ増加及ベルツノ年金リーツノ年金、此三名外國人ノ恩給デアリマス、是ハ可決致シマシタ、次ノ第十款ノ稅關一萬千七百餘圓ト云フモノガアリマス、是ハト先ニアリマスモノ所ノ、歳出臨時部ノ第二款ノ大藏省所管營繕費ト云フモノハ、全ク關聯シタルモノデアリマスカラ、一度ニ是ハ報告致シマス、且ツ是ニハ兩項トモ、即チ修正ガ致シテアリマス、是ハ私設保稅倉庫ヲ許シマスニ附ギマシテ、即チ稅關支署ヲ二箇處設ケルト云フノデアリマス、其營繕費ト云ヒマスノハ、即チ其家屋及雜費デゴザイマス、是ガ諸君ノ御手許ニ回ツテ居リマス通、此金額ハ約折半シテゴザイマス、茲ニ今持合シテ居リマスケレドモ、一々此金額ヲ讀ムハ餘リ要用デナイト思フガ故ニ、省キマス、何故ニ折半シテ半額置イタト云フト此一箇所ハ東京ニ之ヲ置クト云フノデアリマス、之ヲ調査ノ際ニ於キマシテハ、今一箇所ト云フモノハ、土地ヲ明言致シマセナダデアアル、ツレデ土地ガ未定ト云フ位ナ事ナレバデヤ、即チ急務ノ事業ト、是ハ認ムルコトハ出來ヌデアアル、且ツ聞ク所ニ依レバ、京都ニモ此私立保護會社ト云フモノガアルサウデゴザイマスガ、是ハ極ク閑散ナモノデアツテ、格別有要デナイト云フヤウナ傾ニモナツテ居ルト云フコトモ、傍ラ聞クノデゴザイマス、サレバ即チ

來タモノデヤサウデゴザイマス、其負債ガ今日ハ五万二千圓アリマス、是ガ五朱ノ利息デ借入レテアリマス、ソレデ此五万二千圓ノ負債ナルモノハ、此際ニ於テ償却ヲ致シ、其餘分ノ金額ハ、靖國神社ノ馬場其他ノ周圍ニ於テ、尙ホ相當ノ手入ヲ致シ、且ツ又其殘額ハ相當之ヲ積置クト云フノデゴザイマス、ケレドモデヤダ、即チ是ハ廢スルト云フコトニナリマシタ、是ハ全體其每年七千有餘圓ト云フモノハ、國庫カラ支出致シマシテ、靖國神社ニ於テ、使用致シテ居リマス、コトデゴザイマス、若シ相當ナ修繕、其他ニ於テ必要ガアリマス、ナラバ、國庫カラ其時ニ於テ支出ヲ致シテ可ナリ、今日ニ於テ特別ニ其金ヲ積置クノ必要ハナイト認メマシテ、是ハ五万二千圓ニ止メテ、其殘餘ハ是ト減額スルコトニ致シマシタ、其次ニ農商務省第五款ノ補助費三萬圓、是ハ原案ヲ賛成致シマシテゴザイマス、此事ニ附キマシテハ、多少豫算委員ニ於テ議論モマリマシタ、且ツ又一方ニ於テハ稅ヲ取リ、一方ニ於テハ保護ヲシ、且ツ又說明書等ニ依リマス、コト云フト、即チ大島ヨリ多額ノ消費稅ノ結果トシテ、稅金ヲ取ルニ至ツタカラ云ツト云フヤウナ、何カ救助ノ意味モアルカノ如ク見エマス、ケレドモ、十分ニ調査ヲ致シタノデゴザイマス、殊ニ此件ハ五箇年ノ繼續費デゴザイマス、然ルニ是ハ彼ノ大島ノ糖業ガ砂糖消費稅法ノタメニ、影響ヲ受ケルカラト云フ、救助的ト云フコトハ認メズ、彼ノ地方即チ大島、其土地ガ最も砂糖ノ出來ルニハ適當ナ地デア、而モ其栽培宜シキヲ得ザル所ヨリシテ、漸ク一段ニ四百斤ト云フ位ノ小數ノ砂糖ヨリ製出ヲ致サナイ、若シ之ヲ他ノ地方ノ如ク相當ナル栽培法ヲ致スナラバ、餘程増加スルコトハ、此地形ト云フモノガ、實ニ然ルベキ事柄デア、唯斯ノ如ク地形ガ該業ニ適スルニモ拘ラズ、幼穉ナルト云フモノハ、全ク民智進マザル結果デア、カラ以テ、其獎勵ヲスルト云フノデゴザイマシテ、是ハ固ヨリ前途國家カラ申シマシテ、稅ト云フ上ニ於キマシテモ、却テ此位ナ補助ハ適當デア、ト認メタガ故ニ、即チ賛成ヲ致シマシタ、次ハ第九款是ハ第五回內國勸業博覽會十七万六千有餘圓デア、是ハ即チ繼續費ニナツテ居リマシテ、先キニ決定ニナツテ居リマス、其儘異議ハアリマセ、次ハ特第二號明治三十五年度特別會計歲入歲出豫算追加、是ハ極ク簡單ナモノデゴザイマシテ、文部省デアリマス、特別資金支出ト云フノガ金五百七圓、是ダケガ即チ費途指定デ寄附金ガアルノデアリマス、其寄附ノ指定ト云ヒマス、ハ、學生費ニ寄附ガ出來テ居ルノデア、之ヲ公債デ買ウテ居ル、其利子即チ之ニ充テルト云フノデ、誠ニ簡單ナル原案デアリマス、原案ノ通可決致シマシタ、次ハ即チ追第三號豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スルモノ、先刻申シマシタ所ノ外國人三名ノ恩給ノ契約デアリマス、ソレカラ農商務所管ノ糖業補助ノ繼續ノ五箇年ノ契約デアリマス、前陳申シマシタ次第デアリマス、本案ハ可決スベキモノト決定致シマシテゴザイマス、以上右ノ通デアリマス

○議長(片岡健吉君) 江藤新作君

(江藤新作君演壇ニ登ル)

○江藤新作君(二百三十一番) 本員ハ本案ニ反對ノ意見ヲ述べマス、此豫算案ハ北海道ノ鐵道建設費補助費及舞鶴鐵道ノ建設費ニ對スル支出ニ對シテ、鐵道ノ益金百萬幾ラト云フモノヲ以テ、其費用ニ充テルト云フ計畫ニナツテ居リマス、是ハ一種ノ増稅ヲ爲シ、鐵道ノ益金ヲ増シ、鐵道ノ賃金ヲ増

シテ、鐵道ノ建設及補助費ニ充テルト云フノハ、一種ノ増稅ヲ爲シテ、斯ウ云フ事業ヲ金テルト云フウヤナ案ニナツテ居ルデア、此追加豫算ト云フモノガ、今日此十五議會モ將ニ終局ニ至ラントスル場合ニ臨シテ、斯ノ如キ豫算ヲ續々ト提出セラルト云フノハ、如何ナルモノデアラウ、先刻ハ達ヒマシタ、前ノ日程ヲ讀スル場合ニ島田君ノ非難ニ答ヘテ、遞信大臣ノ御演說ノ中ニ、突然斯ウ云フ案ヲ出テタノデア、是ハ會計上ノ都合ニ依ツテ、今日ニ延シタノデア、本豫算ニ編入スルコトガ出來ズニ、追加豫算トシテ出スヤウニナツタノデア、ト云フヤウナ、御演說ガアリマシタガ、會計上ノ都合デハナイ、私ナドノ考デハ、政府ガ今日ニ至ツテ斯ノ如ク追加豫算ヲ續々ト提出セラレルト云フモノハ、決シテ是ハ會計上ノ都合デハナイ、會期ガ切迫シテ居ル場合ニ、ドサクサ紛レニ、斯ウ云フ案ヲ通過サセテシマフト云フヤウナ、一種ノ政略デハナイカト思フノデアリマス、本議會ノ終ニ臨シテ、追加豫算トシテ出サレテ居リマス、所ノモノガ、今日ニ至ルマデ第一ヨリ第七ニ至ル、總豫算ノ追加ニ屬スルモノガ、千二百萬圓ノ金額ニ上ツテ居ルデア、ソレカラ特別會計ノ追加ニナツテ居ルノハ、二千六萬圓カラノ金額ニ上ツテ居リマス、斯ノ如キ多額ノ追加豫算ヲ、續々トシテ本期ノ議會ニ提出セラレテ、政府ハ少モ其間ニ遠慮スル所モナイト云フノハ、本員等ガ如何ナル性質ノモノデアラウ、追加豫算ト云フノハ申スマデモナイ、是ハ本豫算ヲ編成スル場合ニ、豫期スルコトガ出來ナカッタ場合ニ、伴フ所ノ豫算、即チ青森ニ於ケル凍死事件ニ關スル豫算ノ如キモノハ、是ハ勿論本豫算ヲ編成スル場合ニ、如何ナル人ト雖モ之ヲ豫期スルコトガ出來ナイモノデアリマスカラ、追加豫算トシテ出サレルト云フモノハ、至當デア、然ルニ此中ニハ初ヨリ分リ切ツテ居ル所ノモノガ、幾ラモ出サレテ居ル、例ハ此鐵道ニ關スル豫算ノ如キモノモ、本豫算ヲ編成スル場合ニ、分ラヌ譯ハナイ、若シ分ラヌト云フナラバ、政府ノ人ハ餘程愚ナリト言ハザルヲ得ナイノデア、唯分ツテ居ルモノヲ、殊更ニ今日ニ延シ、殊更ニ本豫算ニ編入セズシテ、追加豫算トシテ出スト云フノハ、本豫算ノ編成ノ方式ヲ破壞シテシマフモノデハナカラウカト思フノデア、申スマデモナイ、我國ノ總豫算ノ編成ノ方式ハ、國家財政ノ出入ノ均衡ヲ保チ、財政ノ全般ノ事態ヲ、一目ノ下ニ明ニスルヤウニ拵ヘテアルノデア、然ルニ總豫算ノ既ニ決定セラレタ後ニ至リ、或ハ種々ノ追加豫算ノ名目ノ下ニ、今日モ追加豫算、追加豫算ニ亞グニ追加豫算ヲ以テスルト云フガ如クスルナラバ、事實ニ於テハ豫算案ト云フモノガ、幾ツモ出來ルト云フヤウナ姿ニナリハシナイカト、私ハ思フノデゴザイマス、若シ斯様ナコトニシテ、豫算案ヲ編成シテモ構ハナイ、總豫算決定後ニ、幾ラモ追加豫算ヲ出シテ構ハナイト云フナラバ、決シテ豫算編成ト云フモノハ、ソレ程困難ナ事業デハナイト私ハ思フノデア、決シテ豫算銀行ノ番頭ト雖モ、此位ナコトハシ得ルデアラウト私ハ思ヒマス、若シ政府ヲシテ、斯ノ如キ追加豫算ヲ提出スルコトヲ許スナラバ、議會ハ何ノ考モナク、斯ノ如キ追加豫算ニ協賛ヲ與ヘルナラバ、例ハ本期議會ニ提出サレタ所ノ吳造兵廠ノ擴張案ノ如キ、議會ノ議論ノ爭點ト爲ルベキ問題、總テ總豫算ノ隨分ヤカマシカリサウナ問題ヲ、殊更ニ總豫算ヨリ抜イテシマツテ、先ツ容易イモノダケ、議會ノ協賛ヲ經テ置イテ、ムヅカシイ

問題ハ後トカラ、追加豫算トシテ出スト云フヤウナ、政府ガ手段ヲ取ツタナ
ラバ、諸君ハ甘ジテツレニ向ツテ、承諾ヲ與ヘルヤ否ヤ、協賛ヲ與フルヤ否
ヤ、私ハ諸君ノ賢明ナル、決シテ斯ノ如キ亂暴ナル豫算ニ向ツテ、協賛ヲ與
ヘナイコトヲ信ジマス、然ラバ今日政府ガ爲シテ居ル所ノ、追加豫算ヲ續
トシテ出シ、總豫算ノ追加ニ於テモ、既ニ千二百萬圓ノ額ニ至ルマデモ出シ
タト云フノハ、政府ガ漫ニ己ノ權能ヲ振回シテ、一種ノ豫算ノ濫出ト云フヤウ
ナコトヲ爲シテ居リハシナイカト思フノデアアル、一方ニ於テハ、既ニ政務
調査會ト云フモノヲ起シ、財政ノ整理ヲ企テルト云フ宣言ヲシナガラ、財政
整理ニ著手ヲスルト云フヤウナ手段ヲ取ツテ居リナガラ、一方ニ於テハ自ラ
財政ヲ紊亂スルガ如キ、今日ノ追加豫算ノ濫出ノ法ト云フモノハ、政府ノ
胸中如何デアラウカ、吾々ハ一向解スルコトガ出來ヌデアリマス、故ニ私
ハ政府ガ將來ニ於テ、斯ノ如キ亂暴ナル處置ヲ爲シテ、我國ノ財政ヲ紊亂ス
ルキ方略ヲ取ルコトヲ妨ゲルタメニ、今日ニ於テ其亂暴手段ヲ防禦スルタ
メニ、此度出シテ居ル所ノ追加豫算ノ中ニハ、或ハ必要ナルモノモアル
デアリマセウ、併ナガラ大體ニ於テハ、吾々ハ斯ノ如キモノハ大體ニ於テ、
之ヲ否決スル、例ヘバ此鐵道建設費ノ如キモノニ致シマシテモ、其實質ニ於
テハ必要デアアルカモ知レナイ、併ナガラ之ヲ追加豫算トシテ出サル、ニ
至ツテハ、吾々ハ之ヲ不穩當ナリ、即チ本豫算ニ編入シ、本期ノ議會ニ於テ
間ニ合ハナカッタナラバ、次ノ議會ニ提出サレルトコトヲ、希望スルト云フ意
味ニ於テ、本案ヲ否決スルト云フノハ吾々ハ國家ノ財政ヲ整理スル點ニ於
テ、必要ナルコトデアラウト信スルデアリマス、故ニ本議場ニ多數ヲ制セ
レテ居ル所ノ政友會ノ諸君ト雖モ、虚心平氣ニ本員ノ演說ヲ御聽ニナツタ
ナラバ、本員ノ演說ニ御贊成ニナルコトヲ、私ハ決シテ疑ハナイノデア
リマス、茲ニ反對ノ意見ヲ一言述べテ、諸君ノ清聽ヲ煩シマシタ
○西谷金藏君(二百八十一番) チョット江藤君ニ質問致シマス、江藤君ノ唯
今ノ此反對ハ、此唯今議題ト爲テ居ル、四カラ十マデニ互ル全部ニ對シテ
ノ、御反對デアリマスカ
○江藤新作君(二百二十六番) サウデス、全部ニ對シテ大體ノ反對デス
(西谷金藏君演壇ニ登ル)

○西谷金藏君(二百八十一番) 諸君、私ハ此追加豫算ノ要求ニ對シテハ、
先程委員長カラ報告致シマシタ通、豫算委員會ノ決定ニ同意スル者デゴザ
イマス、唯今江藤君ハ、大體ニ於テ御反對ヲセラレマシタ、成ル程會期ノ切
迫スル場合ニ於テ、續テ政府ガ追加豫算ヲ出シマスルコトハ、私ト雖モ江藤
君ニ大ニ同情ヲ表スルノデゴザイマス、然レドモ全部ヲ通シテ、政府ノ提出
否ナリト云フコトハ、恐ラクハ出來マイト考ヘマス、ツレデ此追加豫算トシ
テ要求セラレテ居リマスル所ノ中、一番重ナルモノヲ舉ゲテ申セウナラ
バ、京都ノ鐵道或ハ北海道ノ鐵道、四國ノ鐵道等ニ關スル建設費、若クハ補
給ノ利子ヲ給與スルト云フノガ、一番重ナル要求デアルト考ヘマス、江藤君
ノ主トシテ論ゼラレル論旨、此處ニ在ルコトヲ承知致シマシタ、併ナガラ此
件ニ對シテハ、本員殊更ニ喋々反對スルマデモナク、前ニ法律案ヲ決定セラ
ル、場合ニ於テ、種々審議討論モ盡サレマシタコトデゴザイマシタ、今更彼
此申シマスルハ、殆ド蛇足ノ嫌ガアラウト考ヘマス、凡ソ物ハ成ルノ日ニ成

ルニアラズト云フコトハ、皆サンモ御承知ノ通デアアル、又事ハ原因アリ結果ア
リト云フコトモ、論ノナイコトデアアル、凡ソ此追加豫算ノ問題ト爲テ居ル
所ノ鐵道ノコトガ、如何ナル經過デ今日ニ至ツタカト申シテ見マセウナラバ、
此事ハ本院ノ既ニ宿題ト爲ツタ、先日當院カラ現レマシタ建議案ヲ、審議
セラル、トキニ方ツテ、特別委員長ガ報ゼラレテ曰ク、此建議ハ當期議會ニ
初メテ起ル問題ニアラズシテ、既ニ前々議會ニ於テモ、此要求ガアルニ拘
ラズ、尙ホ政府ハ此要求ニ應ゼザルガ故ニ政府ハ宜シク當期議會ニ於テ、
是等ノ始末ヲ爲スベシト云フ意志ヲ以テ、當院ニ報告セラレ、其當時一二ノ
反對者ハゴザイマシタガ、議長ガ之ガ採決セラレマストキニ方ツテハ、殆ド
滿場一致御贊成セラレタノデアナイカ、其建議案ニ何ト書イデアリマス、
必ズ當期議會ニ相當ナ案ヲ立ツテ、付議スベシト云フノ請求デハゴザイマセ
ヌカ、又先キニ島田君ハ仰セラレマシタ、私ハ此場合ニ言フハ甚ダ如何ト考
ヘマスルガ、島田君ハ動モスレバ過ヲ政友會ニ嫁スルト云フヤウナコトヲ、
仰セラレタルデアアル、先日ノ續毒事件ノ質問セラレルヤ、事ヲ政友會内閣
ノ失態ニ歸セラレタノデアアル、此建議案ノ成立シタノモ、即チ政友會ガ私シ
タモノ、如ク仰セラレタノデアアル、然ルニ此建議ハ如何ナル方面デ、成立シ
テ居ルカト云フコトヲ、島田君能ク御覽ナサレタナラバ分ラウト思フ、
此建議案ハ提出者ハ二十餘人ニシテ、各黨各派ノ重ナル人ガアルト云フコト
アリ、三四俱樂部アリ、中立アリ、政友會アリ、殆ド此院ノ全部ニ涉ツテ居
ルノデゴザイマセウ、又其地方ヲ申シテ見マセウナラバ、奥羽ノ端ヨリ九
州ノ端ニ至ル處デ選出セラレタ所ノ議員諸君ガ、東西隈ナク此案ニ同意ヲ表
シテ案ヲ立テラレタノデゴザイマス、是ニ於テ今日此場合ニ、此論ノ出ルト
云フノハ、實ニ政治家ノ德義トシテ、私ハ嘆息スルノ外ハゴザイマセヌ、如何
ニ議場ニ於テ反對ヲシタ法律ト雖モ、其案ガ一度成立シテ兩院ノ議決ヲ經
テ法律ト爲ツタ曉ニハ、必ヤ國民トシテ遵奉ノ義務ガアルノデアアル、縱令政
友會一個ノ提案ナリトシテモ、此院ニ於テ多數ノ決議ト爲ツタ以上ハ、政
黨政派ノ如何ニ拘ラズ、此德義ハ宜シク守ラレベキモノデアルト云フコ
トハ、私ノ口ヲ藉ツテ申スマデノコトデアアルマイト考ヘマス、此故ニ
此案ヲ今更彼此論議スルハ、殆ド無用ノ論ナリト信ジマス、私共豫算委員ト
シテ殊ニ其局ニ當タル分科委員トシテ、多少本件ニ附イテハ調査シタ所
ノコトモゴザイマスルガ、其調査ノ經過ニ附イテハ、豫算委員長ヨリ親切
周到ニ説明セラレタコトデアリマスカラ、是レ亦今ノ場合、改テ申ス要
ハアルマイト思フ、唯疑フ堀家君ノ此案ニ對シテハ、頗ル熱心ニ御反對
セラル、ニモ拘ラズ、建議ノ場合ハ明ニ署名シテ贊成セラレタノデア
ル、不幸ニシテ此線路ハ堀家君ノ地方ニ及バザルガ如キモノナルガ故ニ、反對
セラレルノデアナイカト云フコトハ、誠ニ堀家君ノ平生ニ徵シテ、私共ハ堀家
君ノタメニ甚ダ惜ムノデアアル、ツレデ若シ餘リ反對ガゴザイマスレバ、私ハ
此案ニ對スル利害、總テノ點ニ附イテハ、多少研究ヲシタ所ノコトモゴザイ
マスルケレドモ、今ノ場合彼此論議スルハ、殆ド敵ナキニ矢ヲ放ツガ如キ嫌
ハマデ述べテ宜シク滿場諸君ノ德義ニ訴ヘテ、此案ヲ見事ニ可決セラレンコ

ト望ミマス

(田口卯吉君演壇ニ登ル)

○田口卯吉君(二百五十七番) 本員ハ第五號ノ甲號ノ歳入第三款ノ官業及官有財産收入ノ百万餘圓、是ヲ削ルコトヲ主張シマス、ツレカラ歳出ニ於キマシテ、第一款補助費ノ北海道鐵道株式會社補助十四萬、之ヲ削ルコトヲ主張シマス、ツレカラ特第六號ヲ削除スルコトヲ主張シマス、デ其事ニ附キマシテハ、先キニ島田君其他ヨリ續々述べラレマシタカラ、本員ハ敢テ喋喋シマシテ、諸君ヲ煩スコトヲ致シマス、セデゴザイマスルガ、抑此點ニ附キマシテ、先刻芳川遞信大臣ガ述べラレマシタ御言葉ハ、誠ニ御本旨デナイヤウニ本員ハ考ヘマスカラ、先ヅ此點ヨリ此議案ニ對シテ、反對ヲ表サナケレバナラス、ト申スモノハ芳川遞信大臣ハ此德島鐵道並ニ北海道鐵道等ニ補助スルコトヲ云フコトハ、豫テヨリ考ガアッタノデアルト云フコトヲ述べラレマシタ、本員ハ島田君ノ攻撃セラレタル所ハ、重ニ此德島鐵道並ニ北海道鐵道ニ關シテノ議論デアッタガ、豫テヨリ計畫シテ云々ト云フ辯解セラレタノハ、重ニ此京都鐵道ヨリ舞鶴ニ至ル線路ノコトニ附テ、御攻撃デアッタノデアアル、此點ハ、本員等ハ固ヨリ賛成ヲシテ居ル、軍備上必ズ必要ガアルデアラウト思ヒマシテ、賛成ヲシテ居ル、併ナガラ此德島鐵道並ニ北海道鐵道ニ補助スルコト云フコトニ至リマシテハ、反對デアアルノミナラズ、殊ニ之ヲ官設鐵道ノ乘車賃ヲ増シテ、而シテ之ニ補助スルコト云フニ至ッテハ、如何ニモ輕忽ナル豫テヨリ計畫シテ出サレタナラバ、唯今江藤君ノ述べラレタ如ク、通常歳入ノ豫算ニ於テ出サレルノガ至當デアアルノニ、此追加豫算トシテ、殊ニ斯ノ如キ收入ヲ以テ、之ニ補助セラル、ト云フニ附イテハ、本員ハ大ニ怪マザルヲ得ズ、又反對セザルヲ得ヌノデゴザイマス、ナゼナレバ元來芳川遞信大臣ハ、斯ノ如キ場合ニ於テ、常ニ鐵道ノ收入ヲ増スコトヲ主張セラル、此以前鐵道ノ收入ヲ増シタトキニ、汽車賃ヲ増サレタ、場合ハ如何デアッタカ、諸君ガ地租増徴ニ反對セラレテ、僅ニ三分三厘ニ止メルト云フコトニナリマシテ、國家ノ歳入ガ缺乏シテ、其場合ニドウ云フコトデアッタカ、芳川遞信大臣ガ是ニ對シテ鐵道ノ收入ヲ増スガ宜シイ、郵便稅ヲ増スガ宜シイト云フノデ、之ヲ承諾セラレタ、此度ノ此議案——追加豫算モ本員ノ見ル所ヲ以テスレバ、大藏省ハ承諾シナイノデアアル、必ズ承諾シナイ、彼ノ四國ノ鐵道ノ如キ、北海道鐵道ノ如キニ向ッテ、補助スル金ハナイ、諸君ハ通常豫算ヲ今日マデ議サレテ、斯ノ如キ收入ノナイコトハ、諸君御承知デゴザイマセウ、況シテ三十四年度ニ於テハ、六十萬圓ノ無理ナル會計規則ニ背イテ居ル所、借入金繰延杯ヲ爲シテ、僅ニ此財政ヲ支ヘテ今日ニ當ッテ、大藏省ハ必ズ此二ツノ鐵道補助ト云フコトハ、承諾シナカッタラウト、本員等ハ認メルデス、ツレ故ニ此ノ如キ奇怪ナル追加豫算ガ出タ、鐵道ノ收入——ツレナラバ鐵道ノ收入ヲ増シテ、サウシテ此二ツノ鐵道ヲ補助スルゾ、ツレニハ其中ニ於テ最モ至當ナル、誰シモ拒ムベカラザル、議員諸君ノ拒ムベカラザル京都鐵道補助ト云フコトガ、交ヘテアルノデス、サレバ私ハ茲ニ於テ諸君ニ向ッテ言フノニ、斯ノ如キ私設會社ニ向ッテ、補助スル場合デナイ、帝國財政ハ決シテ此ノ如キモノヲ、補助スル必要ノナイ場合デアアラウト思フ、デ是等ニ附イテハ芳川遞信大臣ハ陸軍當局者カラ、是等ニ

向ッテ早ク線路ヲ敷クヤウニト云フ要求ガアルト云ウテ、其手紙ヲ朗讀セラレマシタ、陸軍當局者ガ此ノ如キコトニ向ッテ、要求ヲスルノヲ、此議會ハ直チニ軍備上必要トシテ、直チニ承諾セラレマスカ、私ハ陸軍省ノ種々ノ場合ニ於テ、有效ナルコトヲ知ル、今日マデ種々ノ場合ニ於テ、成績ノ好カッタコトヲ褒メマス、併ナガラ陸軍省ガ鐵道ノコトニ喩フ容レテ、是マデ失敗シタコトガ、鐵道アルカ東海鐵道ハ陸軍省ガ常ニ反對シタ所、彼ハ中仙道鐵道ヨリ外ハイカヌ、東海道ニ於テハ敵ノ彈丸ガ當ルカラ、彼處ニ鐵道ヲ敷クノハ軍備上惡ルイト言ッテ、多年反對ヲシテ居タデハアリマセヌカ、此東海道鐵道ガ今日國家ニドノ位用ヲ爲シテ居ルカ、又最モ笑フベキハ、陸軍省ハ常ニ軍備上カラ、算ヲ立テルカラ、例ヘバ水戸鐵道ノ如キモ、水戸ノ本城ト別ノ城トヲ分ッテ、彼處ニ鐵道ヲ通ズルニ當ッテ、之ニ橋ヲ架ケタトキ陸軍省參謀本部ハ反對ヲシテ、單ニ橋ヲ架ケルノハ軍備上イカヌ、若シ敵ガ本城ニ據ッタ時分、單ニ橋デハ直グニ壞レルカラ、是ハ鐵道ニシナケレバナラヌト云フヤウナコトヲ、水戸ノ地方、彼ノ本城ニ敵ガ據ッテ、コチカラノ敵ノ攻メルニハ、橋デハ弱イカラ、隧道ニシロト云フマデ、彼ノ水戸杯ニマデ敵ガ上ッテ來ルト來ルト云フコトヲモ願慮シテ——是ハ實ニ國家ノタメニ、萬一ヲ願慮スルト云フ點カラ云フト、感謝スルケレドモ、併シナガラ鐵道ノコトニ關シテ、陸軍ノ希望ト云フモノハ、常ニ議會ハ容レベキモノデナイ、大ニ願慮シナケレバナラヌノデ、中仙道鐵道ヲ、彼ガ主張ヲシテモ、東海道鐵道ヲ吾ハ主張セサルヲ得ヌ、此四國鐵道ドウデス、四國ヲ貫通スレバ軍備上宜シイト云フノハ、勿論多辯ヲ要サナイ、併ナガラ海軍ガアルデアリマセヌカ、土佐ヘ敵軍ガ據ル、外國軍ノ據ルノヲ恕レルノデアアルカ、又差向追加豫算トシテ、ツレナラバ補助スルマデ、國家ガ危急ニ迫ッテ居ルカ、土佐ガ危イカ、如何ナル國ガ土佐ニ據ッテ上陸シヤウシテ居ルカ、笑フベシ、コンナ追加豫算ハアリマセヌナ(笑聲起ル)唯此四國德島鐵道ヲ補助スル、一哩四萬圓程ノモノヲ補助スル、一ノ前提トシテ、四國ノ某議員ニ向ッテ贊成——建議ヲ先ヅサセテ見タ、議會デ以テ建議ノトキニ當ッテハ、當議會ハ實ニ弊ガアル、輕々ニ之ニ贊成ヲスルト云フ事柄ガアル、殊ニ歳出ヲ増加スル建議ノ如キハ、英吉利ノ議會デハ實ニ禁シテアル併ナガラ、當議會ハ建議ノトキニ當ッテ、實ニ輕々ニ贊成ヲスル故ニ贊成サセテ——建議サセテ見タ上デ、此追加豫算ガ出テ來タ、而シテ財政ニ於テ餘裕ガアルナラバ宜シイ、官設鐵道ノ收入ヲ一錢——何厘増セバ百萬圓取レルカラ、宜シイ、此二ツノ鐵道補助ヲヤラウト云フ意見デ、此追加豫算ガ出テ來タト本員ハ信ズル、實ニ奇々怪々ナル豫算デアアル、私ハ前ノ議案ニ於テ——彼ノ從來官設ヲ主張セラレテ居ル遞信大臣ガ、其支線ノ——其線路ノ一部分、德島鐵道ニ許ス、而シテ之ニ向ッテ補助スルニ附イテ、從來ノ御主義ト大ニ反對シテ居ルデハナイカト云フコトヲ、質問シマシタガ、然ルニ之ニ對シテ辯明セラレマスケレドモ、此ノ如キ辯明ノ言葉ハナカラウト思フ、本員等ノ考ザヤ——向後私設會社ニ向ッテ補助スルト云フコトハ、斷シテヨスガ宜シイ、補助スベキ線路ハ國家自ラヤルガ宜シイ(ヒヤク「ト呼フ者アリ」ツレヨリ外ハ決シテ此國家ヲ維持スルニ於テ、又議會ヲ清潔ニ保ツニ於テ、好キ方法ハナカラウト信シテ居リマス、デ殊ニ一哩三萬四千圓ヲ補助スル、國家ノ此財政窮乏ニ

當テ、一哩三萬四千圓ノ補助ヲスルト云フノハ、何ト云フ議案デアル、又ツレガ出來上ツタ後ニ、一十六萬幾ラヲ補助スル、三年間補助スルト云フヤウナ、如何ニモ杜撰千萬ナ、又一個人ノ私情ヲ容レタル不可思議ナル議案デアル、之ヲ帝國議會ガ容レマスノハ、本員帝國議會ノ腐敗ノ證據ト直ニ(ヒヤク)ト呼フ者アリ、拍手起ル。看做シテ宜カラウト思フ、想フニ諸君ハ黨議トカ云フヤウナ譯デ、弱質版摺ラレテ御居デ、ゴザイマスカラ(ヒヤク)ト呼フ者アリ自由ノ意志ヲ表スルコトガ出來ヌカ知リマセヌガ、諸君ガ代表セラレテ居ル國民ハ、尙ホ——國民ハドウデアル、諸君ノ代表スル國民ハ如何ナル有様デアルカ、年々國稅並ニ地方稅ノ徵收ニ堪ヘズシテ、二十錢バカリノ金ガ拂ヘズシテ、志納處分ヲ被ル者ガ、年々二十萬戸モアルデハナイカ、二十萬戸——百萬人ノ人ガ志納處分ヲ受ケテ居ル、此ノ如キ獨立獨行ノ人民、ツレガ自ラ働イテモ志納處分ヲ受ケル者ガ、百萬人、二十萬戸モアル間ニ於テ、一會社ニ向ッテ、僅ニ今マデ——其會社モドシナ値打ノアル會社カ知ラス、社長ハドシナ者カ知ラス、併ナガラ僅ナモノデ、今マデ三朱バカリノ配當ヲシタコトモアルトカ、或ハ配當モ出來ズ、多クハ無理配當デ居タトカ、實ニ一個ノ馬車會社見タヤウナモノデアル(拍手スル者アリ)此德島鐵道會社、其會社ニ向ッテ三萬圓——三萬四千圓ノ補助、出來上ツタ所ニ二十萬圓補助スルトハ何デス、諸君、頭ニ心ガアルカ、腦ヲ持ッテ居ルノカ(拍手、笑聲起ル)本員ハ斷然反對ヲスル、故ニ本員ハ此歲入ノ三款並ニ歲出ノ第一款並ニ此特追第五號ノ契約ヲ、破棄スルコトヲ主張致シマス

(贊成々々)ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 反對ノ通告ガアリマスガ、贊成ノ通告ガアリマスガ、此際贊成ノ演說ヲ求ムル諸君ハアリマセヌカ——堀家虎造君

(堀家虎造君演壇ニ登ル)

○堀家虎造君(二百九番) 諸君、私ハ追第五號豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ要スル件、此本案ニ附キマシテ反對ノ意見ヲ述ベヤウト存ジマス、曩ニ第三ノ日程ノ當時ニ本員ハ所見ヲ述ベタイト存ジマシテ、通告ハ致シテゴザイマシタケレドモ、不幸ニシテ討論終結ノ動議ノタメニ妨ゲラレ、ツレガタメニ述ブルノ機會ヲ失シマシタガ、漸ク唯今議長ノ許シヲ得マシテ、登壇ヲ致シマシタカラ、聊カ自分ノ所見ヲ述ベテ、諸君ノ御贊成ヲ得タイト存ジマス、先刻來段々西原君若クハ西谷君、本員ノ平素敬愛スル所ノ政友諸君ヨリ、種々ナル御批評ヲ受ケ、誠ニ私ニ取リマシテハ光榮ト存ジマス、餘程諸君ノ私ヲ見ルコト誤解サレテ居ルト信ズルノデアル、或ハ私ハ地方ノタメニ、此問題ニ反對スルト云フコトヲ、誤解セラレテ居ル、決シテ私ハ地方ノタメニ、之ニ反對スル者デナイ、誠ニ私ガ此案ニ反對ノ意志ヲ表スルト云フコトハ、實ニ心苦シイノデアリマス、成ル程人ニ誤解ヲセラレカモ知レマセヌ、四國選出ノ議員デアリナガラ、四國ノ鐵道ニ反對スルハ、ドウ云フ譯デアル、斯ウ云フ諸君ノ御疑問ハ御尤ナ御疑問ト存ジマス併ナガラ私トモ、決シテ四國鐵道ノ速成ヲ希望セザル者デハアリマセヌ、固ヨリ四國鐵道ノ速成ヲ希望スル一人デアリマス、先刻西原君カラ段々ノ御話モアリマシタ通、本員モ共ニ此一期線線上デ、若クハ此速成ヲ希望シタル一人デアリマス、ツレガ何故ニ、此案ニ反對ヲスルカト云フコトニ附イテ、聊カ辯明ヲシテ置キタ

イト思フノデアリマス、私ノ四國鐵道ノ速成ヲ希望スルト云フモノハ、ドウシテモ此四國鐵道ノ大體ノ方針ヲ定メナケレバナラヌト云フコトガ、先ヅ以テ私ノ主張スル點デアリマス、先日日本員ハ質問書ヲ遞信大臣ニ出シタ、此案ノ議事ニ上ル以前ニ、政府ノ方針ヲ聞イタイト云フコトノ質問書ヲ、本院ヘ提出シテ置イタデアリマス、凡ソ四國ニ鐵道ヲ敷クト云フ以上ハ、四國ノ鐵道ノ大體ノ方針ヲ、政府ハ立ッテ居ルカ否ヤ、四國本土トノ聯絡ハ何レノ點カラ取ルノカト云フコトヲ、政府ニ尋ネテ居ルケレドモ、政府ハ未ダ答ヲシナイ、誠ニ私共ハ不満足ヲ有スルノデアル、一體鐵道ノ如キハ國家百年ノ大計ヲ定ムルノデアアルカラ、宜シク慎重ナル調査ヲ要スルコト、信ジテ居ルノデアル、政府ハツレガタメニ、通常豫算ニ既ニ來年度ノ豫算ニ於テ、十五萬圓ト云フ鐵道調査費ト云フモノヲ要求セラレテ、既ニ先日豫算委員會ニ掛ッテ、本院決議セラレタコトハ、諸君ノ御承知ノ通、其十五萬圓ノ鐵道調査費ナルモノハ、何ガタメニ要求セラレタデアルカ、鐵道ノ將來ノ政策ニ附イテノ方針ヲ定メルニ附イテ、實地ヲ測量ヲシナケレバナラヌ必要ガアツテ、要求セラレタデアルデアリマセウ、即チ來年度ニ於テ鐵道調査費十五萬圓ヲ以テ、全國ニ技師ヲ派遣シテ鐵道ノ將來ニ附イテノ方針ヲ立テ、ツレ等ノ測量ヲセラレルノ必要ガアルタメニ、十五萬圓ノ豫算ヲ要求セラレテ諸君モ速ニ之ニ協贊ヲ與ヘラレタノデアリマセウ、其調査費ヲ要求セラレテ、是カラ調査ヲシタル後ニ、初テ確定ナル方針ヲ以テ、而シテ鐵道ノ經營ヲスルト云フノガ、政府ノ方針デアラウト思フ、私ノ之ニ反對スル所以ハ、宜シク此全國ノ鐵道調査ヲセラレテ、方針ヲ極メタル後ニ、明年度ニ極メルモ敢テ晚シトシナイト云フ考デアル、故ニ此案ヲ一箇年延期ヲシタイト云フガ、本員ノ考デアリマス、即チ遞信省ノ方カラ十五萬圓ノ要求ヲセラレテ居ル、其費用ヲ以テ來年度ハ實地ニ、十分ナル調査ヲセラレ、而シテ果シテ其方針ニ依ッテ鐵道ヲ續ク敷設シテ往クト云フコトデアレバ、本員ハ決シテ反對セヌデアル、併ナガラ未ダ調査不十分ナリト遞信省モ見テ居ルガ故ニ、此調査費ヲ要求シタルデアリマセウ、然ルニ未ダ調査ガ十分デナイニモ拘ラズ、政府ハドンドシヤッテ往カヌト云フコトニ附イテハ、私ハ聊カ異議ヲ唱ヘンケレバナラヌノデアリマス、決シテ絕對的ニ之ニ反對スル者デハアリマセヌ、宜シク此調査費ヲ要求セラレタ趣意ニ基イテ、慎重ナル實地ノ調査ヲシテ、政府ガ一定ノ方針ヲ立テラレテ、其方針カラ割當タル所ノ線路ナラバ、本員ハ喜デ贊成ヲ表スルノデアル、今日之ヲ輕卒ニ議スルト云フコトハ、國家百年ノ大計ヲ誤ルモノデアルト自ラ信ジテ居ルノデアリマス、我ハ地方論ヲ言フナト云フヤウナ、御批評ガアルカモ知レマセヌガ、此地理ノコトハ、其地方ノ者ガ言ハナケレバ、他ノ地方ノ人ハ地理ノ御案内ガナイノデアアル、其土地ヲ熟知シ、其地方ノ事ヲ能ク承知シタ者ガ言ハナケレバ、遠方ノ諸君ハ御承知ガナイノデアアル、ツレデアリマスカラ、或ハ地方論ヲ唱ヘルトカ何ト云フヤウナ、御批評モアリマセウガ、本員ハ決シテ地方論ヲ唱ヘル者デアリマセヌ、先刻西原君ハ選舉區ニ著カナイカラ云々ト云フヤウナ、冷評的ノ御言葉ガアリマシタガ、西原君ガ即チ島田君ニ對スル御辯駁ニハ、實ニ禮ヲ失ッテ居ルモノダト云ッテ、頻ニ島田君ヲ罵詈セラレマタガ其西原君ハ拙者ニ對シテ禮ヲ失ッタル者デアラウト存ジマス(ヒ

外ノモノトナツテ、今日ハ非常ニ迷惑シテ、漸ク政府ヘドウゾ買上ゲテ貰ヒタ
イト云フノデ非常ナル運動ヲシテ、漸ク今日ノ日程ニ上ツテ居ル如クニ、官設
ニ又再ビ買上ゲルト云フヤウナ議案ヲ、政府ガ提出セラレテアリマス、若シモ
此京都鐵道ガ私設會社デ實行ヲセズニ、官ニ任セテ置イタラ、五年モ六年モ前
ニ全通シテ、舞鶴京都間ノ聯絡ガ附イテ居ルデアラウト思フ、餘リ基地ノ人ガ
急イダタメニ、却テ急ダ道ハ回レデ、却テ私設會社ニ此建設ヲ許シタメニ、
京都舞鶴間ノ聯絡ガ附カズ、今日デハ中斷セラレテ、途中ノ所デ行詰ツテ、國
部ヨリ向フヘ往ケヌザヤアリマセヌカ、是ガ即チ好イ先例デアラウト私ハ信
ズルノデ、官設鐵道ヲ官設デヤラセタナラバ、モウ五十六年モ前ニ出來テ居ル、
京都ト云フ大都市ヲ控ヘテ、向フニ舞鶴ト云フ軍港トノ間デアアルカラ、國家ニ
急ヲ要シテ敷設シナケレバナラヌノデアアル、然ルヲ一朝政策ヲ誤ツテ、一度京
都鐵道會社ニ、之ガ敷設權ヲ許シタメニ、今日デハ軍事上ニモ困ツテ居ルデ
アリマセウ、政府ノ方モ迷惑ヲシテ、ドウカ是ハ買戻サネバナラヌ、速モ私
設會社デハ、彼ハ出來ナイ、引合ハナイト云フコトハ、現ニ實例ガ、今日ノ
日程ニ上ツテ居ルデハゴザイマセヌカ、此德島鐵道モ、或ハ其例ニナリハシ
ナイカト、私ハ心配スルノデアアル、舟戶ヨリ池田マデノ間ハ出來ルト云フコ
トハ、是ハ國ク信ジテ居ル、是ハ一哩ニ附イテ七万圓位ノ金デ出來マスカ
ラ、或ハ出來ヤウト信ジテ居ル、併ナガラ池田ヨリ高知ニ至ルマデハ、諸君
一哩ニ附イテ十八万圓カラ掛ルノデアアル、殆ド十八万圓カラノ工費ヲ掛ケテ、
サウシテ私設會社デ、是ガ引合フモノデスカ、京都鐵道ノ通又買上ゲテ下サ
イト云ツテ、諸君ノ前ヘ五年カ十年先キニハ議案ト成ツテ、提出シテ來ルコト
ハ、本員ガ茲ニ明言シテ置クノデアアル、鐵道ノ速成ヲ希望スルタメニ、京都
鐵道ノ二ノ舞ヲ蹈シテ、途中デ始末ニイカヌモノガ出來ヤシナイカト心配ス
ルノデアアル、四國鐵道ノ速成ヲ希望スルタメニ、宜シク政府ハ完全ナル鐵道
ヲ敷設シテ貰ヒタイ、ツレハ金ガナイデ、斯ウ云フ問題ニナツテ來ルト云フ
ガ、金ガナイト云フ上ニ、新ニ政府ハ四朱八重マテ責任ヲ帶ヒル、ツレナラ
モウ一朱二厘張込シテ、官設デヤッタラドウダ、出來ヌト云フ理窟ハナイ、政
府ガ六朱マデ出サウト云フナラ、五朱ノ公債ヲ發行シテヤレバ宜イ、決シテ
出來ヌト云フ算盤ハ出ヌノデアアル、又補給方法ニ附イテ本員ハ甚ダ理事者ヲ
疑フノデアアル、此補給ノ方法ニ附イテ、理事者ノ説明ニ據ルト、建設費總額ヲ
總哩數デ割ツテ、七箇年六朱ノ利子ヲ掛ケタモノガ、一哩ニ附イテ三万四千圓
デアアルト云フ説明ヲシテ居ル、成ル程七箇年デ總テノ工費ヲ合シテ、德島カラ
高知マデノ間ヲヤツテシマッタラ、或ハ三万四千圓平均ニナリマセウガ、併ナ
ガラ諸君、舟戶ヨリ池田間ノ一區線路、マア殆ド是ハ遞信省ノ豫定デアアルカ
ラ、確定トハ云ヘマスマイガ、遞信省ナドデ聽イテ見ル所ニ據リマスルト、舟
戶ヨリ池田マデ三十四哩四十鎖ト云フモノハ、七万七千五百五十一圓デ出來
ル、斯ウ云フコトデアアル、其七万七千五百五十一圓ノ内デ、三万四千圓マデハ
政府ガヤルノデアアル、折半ニシタヨリ千圓政府ガ餘計ニ出ス、宜シウゴザイマ
スカ、德島鐵道ガ三万三千圓出シテ、ツレカラ政府ガ三万四千圓出ス、サウス
ルト、半民半官ノ先ヅ事業ト云ウテ、然ルベシデアアル、是ガ一哩ニ附イテ三万
四千圓デアツテ、豫算ヲ胡麻化シテ居ルノデアアルト信ジテ居ル、ナゼナレバ池
田ヨリ高知間ト云フモノ、調ガ、一哩ニ附イテ——池田ヨリ新改間ガ是ガ三

十九哩六十鎮、是ガ一哩ニ附イテ十七万三千五百八十五圓掛カルデ、此線路ノ高イ所ノ平均哩ヲ、舟戶池田間ニ持ッテ來テ、サウシテ七箇年ノ「利子六朱ヲ盛立」タルカラ、斯ウ云フ算盤ガ出テ來ル、併ナガラ池田ト舟戶間ト云フモノハ、「工事費ガ減ニイラナイ、工事ノ爲シ易イ所ダ、其工事ノ容易ナ所ダト云ヘバ、七箇年トコデナイ、二年デ出來ル、一年カ二年デ出來ル、一年カ二年デ出來ル所ヘ、七箇年ノ利子ヲヤル」ト云フコトハ、許サレヌコト、思フ、利子ガ甚ダ不都合デアリマセヌカ、ツレバ今朝鐵道局長ニ質問シタケレドモ、鐵道局長ハ「向ウデ損ガ往クカラ、此方デ得ノ往クニ、埋合ハセレドモ、ハレタ、併ナガラ諸君若シ池田マデ、德島鐵道會社ガ止メ、國部マデ、先キ「工事ガ到底出來マセヌト云フ、同シク德島鐵道、池田ヨリ向フハ出來マセヌト、斯ウ云フコトキニ、ツレカラ向フノ分、工費ノ高イ分ハ、國家ガ引受ケテセンケレバナラヌ、安イ方ヘ初テ平均ヲ以テ、此二年デ出來ルモノヘ七年ノ利子ヲヤル、何ト諸君、德島鐵道ニ政府ハ特別ノ恩典ヲ與ヘルト言ハナケレバナラヌ、(大ヒヤト呼フ者アリ)本員共ハ決シテ地方論ハ吐キマセヌ、斯ウ云フ不都合ナル算盤ハ、私共同意ガ出來ヌ、是ガ諸君、舟戶ヨリ高知間ヲ併ナガラ之ヲ線路デ安イ所カラ漸次シテ往ツテ、ツレバ良イ所ガ引續イデ云フコトニシテ、後トノ分ハ出來マセヌト言ツタキニ、後ハ國家ガ引續イデヤラナケレバナラヌ、山ノ途中ニ「隧道ハ鑿ツテ往タケレドモ、軌道ハ敷クコトハ出來マセヌト、斯ウ云フヤウナ有様ニ、他日ナツタキニハ、當局大臣ハ責任ヲ帶ビナケレバナラヌガ、諸君モ無論責任ヲ帶ビナケレバナラヌト私ハ思ヒマス、斯ウ云フヤウナ補助ノ方法デ、又其外ニ他ノ山陽鐵道トカ、九州鐵道ハ一哩ニ附イテ二千圓補助スル、然ルニ單リ德島鐵道ハ三万四千圓、其外ニ開業全通シテ後ニ、三箇年ハ二十六万六千圓、特別ニ二十六万六千圓ヲヤル」ト云フコトデ、ツレハ先例ノナイ補助デアル、是モ亦諸君不都合ノ點ヲ發見シテ居ル、二十六万六千圓杯ト云フ算盤ハ、何カラ出タカ、斯ウ算シテ見ルト、此資本金ニ對スル三朱ノ利子デアル、三朱ノ利子ト云フコトヲ、政府委員ハ言ハレル、然ラバ二十六万六千圓ハ、會社ガ三朱ノ利ヲ得ル、又政府ノ方ガ三朱ヲ出ス、ツレバ二十六万六千圓ノ利益デナシニ、五十万圓利益ガ併ナガラ若シモ、其會社ガ二十六万六千圓ノ利益デナシニ、算盤ガ六朱ト云フコトヲ動かサヌト謂ヒツ、モ、一十六万六千圓請負デヤツテシマフノデ、ツレバアルカラ、斯ウ云フヤウナ特典ヲ、他ノ會社ニヤツテナイ、特典ヲ更ニ與ヘルノデ、是デモ諸君贊成シナケレバナラヌカ、斯ウ云フ特別ノ典ヲ特ニ與ヘルト云フコトハ、私共甚ダ怪シイと思フデアアル、又一度德島鐵道ニ是ダケノ補助ヲスルナレバ、他ニモ澤山アリマス、本員共ノ知ツテ居ル所デモ、此線路ヨリ多ク利益ナル、隨分工事費モ要ラナイ所ノ線路ガ澤山アラウト信ジテ居ル、然ルニ單リ此分ニ限リテ是ヲヤラウト云フコトハ、本員共ハ何ボ建議ヲシタト雖モ、斯ウ云フ不條理ノ方法デ、要求セラレドモ、公ニハ、私ハ贊成スルコトハ出來ヌト思フ、モウ少シ立派ナル方法ヲ以テ、公平ナル方法ヲ以テ、要求セラレバナラヌト思フ、既ニ鐵道會社諸君實際圖デ居ル所ノモノハ、何デアリマセウ、諸君、高野鐵道ノ有様ヲ御覽シタラ分ル、高野鐵道ハドウデアアル、五十圓拂込ダ高野鐵道ハ、今日唯デ吳レマス、豐川鐵道ハドウデアアル、債權ノタメニ差押ヘラレテ、運用ガ止ッ

テ居ルデアリマセヌカ、宜シク私設鐵道會社ニ許スト云フ以上ハ、其私設鐵道會社其モノガ、永ク續イテ營業シ得ルヤ否ヤト云フコトハ、政府トシテ考ヘテ行カナケレバナラヌ、無暗ニ願ッテ來タカラ、ツレバ許ス、運動シテ來タカラ許スト云フノハ、寧ろ無責任モ又甚シイと思ヒマス、先刻遞信大臣カラ、陸軍省カラノ意見書ヲ讀マレテ、軍事鐵道トシテハ四線モアル、第一等平ヨリ高知ニ至ル線路ハ、最モ急ヲ要スル線路デアアルト云フ要求ヲ、陸軍省ハセラレテ居ル、本員共モ其線路ハ無論速成ヲシナケレバナラヌ、國家ガ色々軍事上立テナケレバナラヌト云フコトハ、私共信ジテ居ル、然ルニ先刻本員カラ遞信大臣ニ向テ御尋ヲシタラバ、御答ガナカ、即チ德島ヨリ池田マデハ軍事上ニ、ドウ云フ關係ガアルト云フコトハ、意見書ニ一ツモ書イテナイ、諸君ハ地理ヲ御承知ナイカラ、或ハ此德島鐵道ノ分ヲ、成ル程池田ヨリ高知間ハ、軍事上ノ鐵道デアリマセウ、ツレハ大部分ハ無論高知ニ敷クコトガ必要デアアル、併ナガラ池田ヨリ德島ニ至ル間ハ、軍事上必要外ト云フコトハ、陸軍省ノ意見書ニハ書イテナイ、ツレバ殊更木デ竹ヲ接イダヤウナコトヲ以テ、地理ヲ知ラナイ所ノ諸君ヲ、胡麻化スニ至ツテハ、甚ダ無責任ト思ヒマス、先刻モ西原君カラ何カ私共ノ選舉區ニ、之ヲ繼ガヌカラ自分ノ方ヘ約束シテ居ル嫁サンヲ、鄰ニ取ラレタカラ、ツレバ口惜シイデ、嫁サンノ惡口ヲ言フト云フヤウナコトヲ仰シヤツタ是ハ大ナル誤デアアル、約束シテアル嫁サンナラバ是非其嫁入ヲ履行サセタイノデアル、ツレバ横取ヲシテ、嫁サンノ結納マデ行ッテ居ル嫁サンヲ、間男ヲシテ其嫁サンヲ取ルト云フニ至ツテハ、吾々ハ異議ヲ唱ヘルノ權利ガアルト信ジマス(ヒヤ)「又ハ同情ヲ表ス」ト呼フ者アリ「先刻西谷君カラ段々此案ヲ贊成スルニハ、建議ガアツタカラ、ドウデモ斯ウデモ贊成シナケレバナラヌト云フ、御論ガアリマシタ、平素西谷君ノ慎重ナル公平ナル西谷君ニ、不似合ト思ヒマス、建議ガアツタ所ガ、大體ニ就イテノ建議デアアル、ツレニ附イテノ方法ト云フモノハ、一般ニ公平ナル方針ト云フモノヲ定メテ、政府ハ宜シク此政府案トシテ出ス以上ハ、相當ノ公平ナル案ヲ備ヘテ、出サナケレバナラヌ、然ルニ今御話スルヤウナ算盤ニナル、不法ナル要求ニ對シテ、之ニ同意スルニ至ツテハ、是デモ建議贊成シタ腐レ縁ノタメニ、吾々ハ附イテ往カナケレバナラヌト云フコトニナツタナラバ、ナント諸君ドウデアリマセウ、既ニ諸君ヲ財政ヲ整理スルト云フコトヲ宣言ハ、既ニ天下ニ發表セラレテ、政府モ亦財政ヲ整理スルト云フコトヲ宣言セラレテ、其宣言ヲ踐斷スルノト、此建議ヲ腐レ縁デカラ仕方ガナイ、面白ウナイケレドモ贊成シヤウト云フニ至ツテハ、諸君職責ヲ全ウスルト云フハ、カ、甚ダ無責任ト云フ、宜シク斯ウ云フコトハ、公平ナル、冷靜ナル頭ヲ以テ、御判斷ナサイ、先刻江藤君カラモ、段々御話ノアリマシタ如ク、此算盤ノ濫發、此會期切迫ノ今日ニ追加豫算ヲ雨ノ如ク、頻ニ追加豫算、追加豫算ト云フデ、發布セラル、追加豫算ナルモノハ、國家ノ生存上最モ必要ニシテ、缺クベカラザルモノ、外ハ、追加豫算ハ要求ヲサセラレナイ、其會計法ノ改正案ハ、先日石黒君ノ御提出ニナツテ、本院デハ滿場一致デ之ヲ可決シテ、既ニ貴族院ノ議ニ上ツテ居ルデアリマセヌカ、追加豫算ハ宜シク國家生存上必要ナルモノ、外ハ出サナイト云フコトハ、本院ノ輿論デハナイカ、本院ノ輿論デ既ニ貴族院ニ在リマスノデ、法律案ト爲シテ居ル、是ハ建議案ヨリモ價值ガアルト思ヒマス、

諸君ハソレダケノ御熱心デハ、追加豫算ヲ容易ニ出サセナイ、又議サナイト云フコトヲ、諸君ハ此處デハ極デ置キナガラ、此分ハドウデアアル、此分ニハ默テテ官從スルニ至テハ、何カ其間ニ私共ハ大ニ疑ハネバナラヌト思フノデアアル、諸君ハ之ニ御賛成ニナルト云フ理由ガ分ラヌノダ俗ニモ言フ通、無理ガ通レバ道理引込ムト云フガ、誠ニ道理ガ引込シマウテ、吾ミガ幾ラ正論ヲ唱ヘヤウトシテモ、無理ヤリニ討論終結ト言フテ、チットモ吾ミニ言論ノ自由ヲ與ヘナイ、平素言論ノ自由ヲ熱望サレタ諸君デナイカ、其諸君ガ人ノ言論ヲ妨グテモ、己ノ目的ヲ達シナケレバナラヌト云フコトハ附イデハ、何カ、其間ニ邪ナルコトガアルト云ハナケレバナラヌ、又私ハ此財源ノ上ニ附イデモ、此事ハ反對デアアル、併シ此事ハ既ニ先刻島田君カラ、段々御演説ガアリマシタカラ、此財源ニ附イテ反對ト云フコトハ、最早私ハ述べマセヌ、要スルニ政府ノ方針ハ、十五萬圓ノ要求ヲセラレタ、鐵道ノ調査ヲスルト云フノデアアルカラ、一年間此案ヲ延スト云フコトデ、私ハ其意味ヲ以テ本案ニ反對致スノデアリマス、ドウカ諸君公平ニ御判斷下スツテ、本員ノ議ニ御賛成アラントコトヲ、希望致シマス

〔賛成々々〕ト呼フ者アリ

〔採決々々〕ト呼フ者アリ

○安藤龜太郎君(二十一番) 私ハ唯今ノコトニ附イテ質問致シマス

○議長(片岡健吉君) 質問ト云フノハ、何デスカ

○安藤龜太郎君(二十一番) 唯今ノ堀家君ノ御演説ニ附イテ質問致シタイ

〔採決々々〕ト呼フ者アリ

○西谷金藏君(二百八十一番) 質問ガアリマス、今ノ演説ニ附イテ質問ガアリマス

○議長(片岡健吉君) 西谷金藏君

〔採決々々〕ト呼フ者アリ

○西谷金藏君(二百八十一番) 私ニハ許サナイノデスカ

○議長(片岡健吉君) 許シテアリマス

○西谷金藏君(二百八十一番) ツレデハチヨット堀家君ニ質問フ致シマスガ、堀家君ガ御論ヲセラレザル前ニ當ツテ、反對ヲ致シマシタメニ、堀家君ノ御論ニ對シテ、私ノ考ヲ述べルコトノ出來ナカッタノハ、甚ダ遺憾デゴザイマスケレドモ、此場合議論ハ申シマセヌガ、唯堀家君ガ仰セラレルコトハ、事實ト間違フノデハナイカ、又實際ニ行フベカラザルコトデナイカト云フ疑ガアルタメニ、此疑問ヲ散ラステメニ、堀家君ニ二三ノ質問ヲスルノデアアル、第一番ニ、如何ニモ屈強ナル理由トシテ、一年延期スレバ調査ガ出來ルト仰セラレタコトハ、私ハ確ニ事實ニ違フト思フ、成ル程當年ノ議會ニ於テ、十五萬圓千圓ト云フ調査費ガ要求セラレテ、成立致シマシタガ、是ハ如何セン二期線ニ屬スル調査ハ、三十八年度マデニ終ルノデアアル、決シテ此三十五年一箇年ヲ以テ、此結了ヲシテ、満足ナル報告ヲ得ルコトガ出來ナイ、此場合一年送ツタトテ、決シテ堀家君ヲ満足セシムルコトハ、出來ナイト考ヘマス、殊ニ此二期線ノ中、調査ノ切迫シタルモノガ、尙ホ四國線ヨリ急ナルモノガアルト云フコトヲ、私共ハ存ジテ居ル、其點ニ對シテハ、堀家君ハ如何セラル、ノデアアルカ、モウ一ツハ、京都線ガ不結果ヲ見タノデアアルカラ、是モ不結果ヲ

見ルデアラウト云フコトハ、即チ京都線ハ補助モ何モナカッタ、助ケモ何モナカッタカラ、不結果ヲ見タ京都線ト雖モ、斯ノ如キ待遇セラレタナラバ、斯ノ如キ補助ヲ貰ッタナラバ、必ヤ堀家君ノ言ノ如ク、不結果ヲ見ナイ、是レ亦所存如何デアアルト云フコトガ、私ニハ分ラナイ、又堀家君ノ所論トシテ、此線路ニ到底私設會社ガ成就スベキモノデナイト、斯ウ仰セラレ、ニモ拘ラズ、當年ノシマヒニ完成シタ、七箇年ノ後、八年、九年、十年、三箇年ニ於テ、二十六萬圓ノ設計費ハ、或ハ不都合デアアルト云フコトハ、甚ダ遺憾シマセヌカ、成工シナケレバ此金ハヤラナイ金デアアル、是ニ向ツテ議論ヲ試ラレノハ、始ノ御意見ト違フノデハナイカ、私共ハ信ズル此工事ヲ成長スルノ難義ナルガ故ニ……

○工藤行幹君(百二十一番) 議論ヲスルノハ宜クナイ、質問デハナイ議論デアアル、議論ヲスルノハイカス

○西谷金藏君(二百八十一番) 私ハ此點ニ附イテ疑問ガアルカラ、堀家君ノ御答ヲ願ヒタイ

○堀家虎造君(二百九番) 西谷君ニ御答致シマス、成ル程三箇年四箇年ニ互ニ調査費デアアリマスルガ、斯ル急ヲ要スル、殊ニ軍事上軍務當局者カラモ、サウ云フ要求ガアルト云フコトデアアリマス、先日此本題ニ於テ遞信大臣ガ來ラレテ、本員ノ問ニ對シテ答ヘラレテ居ルノデ、調査費ヲ置イデアリマスカラ、來年度ニ於テ調査ヲシマススト云フコトハ、遞信大臣ガ答ヘテ居ルノデ、私ガ辯明スル必要ハナカラウト思フ、アナタガ御聽漏レタト思ヒマス、ソレカラ京都鐵道ノ補助ガナカッタト云フ御話、京都鐵道ノ補助ガナカッタノニ、德島鐵道ニ補助スルノハ、ドウカト云フ御尋ネノヤウデスカ

○西谷金藏君(二百八十一番) サウデハナイ、京都鐵道ノ成工シナカッタノハ……

○堀家虎造君(二百九番) 宜シイ、ソレナア京都鐵道ニナセ始カラ、補助ヲシナカッタカ、不公平ニナルデアアリマセヌカ、ソレカラ二十六萬圓ハ固ヨリ全通ノ後ニヤルノデス、全通ノ後ニヤルノデアアルケレドモ、二十六萬圓ノ算出ハ、三朱ノ利子ノ配當ノ割ニ當ルノデス、是ハ出來上ツタ後ノ話デア

○恒松隆慶君(二百二十四番) ドウカ採決ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 第四、第五、第六ハ、討論終結ト認メマス、是ニ附イテ一案毎ニ採決ヲ致シマスガ、始ノ第四ニナツテ居リマス、追加豫算ノ……

〔無名投票ニ願ヒマス〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 宣告ヲ御聽ナサイ、部分ニ依リマシテ、段々削除說ガアリマスカラシテ、是ハ甲號ノ歳入經常部カラ採決ヲ致シマス、是ハ起立ニ問ハウト思ヒマス、反對ガアリマスカラ、原案ニ附イテ採決ヲ致シマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、次ハ歳出臨時部ノ遞信省所管第一款第八項ニ附イテ採決ヲ致シマス、是モ原案ニ附イテ採決ヲ致シマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、次ハ第七款第七項及合計ニ附イテ採決シマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、次ハ乙號全部ニ附イテ採決ヲ致シマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通過シマス、後トヘ戻リマシテ、豫算ノ第一條第二條ニ附イテ採決致シマス、是モ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通過シマス、日程ノ第五、是ハ全部ノ反對デアリマスカラ、全部原案ニ附イテ採決ヲ致シマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、日程ノ六豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(「異議ナシ」ト呼ビ又「異議アリ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 是モ原案ニ附イテ採決ヲ致シマス、原案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、次ハ日程ノ第七、是ハ原案通過御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案ニ決シマス、次ハ議事日程ノ第八

(「政府委員大藏總務長官法學博士阪谷芳郎君演壇ニ登ル」)

○政府委員(阪谷芳郎君) 此中ニ大藏省ノ稅關ニ關シマスル經費ガ、經常臨時ニ於キマシテ一萬圓バカリ削減シテゴザイマス、金額ハ小サウゴザイマスガ、事柄ガ商工業ニ關係シテ居リマスカラ、一言御賛成ヲ求メテ置キマス、是ハ保税倉庫ノ費用デゴザイマシテ、此保税倉庫ハ元ト開港場ニ於テ、稅ヲ取ッテ居リマシタノデゴザイマスガ、保税倉庫法ニ依リマスト云フト、東京ナラ東京ノ市中ヘ物品ヲ持ッテ來マシテ、消費致シマスル場合ニ稅ヲ取ルノデゴザイマス、即チ此凡ソ百萬圓位ノ在庫品ノアリマス所ニハ、之ヲ許シマスノデゴザイマシテ、是ハ大變ニ商工業ノ便宜ト致スモノデゴザイマス、豫算委員會ニ於キマシテハ、東京ノ分ハ認メラレタノデアリマスガ、今一箇所ハ政府ニ於マシテハ、既ニ大阪京都アタリニハ出來テ居リマスガ、名古屋ニモ一箇所許シタイト云フ考モゴザイマシテ、希望者モアルノデゴザイマス、即チ名古屋ノ地方ニ居リマスル消費者ニハ、大關係ガゴザイマス、百萬圓ノ物品ニ對シテ一割ノ稅ヲ取ルト、二十萬圓ノ稅ガ港掛ッテ居リマス、其港掛ッテシマウモノヲ、保税倉庫ガ出來レバ、名古屋ノ町ニ持ッテ來テ、倉ニ貯藏致シマシテ、愈ソレガ紡績會社ナリ、其他消費者ナリノ手ニ渡ル時分ニ、稅ヲ取ルノデアリマスカラ、其結果名古屋ノ近傍ノ人達ハ、誠

ニ廉價ナル物品ヲ消費スルコトガ出來ルコトニナリマス、若シ是ガ委員會ノ通ニ決スレバ、高イ物品ヲ消費スルコトニナッテ、金額ハ小サウゴザイマスレドモ、事商工業者ニ關スルコトデアリマスカラ、此ノ如キ商工業者ヲ重ズル案ト云フモノハ、滿場一致ヲ以テ原案ニ復活サレンコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 中島祐八君

(中島祐八君演壇ニ登ル)

○中島祐八君(二百八十番) 諸君、私ハ此第二號ノ三十五年度ノ追加案ニ附キマシテハ、大藏省所管ノ第一款政務及鑛毒ノ調査費、陸軍省所管ノ第二款第二項步兵第二聯隊兵舍其他改築費、矢張陸軍省所管ノ第十二款步兵第五聯隊遭難者ノ諸費、ソレカラ農商務省所管ノ第九款第五回內國勸業博覽會諸費、此五ツノモノニ協賛ヲ與ヘマシテ、其他ハ悉ク否決シヤウト云フ積リデゴザイマス、元來此歲計豫算ナルモノハ、細大ノ經費ヲ漏サズ、悉ク總豫算ノ中ニ納メナケレバナラヌモノデアラウト考ヘル、サウ致シテ一目ノ下ニ、歲入出ノ現況ヲ瞭然タラシムルト云フコトハ、最モ肝要ナルコトデアッテ、又豫算ノ主義ノ上カラ申シテモ、豫算ノ主義トスル所ハ、蓋シ茲ニ在ルデアラウト考ヘル、ソレ故ニ此豫算編成ノ當時ニ當ッテ、豫メ知り得ベキ所ノ經費ヲバ、悉ク本豫算ノ中ニ納メテ、追加豫算ノ提出ト云フモノハ、勉テ避ケナケレバナラヌコトデアラウト考ヘル、然ルニ豫算ノ編成ノトキニ當ッテ、豫メ知り得ラル所ノモノヲモ、政略ノためデアアルカ否ヤハ知りマセヌケレドモ、故ラニ省イテ置イテ、追加豫算ヲ要求セラル、ト云フコトハ、甚ダ不當ナコトデアラウト考ヘル、此議會ニ追加豫算ノ提出サレマシタコトハ、夥シイコトデアアル、實ニ近來類似ノナイコトデアアル、確トハ記憶致シマセヌガ、第九議會ノトキデアリマシタカ、幾多ノ追加豫算ガ提出サレタコトガアリマス、此時ハ彼ノ戰後ノ結果ト致シテ、種々ナル新事業ノ計畫ヲセラレタコトデアリマスカラ、當時ノ事情已ムヲ得ナイコトガアル、然ルニ此當期ノ議會ノ如キハ、決シテ何モ特殊ノ事情ノアル譯デハナイ、然ルニ今日マデ吾々ノ手ニ接シタル所ノ追加豫算ノ數ヲ見マスト云フト、三十四年度ノ分ガ第六號デアアル、三十五年度ノ分ハ第七號デアアル、其外ニ二件フ所ノ豫算外國庫ノ契約、或ハ又各特別會計ノ豫算等ヲ數ヘ來リマスト、其數ガ殆ド三十二近イ程デアアル、實ニ追加豫算ノ送迎ニシテ急ガシイ程ノコトデアアル、併ナガラ是等ノ追加豫算ト云フモノハ、總豫算ヲ編成スルトキニ、其經費ガ當時豫知セラレナイモノデアアルナラバ、是レ亦已ムヲ得ナイコト云フコトモアル、併ナガラ此第二號ノ追加豫算ニ附イテ見マシテモ、幾多ノ經費ノ中ニ、其當時知ラレナイト云フ筈ハナイ、疾ニ疾ニ分リ切タル所ノ經費ガ澤山アル、ソレヲ總豫算ニ組込マズニ置イテ、今日此追加ヲ以テ求メラレルト云フコトハ、是モ甚ダ失當ノコトデアラウト考ヘル、且ツ聞ク所ニ據リマスレバ、此豫算ノ中ニハアリマセヌ、確ニ六號ノ追加豫算ト覺ヘテ居リマスガ、清國ノ公使館ノ建築ノ如キハ、既ニ一兩年前カラ其詮議ガアタタト云フコトデアアル、ソレヲドウ云フ都合デアルカ、是マデ提出セラレズニ置イテ俄ニ……

○議長(片岡健吉君) 殆ド散會ノ時間ニナリマシタガ、會期モ切迫ノコトデアリマスカラ、今日ハ少シ時間ヲ延シテハ如何デス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ時間ヲ延スコトニ致シマス

○中島祐八君(二百八十番) 一兩年前ヨリ此清國公使館ノ改築ノ議ハアツタト云フコトデアル、ソレハ是マデ提出サレズニ置イテ、俄ニ追加豫算ヲ以テ求メラル、ト云フコトハ、是ハ彼ノ日英同盟ノ此機會ヲ利用セラルト云フヤウナ、甚ダ公明正大ナ手段ヲ缺イテ居ルコトデアラウト考ヘル、且追加豫算ノ此金高ニ附イテ見マシテモ、三十四年度ノ追加豫算ガ、前期ノ議會ニ承諾スルヘタモノハ、姑ク除イテ、當期ノ議會ニ提出サレタモノハ、六百萬圓、三十五年度ノ追加豫算ヲ總計シテ見マスルト、一千二百萬圓ニ達スル、之ヲ總豫算ノ上ニ加ヘルト、二億九千萬圓、殆ド三億ニ近イ所ノ豫算デアアル、實ニ空前ノ大豫算ト謂ハナケレバナリマセヌ、一體此内閣ハ財政ノ整理ト云フコトヲ標榜サレテ居ル、近頃此議會ニ於テ大藏大臣ノ言ハレタコトニモ、豫算ノ上ニ財政整理ノ精神ヲ現シテ居ルト云フコトヲ言ハレテ居ル、然ルニ今日ノ實績ニ就イテ見マスルト、却テ反對ノ結果ヲ來シテ居リマス、併ナガラ此財政整理ナルモノハ、管ニ國費ヲ緊縮スレバ、ソレデアリト云フコトハ、云ハレナイ、歲計ヲ縮メレバソレデアリト云フコトハ云ハレナイ、併ナガラ斯ク數多ノ追加豫算ヲ發シテ、歲計ノ膨脹ヲ圖デハ、決シテ財政整理デアアルマイト、私ハ信ズルノデアアル、又此追加豫算ノ提出ノトキニ附イテ、調ベテ見マシテモ、既ニ是マデ決議ニナツタモノハ除イテ、今日此日程ニ載ッテ居ルモノ、竝ニ今委員ノ審査中デアリマス、マダ決議ヲ經ナイモノ、提出ノ時日ヲ見マスルト云フト(「簡短々々」ト呼フ者アリ)先月ノ二十日以後ニ提出サレタモノガ、總體デ十七件程アル元來豫算ト云フモノハ、行政各般ノ基礎根柢トナルモノデアリマス、是ガ審查ニハ相當ノ時日ヲ藉サナケレバナラナイ、就中彼ノ三號ノ追加議案ノ中ニハ、臺灣ノ事業費ノ如キガ要求サレデアアル、三十六年度ハ僅カ百二十萬圓デアリマスガ、今後九箇年ニ互ル大議案デアアル、決シテ此等ハ輕々ニ議決スベキモノデハナイ、然ルニ會期ガ差迫ツタニモ拘ラズ、斯ク數多ノ議案ヲ一時ニ提出サレタモノ、十分ノ審査ハ出來ルモノデナイ、議會ノ閉會ニ際シテ、斯ノ如キ多クノ追加豫算ヲ出スト云フノハ實ニ此議會ヲ輕視サレモノデアアル(「簡短々々」ト呼フ者アリ)故ニ私ハ簡易ノモノダケヲ除イテ、他ハ否決シタイト云フ意見デアリマス

○議長(片岡健吉君) 中島祐八君ノ修正說ニハ、定規ノ贊成ガアリマス

○議長(片岡健吉君) 贊成ノ方ハ起立シテ表セラル、ヤウニ——定規ノ贊成ハナイト認メマス

(政府委員陸軍總務長官中村維次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(中村維次郎君) 此際簡短ニ述ベテ置キタイ、固ヨリ深クハ述ベマセヌデゴザイマスガ(「無用々々」ノ聲起ル)朝鮮兵營ノコトニ附イテハ、京城ハ原案ヲ御贊成ヲ蒙ツタノデゴザイマス、ソレト同一ノ理由ヲ以テ、釜山ノ兵營ヲモ併セテ協賛ヲ得タイト思フノデアリマス、別段ニモ理由ハ述ベマセヌデゴザイマスガ、委員長カラモ述ベラレタノデゴザイマス、實ニ此見苦シイ所ノ兵營ニ居リマス、日本全體ノ威容ニモ關スルコトデアリマス、釜山ノ釜山ノ兵營モ協賛セラレコトヲ願ヒマス、モウ一ツハ靖國神社ノコトデゴザイマス、靖國神社ハ御承知ノ通戰死者ノ靈ヲ祀ル所デゴザイマシテ、

軍人ノ戰死ト云フコトハ、實ニ名譽トスル所デアリマス(「モウ宜シイ」簡短簡短」ト呼フ者アリ)戰捷ノ名譽ト云フモノハ、實ニ戰死者ノ功ニ歸サナケレバナラナイノデ、其戰死者ノ靈ヲ祀ル所ニ於テ漸ク(「無用々々」簡短々々」ノ聲起ル)拜殿ヲ建テタ位ノコトデアリマス、此處ニ十五萬圓ノ金ヲ出シテモ此功勞者ニ酬フルハ至當ノコト、思ヒマス、願ハクハ御贊成アラシコトヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 追加案ニ附イテ採決シマスガ、是ハ反對ガアリマスガ、豫算委員會ノ修正ニ附イテ採決シヤウト思ヒマス、豫算委員會ノ修正ニ同意ノ諸君ハ、起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、次ハ日程ノ第九

○議長(片岡健吉君) 是ハ原案通御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案ノ通決シマス、議事日程ノ第十

○議長(片岡健吉君) 原案通御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

軍人ノ戰死ト云フコトハ、實ニ名譽トスル所デアリマス(「モウ宜シイ」簡短簡短」ト呼フ者アリ)戰捷ノ名譽ト云フモノハ、實ニ戰死者ノ功ニ歸サナケレバナラナイノデ、其戰死者ノ靈ヲ祀ル所ニ於テ漸ク(「無用々々」簡短々々」ノ聲起ル)拜殿ヲ建テタ位ノコトデアリマス、此處ニ十五萬圓ノ金ヲ出シテモ此功勞者ニ酬フルハ至當ノコト、思ヒマス、願ハクハ御贊成アラシコトヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 追加案ニ附イテ採決シマスガ、是ハ反對ガアリマスガ、豫算委員會ノ修正ニ附イテ採決シヤウト思ヒマス、豫算委員會ノ修正ニ同意ノ諸君ハ、起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、次ハ日程ノ第九

○議長(片岡健吉君) 是ハ原案通御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案ノ通決シマス、議事日程ノ第十

○議長(片岡健吉君) 原案通御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案通決シマス

鑛業法案(政府提出貴族院送付)

第一章 總則

第一條

本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘及採掘並之ニ附屬スル選鑛及製鍊ノ事業ヲ謂フ

第二條

本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、鋅鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯鐵鑛、滿侖鐵鑛、砒鐵、磷鐵、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青及硫黃ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限ニ在ラス

第三條

本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ

第四條

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル

第五條

帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ設立シタル會社ニ非サレハ鑛業權者ト爲ルコトヲ得ス

第六條

本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス

第七條

本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行為ハ鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承認人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

本條ノ規定ハ鑛業ヲ出願セムトスル者及鑛業出願人並其ノ承繼人ニ之ヲ準用ス
第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督署長ニ届出ツヘシ其ノ届出ナキトキハ鑛山監督署長之ヲ指定ス
代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス
本法中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第七條 本法ニ於テ鑛夫ト稱スルハ鑛業ニ從事スル勞役者ヲ謂フ
第八條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十四條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
第九條 宮城、離宮、神宮及皇陵ノ周圍三百間以内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス
陸海軍所轄ノ城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス

前二項ニ掲ケタル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス
第十條 鐵道、軌道、道路、運河、河湖、沼池、堤塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物及建物ノ地表地下トモ其ノ周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可、所有者及關係人ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲シ又ハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十一條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス
第十二條 本法ニ於テ鑛業稅ト稱スルハ鑛區稅及鑛產稅ヲ謂フ
第十三條 第六章及第八章ノ規定ハ國ノ鑛業ニハ之ヲ適用セス

第二章 鑛業權
第十四條 鑛業權ハ物權トシ不動產ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第七百七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 鑛業權ハ不可分トス
第十六條 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的ト爲ス外他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十七條 試掘權ノ存續期間ハ鑛業原簿登錄ノ日ヨリ二箇年トス
第十八條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅、差押、假差押及假處分ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス
第十九條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續並第四十條及第四十一條ノ競賣ノ場合ヲ除ク外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長採掘ニ付テハ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二十一條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ鑛山監督署長採掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ツヘシ其ノ效力ヲ生セス
第二十二條 鑛山監督署長ニ於テ試掘出願地採掘ニ適スルモノト認メタル前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ採掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十三條 採掘出願地ノ位置形狀狀床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ
前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ採掘ノ出願ハ之ヲ許可セス

第二十四條 採掘出願地ノ位置形狀狀床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ採掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得
第二十五條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條 試掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス
第二十七條 採掘出願地出願ノ當時他人ノ採掘鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十四條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 採掘出願地他人ノ試掘出願地又ハ試掘鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ採掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ鑛山監督署長ハ試掘ノ出願ヲ許可セス又ハ試掘ノ許可ヲ取消スヘシ

第二十九條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ
鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ自ラ其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十四條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用セス
第三十條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ鑛業ノ價值ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セス

第三十一條 試掘出願地又ハ採掘出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ鑛山監督署長ハ之ヲ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ツヘシ

出願人前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム
本條ノ規定ハ第二十三條第二十四條第二十九條第二項及第三十四條ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第三十二條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付キ更ニ採掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重複スルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ採掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ採掘出願人同種ノ鑛物ニ付キ更ニ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

前二項ノ規定ハ第二十二條及第二十三條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用セシ

第三十三條 探掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルコトキ亦同シ

第三十四條 探掘權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルコトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關シテ協定ヲ經ヘシ

第三十五條 鑛區ノ訂正形狀ニ依リ鄰接スル他人ノ鑛區ニ掘進スルノ必要アルコトキハ鑛區ノ訂正形狀出願スルコトヲ得

第三十六條 第二十二條第一項第二十三條第一項第二十四條第二十五條及第二十六條第一項及第二十三條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲ササルコトキハ試掘權ニ付テハ鑛山監督署長探掘權ニ付テハ農商務大臣ハ之ヲ取消スヘシ

第三十七條 鑛區ノ設定アル場合ニ於テ第二十五條ニ依リ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルコトキハ豫メ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 鑛區ノ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルコトキハ試掘權ニ付テハ鑛山監督署長探掘權ニ付テハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 改正ニ付テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルコトキハ試掘權ニ付テハ鑛山監督署長探掘權ニ付テハ農商務大臣ハ之ヲ取消スヘシ

第四十一條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ鑛業原簿登錄ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セズ若ハ一箇年以上休業シタルコトキハ鑛業案ニ依ラスシテ探掘ヲ爲シタルコトキハ試掘權ニ付テハ鑛山監督署長探掘權ニ付テハ農商務大臣ハ之ヲ取消スヘシ

第四十二條 鑛業權者第七十條ノ命令ニ從ハサルコトキハ試掘權ニ付テハ鑛山監督署長探掘權ニ付テハ農商務大臣ハ之ヲ取消スヘシ

第四十三條 探掘權取消サレタルコトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ

第四十四條 抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ探掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十六條第一項及第三十七條ノ規定ニ依ル探掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 探掘權ハ前項ノ期日又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍ホ存續ス

第四十六條 競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

第四十七條 競買人ハ探掘權ヲ取消サレタル時ニ於テ探掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第四十八條 前條ノ規定ハ探掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルコトキ亦同シ

第五十條 探掘權者ハ施業案ニ依ルニ非サレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條 鑛山監督署長ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第五十二條 前項ニ依リ變更シタル施業案ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十四條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備ヘ置キ且其ノ複本ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十五條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十六條 試掘ニ依リテ得タル鑛產物ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十七條 鄰接鑛業權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付鑛山監督署長ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

第四十八條 第三章 土地の使用

第四十九條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第五十條乃至第五十二條及第五十四條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十一條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルコトキハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

第五十二條 前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ得

第五十三條 前條ノ規定ニ依ル測量又ハ檢査ノ爲必要アルコトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得

第五十四條 前項ノ許可ヲ得タル者障礙物ヲ除却セムトスルコトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十五條 鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルコトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ得テ直ニ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

第五十六條 前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ遲滞ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十七條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十八條 鑛業權者ハ左ニ掲ケタル目的ノ爲必要アルコトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 鑛鑛孔、坑口又ハ坑道ノ開穿

二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

三 鑛場又ハ製鍊場ノ建設

四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井、索道又ハ電線ノ開設

五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルコトキハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受クヘシ

鑛山監督署長前項ノ許可ヲ與ヘタルコトキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ

第五十九條 土地ノ使用三箇年以上ニ亙ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルコトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第六十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用井タル目的ニ供スルコト能ハサルコトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 土地ヲ使用又ハ收用スルトキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十八條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、墻柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生スルトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十條 第五十四條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムトスルトキハ土地所有者又ハ關係人ハ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケテハシ得ス

第六十一條 第五十四條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ

第六十二條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得

第六十三條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルトキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セサルトキハ鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第六十四條 鑛業權者、補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サス又ハ擔保ヲ供セサルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ノ使用ヲ拒ムコトヲ得

第六十五條 土地ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

第六十六條 土地ノ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケサルモハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條 土地ノ使用ヲ終リタルトキハ鑛業權者ハ土地ノ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セサルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シテ之ヲ返還スヘシ

第六十八條 先取特權、質權又ハ抵押權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受ケヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第六十九條 本章ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第七章 鑛業警察
第六十條 鑛業ニ關スル警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及鑛山監督署長之ヲ行フ

第六十一條 鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

第六十二條 鑛業權者ハ其ノ鑛山監督署長ハ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十三條 鑛山監督署長ハ探掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

第六十四條 鑛業權者ハ其ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十五條 鑛業權消滅シタル後一箇年間ハ農商務大臣及鑛山監督署長ハ第七十條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

官報號外 明治三十五年三月五日 衆議院議事速記第二十四號 鑛業法案 第一讀會

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第五章 鑛夫
第七十三條 探掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及使役ニ關スル規則ヲ定メ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケヘシ

第七十四條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

第七十五條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ依リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

第七十六條 鑛業權者ハ毎月二回以上期日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ

第七十七條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齡及就業時間並女子及幼者ノ工役ノ種類ヲ制限スルコトヲ得

第七十八條 鑛夫自己ノ重大ナル過失ニ因ラスシテ鑛業ノ爲負傷シ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫又ハ其ノ遺族ヲ救恤スヘシ

第六章 鑛業稅
第七十九條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス

第八十條 鑛業稅ハ鑛區稅ヲ課セス

第八十一條 鑛業稅者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅ヲ課セス

第八十二條 鑛區稅ハ鑛區一千坪毎ニ毎年四十錢トス但シ一千坪未滿ハ之ヲ一千坪ト看做ス

第八十三條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ

第八十四條 鑛區稅第一項ニ依ルモノヲ除クノ外探掘權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ

第八十五條 前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス探掘權ノ存續期間滿了ノ度ニ係ルモノ亦同シ

第八十六條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス

第八十七條 鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣之ヲ告示ス其ノ告示セサルモハ之ヲ檢定ス

第八十八條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ試掘ニ依リテ得タル鑛產物ノ處分並探掘權ノ讓渡及消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ

第八十九條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス

第九十條 收稅官吏ハ鑛業ニ關スル書類及物件ヲ檢査スルコトヲ得

第九十一條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各本稅百分ノ十五以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

第九十二條 前項ノ附加稅ノ外北海道、府縣及市町村ハ鑛業ニ對シ又ハ特ニ鑛夫、鑛產物、鑛區若ハ直接鑛業用ノ工作物、器具、機械ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得

第九十三條 前二項ノ規定ハ北海道及沖繩縣ノ區並間切島其ノ他町村ニ準スヘキモノニ之ヲ準用ス

第七章 訴訟
第九十四條 訴願訴訟及裁決

第九十五條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起

第八十八條 鑛業ニ關スル出願ノ許可又ハ拒否ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起

官報號外 明治三十五年三月五日 衆議院議事速記第二十四號 鑛業法案 第一讀會

五三一

スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十九條 第十條ノ承諾ヲ拒マレタル者及其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第九十條 鑛業權ノ取消ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十一條 土地ノ使用若ハ收用、補償金又ハ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十二條 處分又ハ裁決ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ本法ニ依リ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八章 罰則

第九十三條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十四條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス已ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス

第九十五條 第九條第三項若ハ第十條ノ規定ニ違背シテ鑛業ヲ爲シ若ハ鑛業ノ爲土地ヲ使用シタル者ハ第七十條若ハ第七十二條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十六條 第四十二條若ハ第四十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十三條第一項若ハ第七十一條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十七條若ハ第七十八條ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十七條 第四十四條乃至第四十六條、第七十四條又ハ第七十六條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十八條 第五十一條第一項ノ許可ヲ受ケシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百條 詐偽其ノ不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免レントシタル者ハ其ノ脱稅金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第一百一條 代理人、戶主、家族、同居者、雇人、鑛夫其ノ他ノ從業者ノ所爲ハ之ヲ鑛業權者ノ所爲ト看做シ本法ニ規定セル罰則ヲ鑛業權者ニ適用ス

本法ニ基ツキテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第一百二條 鑛業權者法人、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法人ノ代表者又ハ法定代理人ニ適用ス但シ民法第六條ニ依リ鑛業ヲ許サレタ

ル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百三條 本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第一百四條 本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ノ之ヲ廢止ス

第一百五條 鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス

第十六條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可及鑛業條例ニ依リ採掘ノ特許ハ採掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タサル鑛區ニ對スルモノニシテ期限アルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス

第十七條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ハ採掘鑛區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第十八條 鑛業條例ニ依リ採掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス

第十九條 第七十二條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十五年度分ノ鑛區稅不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第二十一條 明治三十五年度分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

第二十二條 第八十七條ノ規定ハ明治三十五年度分ノ稅ニ限り之ヲ適用セ

第二十三條 本法施行前ニ鑛業條例ノ罰則ヲ適用スヘキ所爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖其ノ罰則ヲ適用ス

第二十四條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十五條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ニ適用ス

第二十六條 鑛業條例ニ於テ訴訟又ハ行政訴訟ヲ許シタル事項ニ對シ本法ニ依リテ之ヲ提起スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ鑛業條例ノ規定ニ依ル

○恆松隆慶君(二百二十四番) 議長指名ノ十八名ノ委員ニ、付託ニナランコトヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 恆松君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ恆松君ノ動議ノ通ニ決シマス、次ハ議事日程ノ第十一

第十一 市町村會議員及市參事會員ニ關スル法律案(本院提出)

○尾崎行雄君(五十二番) 本案ハ貴族院ニ於テ修正ニナリマシタガ、遺憾ナガラ、本員ハ此修正ニ同意スルコトハ出來マセヌ、故ニ全部衆議院ノ決議通引展シテ、協議會ヲ求メルト云フコトノ動議ヲ出シマス

〔贊成々々〕ノ聲起ル

○田口卯吉君(二百五十七番) 本員ハ尾崎君ノ説ニ不同意デゴザイマスカラ
〔採決々々〕ノ聲起ル少シ意見ヲ述ベタイノデゴザイマス

〔無用々々〕遺ルベシ遺ルベシト呼フ者アリ

〔田口卯吉君演壇ニ登ル〕

○田口卯吉君(二百五十七番) 満場ノ諸君、屢、諸君ヲ煩シ申シマスガ、此條
項ハ實ニ東京市百五十万ノ人民ノ上ニ取リマシテハ、實ニ容易ナラヌ事柄デ
ゴザイマス、或ハ一時ノ感情ニ依ッテ(「ノウクヒヤクノ」聲起ル)人民ノ
休戚ニ關係ノアル事柄ヲ、勿卒ニ議ラセテナラバ、思フニ諸君ニ斯ノ如
キコトハゴザイマセヌデゴザイマセウガ、本院ノ面目ニモ關シ、人民ノ大ナ
ル痛ミテアラウト考ヘマス(「ヒヤク」然リ々々ト呼フ者アリ)市町村ニ於
テ金錢ヲ取扱ヒマス者ガ、市參事會若クハ町村ノ議員ニナリマスコトハ、是
ハ弊害ノアルコトヲ(「ウシナコトハナイ」又アル「ト呼フ者アリ」諸君大
阪等ニ於テモ、七十九銀行ノ古畑某ガ巨萬ノ公金ヲ取扱ッテ、市參事會員ニ
ナッテ、遂ニ其銀行ノ破産ヲシタコトガアルデハゴザイマセヌカ、東京市ニ
於テハ、今日ハ公金ガ二百三十万圓モアルノデゴザイマス、此金ガ皆銀行ノ
庫中ニアルノデゴザイマス、此金ガ即チ市會ヲ籠絡シ、市參事會ノ斯ノ如キ
收賄事件ヲ起ス大原因ト爲ルノデゴザイマス、就イテハ諸君ガ若シ此案ヲ否
決セラル、ナラバ、年々此議案ガ出ナケレバナナイコトデアル、願フニ今
日ノ市町村制ヲ御覽ナサレタナラバ、斯ノ如キ收賄事件ノ起ルノハ、皆此金
錢ニ關係ノアル事柄デアルト云フコトハ、諸君御承知デアリマセウ、幸ニ貴
族院ハ此案ニ對シテ、十分ニ東京市ノ事情ヲ察セラレテ、曩ニ(「無用々々」ノ
聲起ル、議場騒然)本院ノ委員ガ全會一致ヲ以テ修正シタル意見、即チ政友會
諸君ノ中ヨリ選出セラレテ居ル議員諸君ガ、全會一致ヲ以テ可決セラレタ
案、其當時委員タリシ北田君ガ發議セラレテ、全會一致ヲ以テ可決セラレタ
意見——其間一二ノ運動ト、又東京市ノ一部ノ議員ノ運動ニ依リ——決シテ
黨派問題デナイ、必シモ銀行員ハ、諸君能ク東京市ノ事情ヲ知ッテ居ルナラ
バ、銀行員ガ市參事會員ヲヤッテ居ルノデハナイケレドモ、一時ノ運動ニ依ッ
テ反對ヲ表セラレルト云フコトハ、餘リ諸君ハ感情ニ馳セラレテ居リハセヌ
カト思ヒマス、就イテハ私ハ貴族院ノ修正ヲ至當ト思ヒマスカラ、之ニ御贊
成アラントコトヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 採決致シマス、貴族院ノ修正ニ同意スルヤ否ヤノ採決
ヲ致シマス、貴族院ノ修正ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス

○尾崎行雄君(五十二番) 貴族院ノ修正ヲ否決シテ、本院ノ決議シタ通りニ
ナリマシタニ附イテハ、協議會ヲ開クコトデアリマスガ故ニ、協議委員十名
ヲ各部ニ於テ選舉シテ、之ヲ通算シテ、直チニ議長ノ手許マデ報告スルヤウ
ニ致シタイト思ヒマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 尾崎君ノ動議ニ附イテ採決致シマス、尾崎君ノ動議ニ
贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、ツレデハ協議委員ハ散會ノ後、各部

ニ於テ選舉サレテ、議長ノ手許マデ御報告アラントコトヲ望ミマス

○尾崎行雄君(五十二番) 直チニ選舉スルコトニ致シタイ

○議長(片岡健吉君) 今日ハ是ニテ議事ヲ止メテ散會致シマスカラ、ツレデ
ハ直グ選舉ヲ願ヒマス、報告ガアリマス

〔書記朗讀〕

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

第五回内閣勸業博覽會ニ關スル建議案

提出者 伊藤 德三君 恒松 隆慶君

前川 榎造君 秋岡 義一君

中野 廣太郎君 北田 豐三郎君

銀行資本金制限ニ關スル建議案

提出者 西村 眞太郎君 大三輪長兵衛君

雨森 菊太郎君 佐藤 伊助君

青木 正太郎君 佐藤 宗彌君

普通教育教科書中憲政ノ要旨編入ノ建議案

提出者 根本 正君 安藤 龜太郎君

市町村會議員ノ選舉人等級ニ關スル法律案外一件

委員長 稻垣 示君

酒造稅法中改正法律案

委員長 野尻 岩次郎君

癩病患者取締ニ關スル建議案

委員長 齋藤 壽雄君

角倉ノ以勳功追表ノ儀ニ關スル建議案

委員長 武石 敬治君

勅語普及ニ關スル建議案

委員長 鈴木儀左衛門君

鑛業法案

麻生 太吉君 大岡 育造君

高橋 九郎君 堀尾 茂助君

藤 金 作君 龍野 周一郎君

永田 佐次郎君 堀田 連太郎君

門馬 尙經君 金岡又左衛門君

深尾 龍三君 井上 角五郎君

大三輪長兵衛君

吉岡 直一君

安川 繁成君

福田 久松君

栗原 亮一君

石井 鼎君

三橋 四郎次君

脇坂 行三君

西村 淳藏君

高須賀 穰君

有村 連君

持田 若佐君

齋藤 卯八君

平岡 浩太郎君

高岡 忠郷君

安部井 磐根君

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)
貴族院令改正ニ關スル質問書
右成規ニ據リ提出候也
明治三十五年三月四日
提出者 根本 正
賛成者 浦野 錠平
外二十九名

貴族院令改正ニ關スル質問主意書

一政府ハ曩ニ衆議院議員選舉法ヲ改正セシニモ拘ハラス何故貴族院令ヲ改正セサルヤ

一明治二十二年二月勅令第十號貴族院令第五條ニ國家ニ勳勞アリ又學識アル滿三十歲以上ノ男子ニシテ勅任セラレタルモノハ終身議員タルヘシトアリ然ルニ同令第七條ニ依リ勅任議員ハ其定員ニ限リアルヲ以テ新ニ勅任スヘキ適任者アルモ之ヲ選任スルコト能ハス是レ任期終身ノ規定ハ徒ニ賢路擁塞ノ弊害タルヲ免レサルナリ依リテ第五條中終身議員タルヘシトアルヲ政府ハ其當ヲ失セリト認メ之カ任期ヲ制限スルノ意見ナキヤ如何

右速ニ確答アラントヲ望ム

○議長(片岡健吉君) 明日ノ議事日程ヲ御報告致シマス

議事日程 第二十四號 明治三十五年三月五日(水曜日)

午後一時開議

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 第一 登錄稅法中改正法律案(政府提出) | 第一讀會 |
| 第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 | |
| 第三 市町村會議員ノ選舉人等級ニ關スル法律案(貴族院提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第四 郡費分賦ノ件ニ關スル法律案(貴族院提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第五 河川法中改正法律案(奧繁三郎君提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第六 岐阜縣下郡界變更法律案(市岡政香君提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第七 酒造稅法中改正法律案(恒松隆慶君提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第八 營業稅法中改正法律案(加藤六藏君提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第九 不動産登記法中改正法律案(浦野錠平君提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第十 年齡計算ニ關スル法律案(持田若佐君提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第十一 戶籍法中改正法律案(宮原幸三郎君提出) | 第一讀會ノ續(委員長報告) |
| 第十二 民法中改正法律案(安部井磐根君提出) | 第一讀會 |
| 第十三 救貧法案(安藤龜太郎君提出) | 第一讀會 |
| 第十四 癩病患者取締ニ關スル建議案(齋藤壽雄君提出) | (委員長報告) |

- | | |
|--|---------|
| 第十五 角倉了以勳功追表ノ儀ニ關スル建議案(小橋治君外四名提出) | (委員長報告) |
| 第十六 太麻頰布ニ關スル建議案(福島一造君提出) | |
| 第十七 皇祖神武天皇御陵並橿原神宮御大前及御陵道改修費補助ニ關スル建議案(瀨口歸一君外三名提出) | |
| 第十八 不要存置林緣故拂下方法ニ關スル建議案(西村真太郎君外二名提出) | |
- 議長(片岡健吉君) 本日ハ是ニテ散會致シマス
午後六時十五分散會